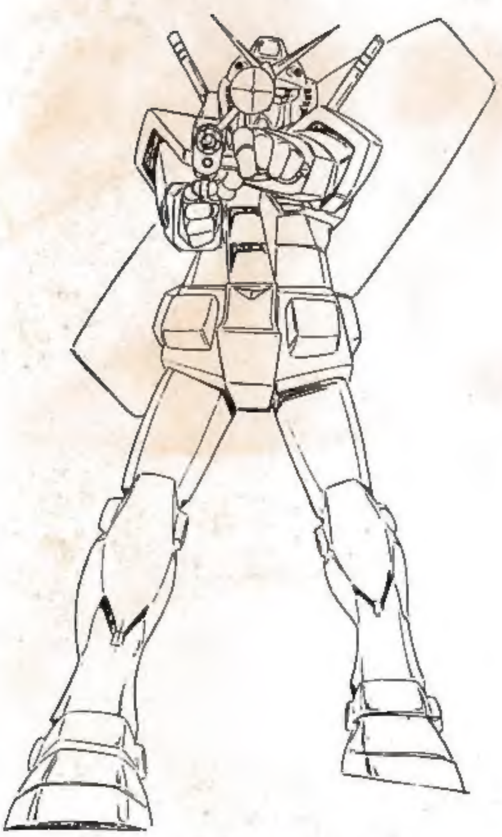
THE COMPLETE BOOK OF GUNDAM



Animage '87年12月号ふろく



THE COMPLETE BOOK OF GUNDAM

CONTENTS

はじめに —— 6
メモリアルショットOFガンダム —— 8
ガンダム用語の基礎知識 —— 21
ガンダムストーリーダイジェスト&設定資料集 —— 27
ガンダム雑学フォーラム —— 53
劇場3部作紹介 —— 58
新作劇場版情報 —— 61
スタッフリスト —— 69
おまけ♥ニュータイプ3人娘シール —— 3

編集ＳＴＡＦＦ　■構成・執筆／岸川靖、永島収　■編集協力／田中久美子・中村学　■レイアウト／ＴＥＮ♠Ｇ　■フィニッシュワーク／パンアート　■表紙レイアウト／ＴＥＮ♠Ｇ（真野薫）■表紙原画／仲盛文　■セル仕上げ／桑畑恵子

©創通エージェンシー／サンライズ



ニュータイプ3人娘SEAL

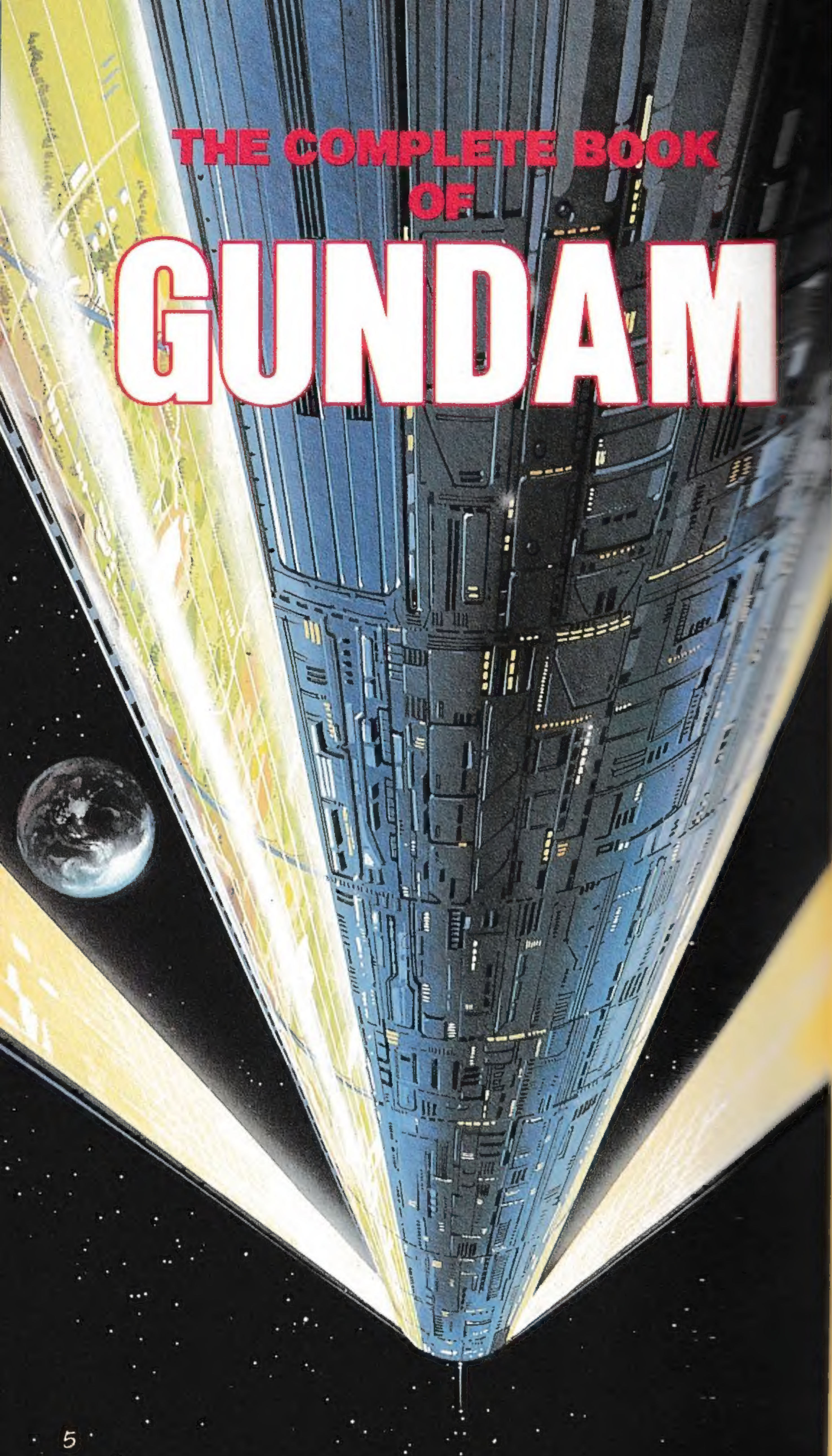


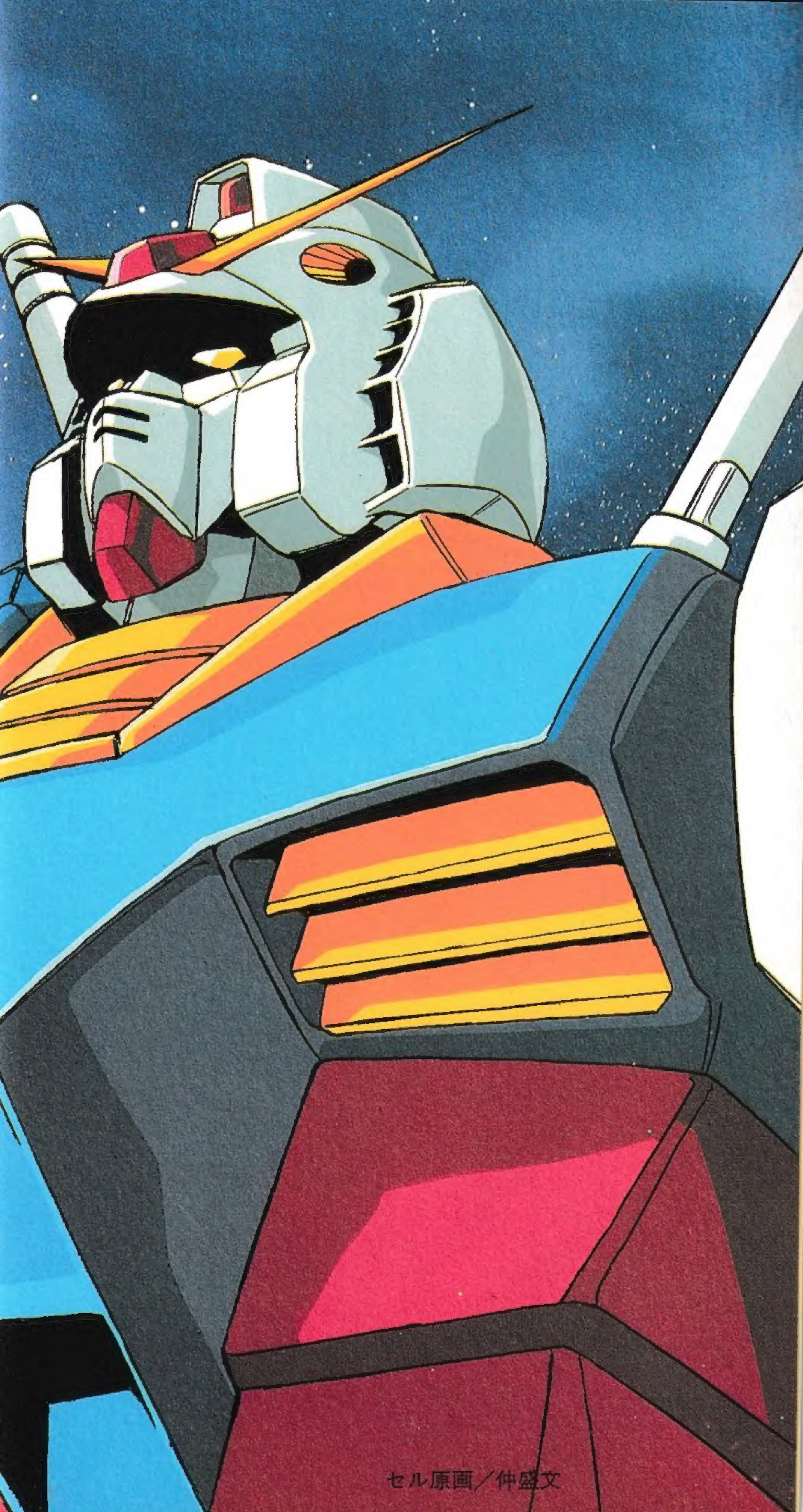






THE COMPLETE BOOK OF GUNDAM



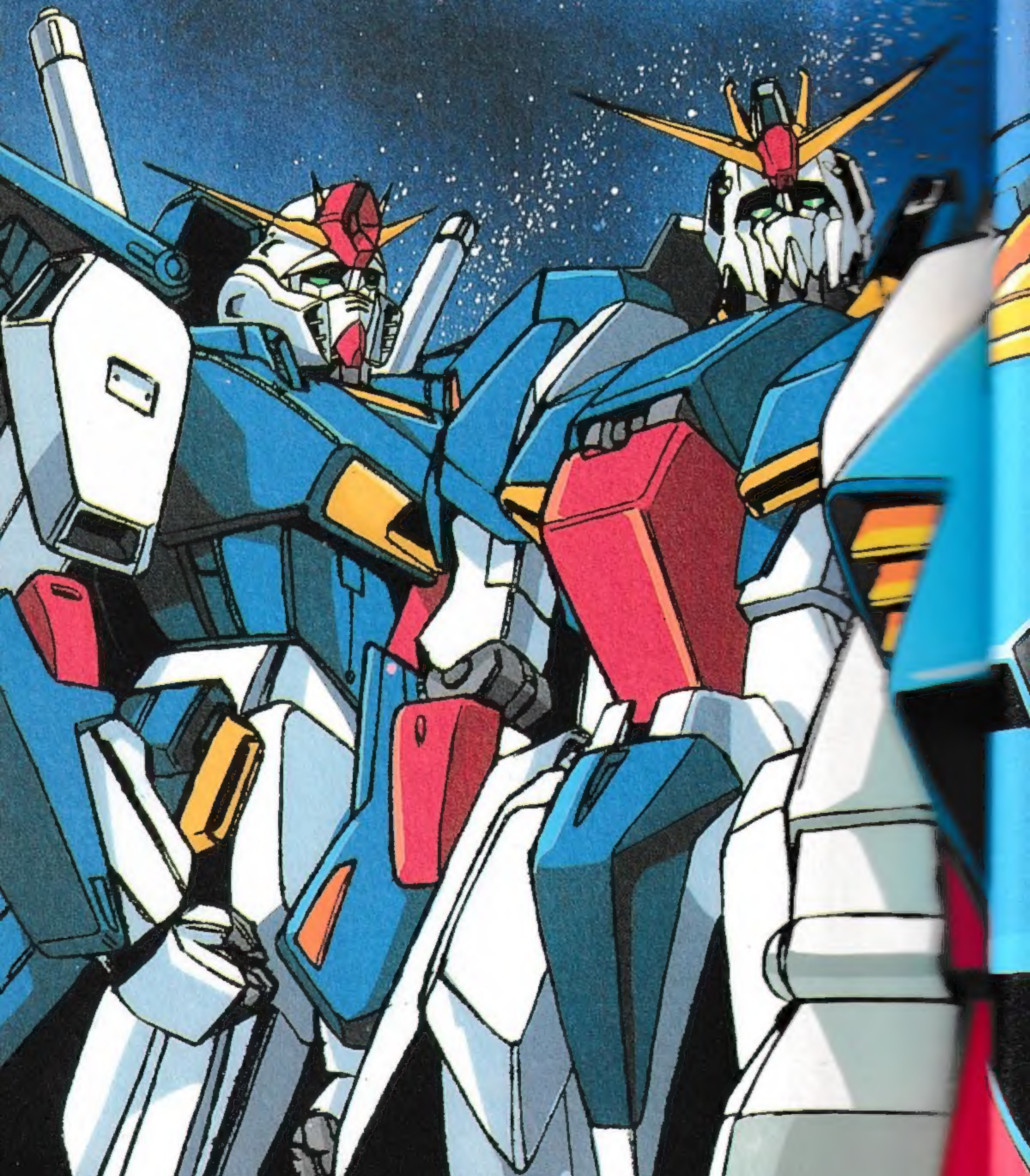


セル原画／仲盛文

Welcome to
GUNDAM WORLD

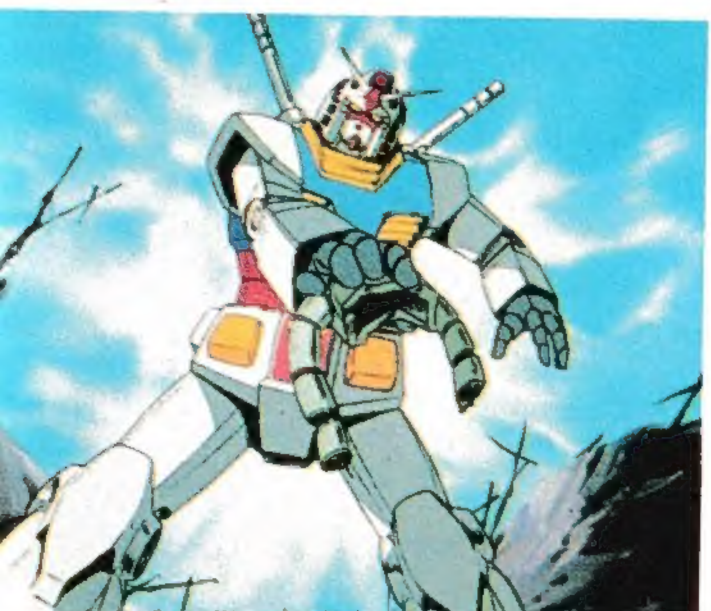
ガンダムの魅力とは、シリアスな設定、洗練されたメカニックデザイン、魅力的なキャラクター。それら、作品世界を構成する要素ひとつひとつが有機的にからみ合い、結晶化したものが“ガンダムワールド„なのだ。

　きたるべき'88・3月新作映画公開を前にもういちどそれらのエッセンスをここに集合させてみた。





世紀0079年、サイド3はジオン公国と名乗り地球連邦に対し独立戦争をはじめた



力なパワーで、3機のザクを撃破！



少年アムロの、戦士への目覚めであった



サイド7へ奇襲をかけるザク



操縦マニュアルを読むアムロ



ガンダム、大地に立つ！





赤い彗星と異名をとるジオンのシャアとアムロの長い戦いも、ここからはじまった



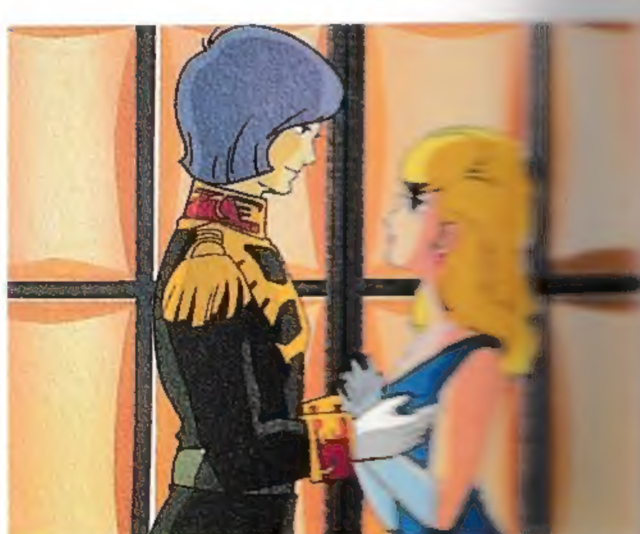
シャアの陰謀に散っていくガルマ



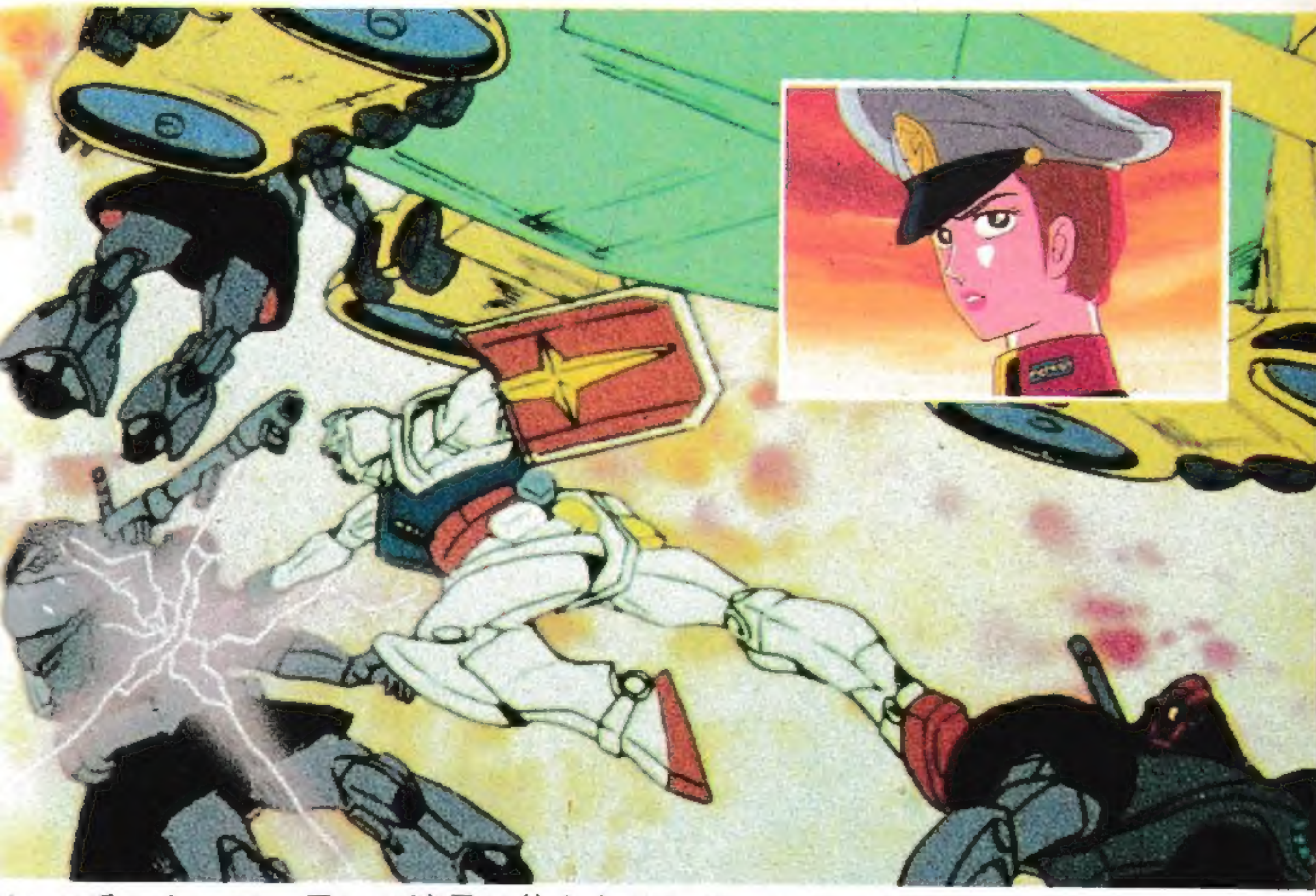
アムロたちの乗る、ホワイ



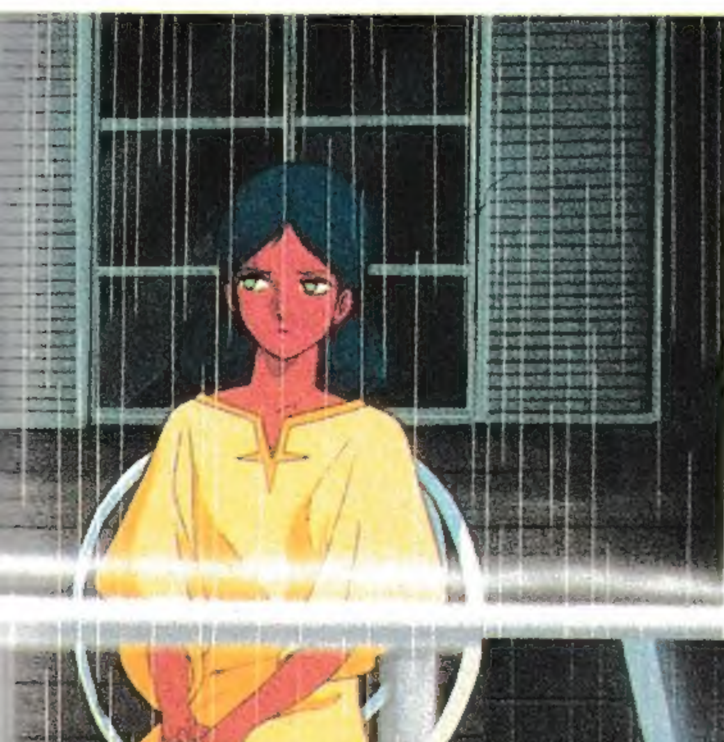
ザビ家へのシャアの復讐の第1歩……



ガルマへの恋に生きる女、



ダムの盾となって、黒い三連星に体あたりして、マチルダ死亡





敵と味方に別れてしまっていた兄妹、シャアとセイラ。ふたりの思惑は、それぞれちがった方向を目指していた

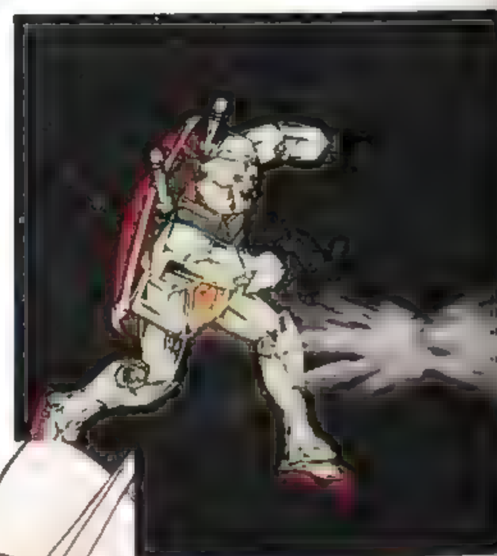


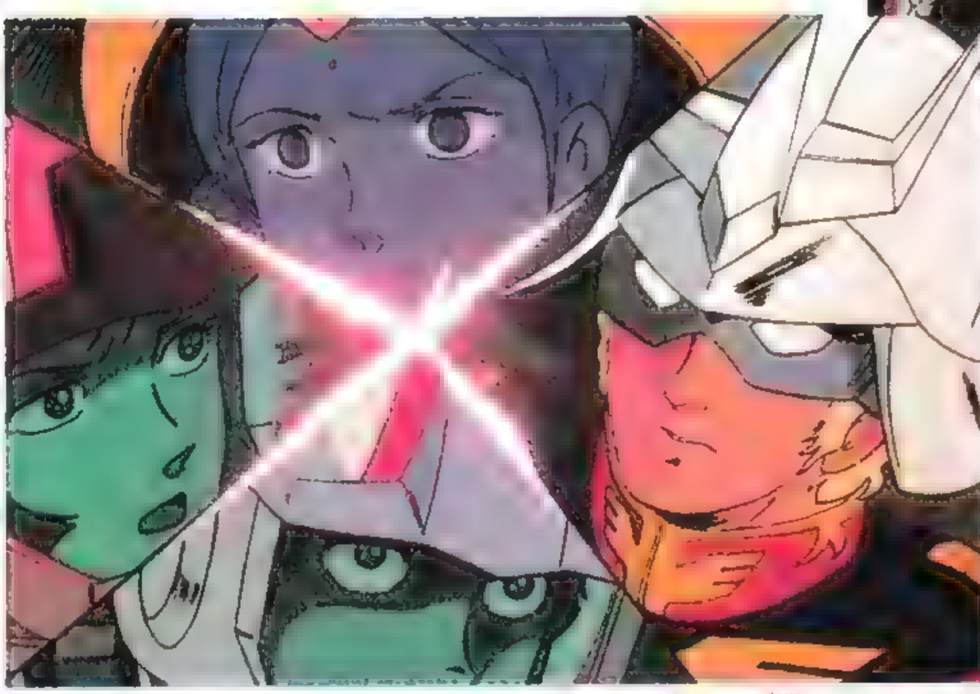
いものが、きらいな人が
…」アムロとニュータイ
女、ララァとの邂逅。彼
出会いにより、アムロも
タイプとしての能力を目
せるのだった



シャアのもとで戦士となり、ララァは出撃する

覚醒して常人以上の
ちはじめたアムロの
前には、すでに敵は





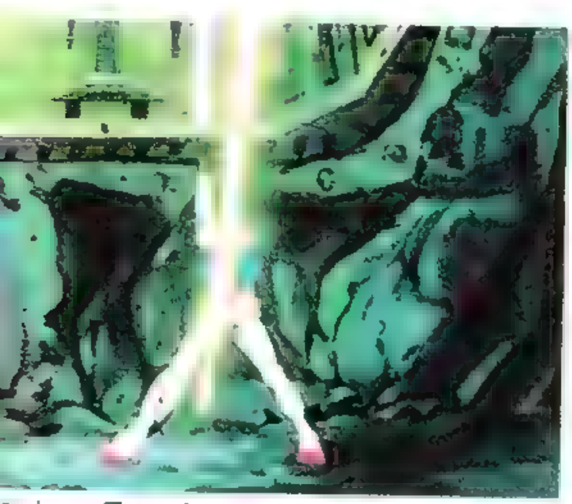
戦場で相まみえる４人。すでに彼らの戦いは個人のものだった



「ああ、アムロ！　刻が見える……」シャアをかばった
ムロと心をつなげた。彼女はこれ以後、ふたりの心を



ぼう、ジオンの総帥ギレンは妹のキ
アの手によって殺された





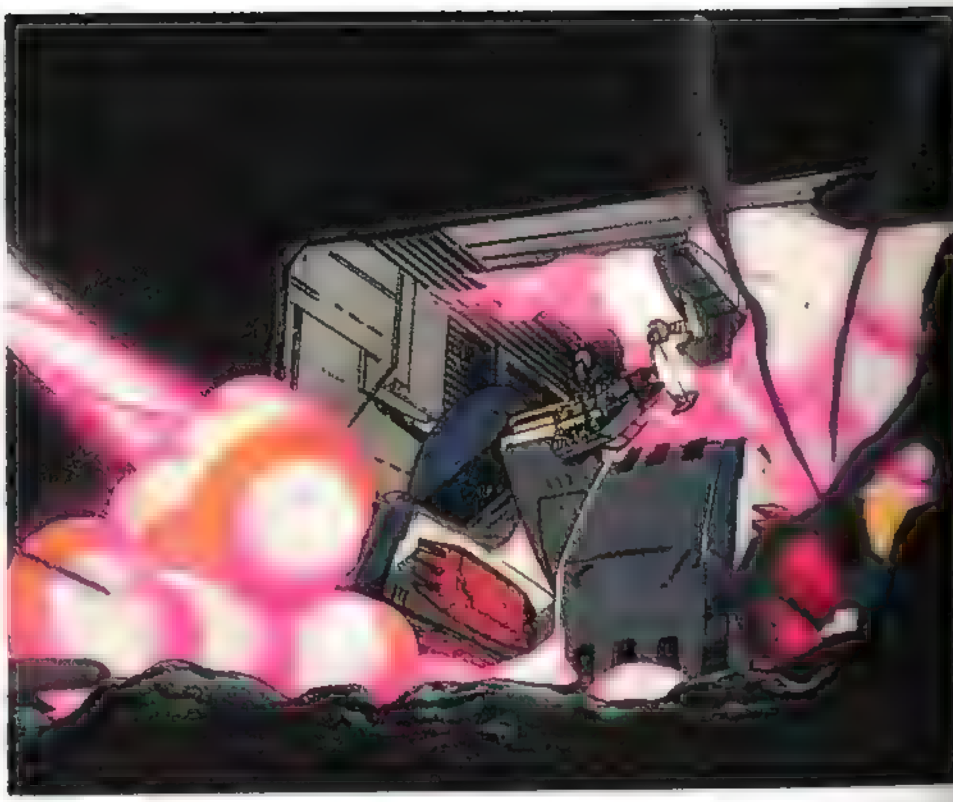
ジオンの最終防衛線ア・バオア・クーで
連邦対ジオンの戦いも終局をむかえる

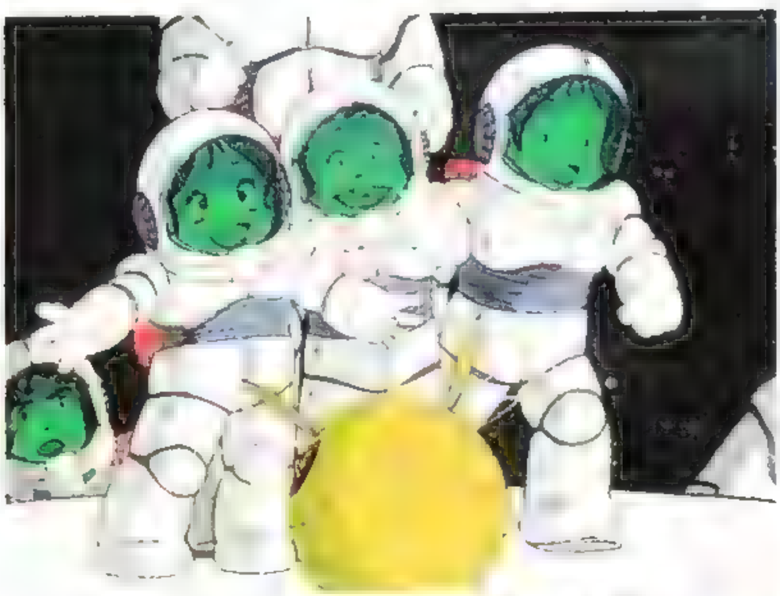
ム、ラストシューティング!!



とアムロは私怨で生身の戦いを繰り広げる。その最中、ララァがふたりの意
なげた。

ア・バオア・クーに強襲したホワイトベースも沈む。しかし、直前にアムロのよびかけでクルーは脱出

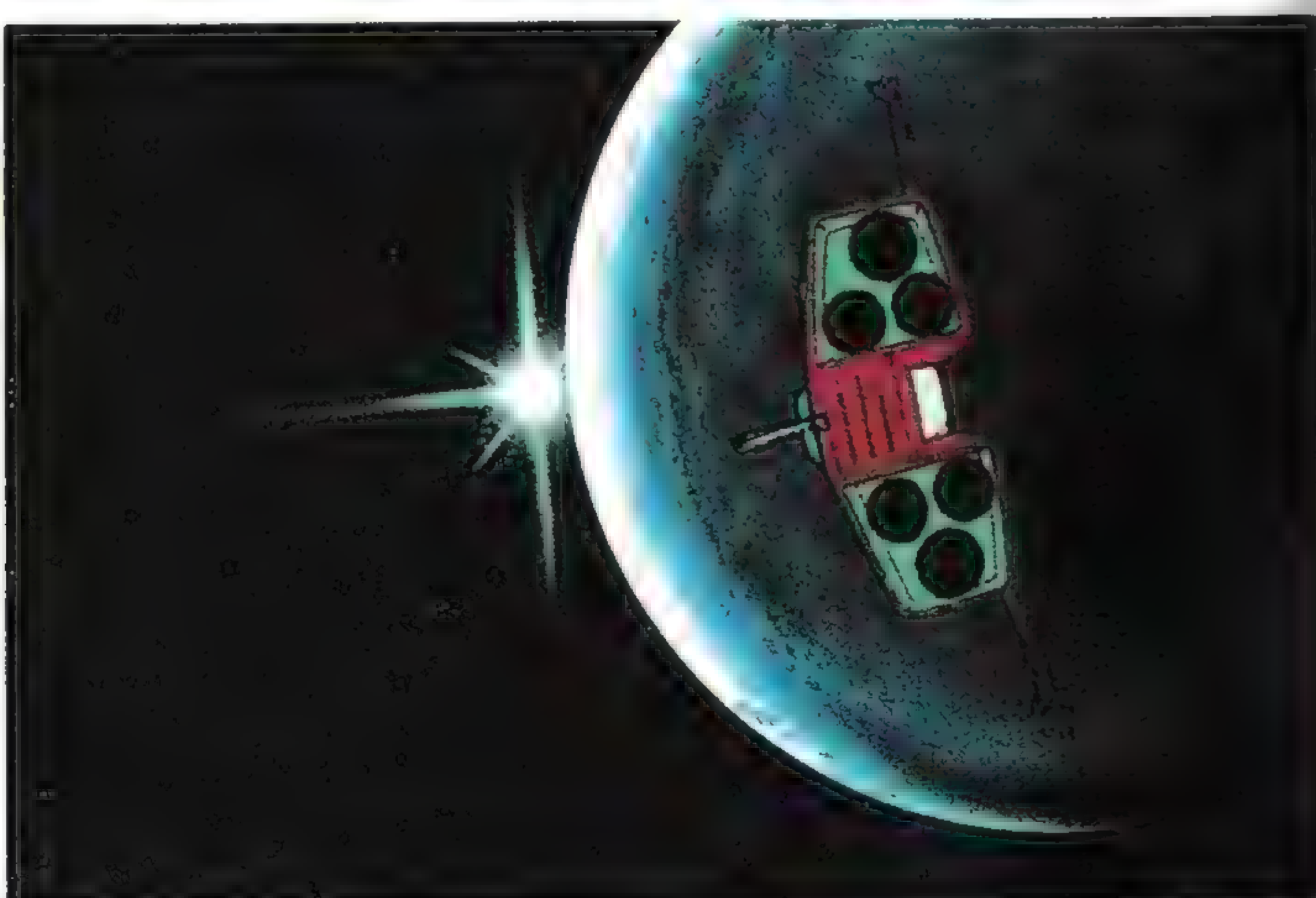




すでに次代をになう子どもたちは目覚めていた

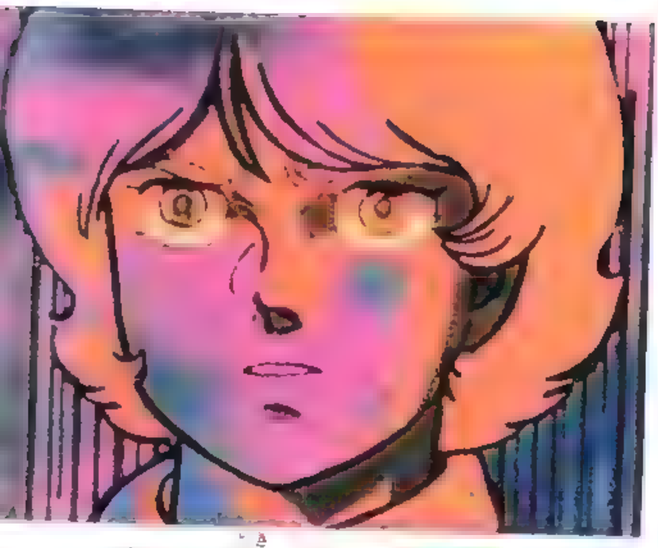
「ララァには、いつでも
ら…」キッカたちのよび
ムロも脱出！



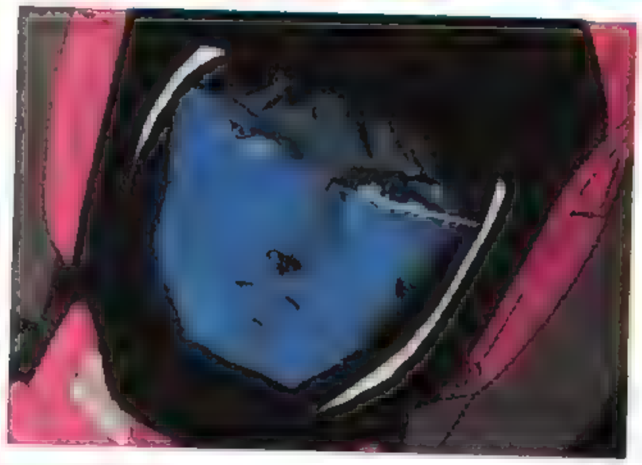


宇宙世紀0080年。地球連邦政府とジオン共和国のあいだに終戦協定

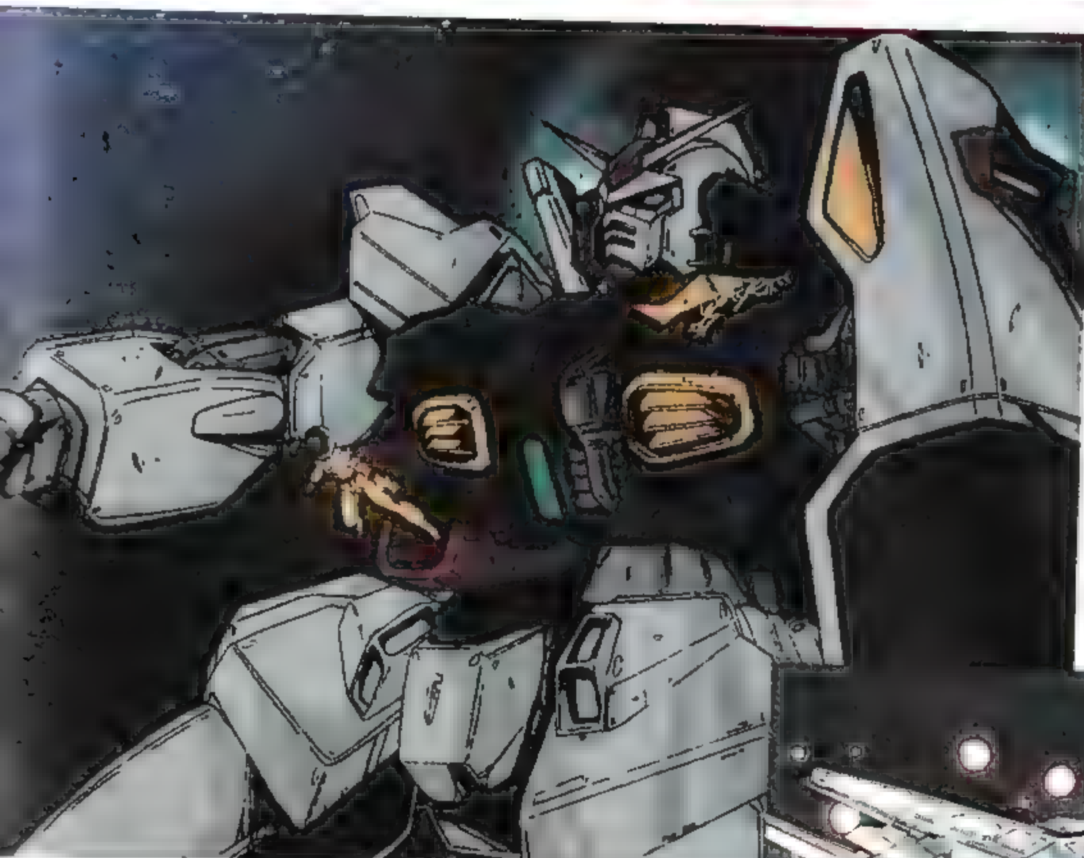
Zガンダム



ーユ・ビダン。刻の涙を見つづけた少年



7年を経て、シャアが再び立った



主役ＭＳとなったガンダムMk-II



シャアたちの乗るエウーゴのアーガマ

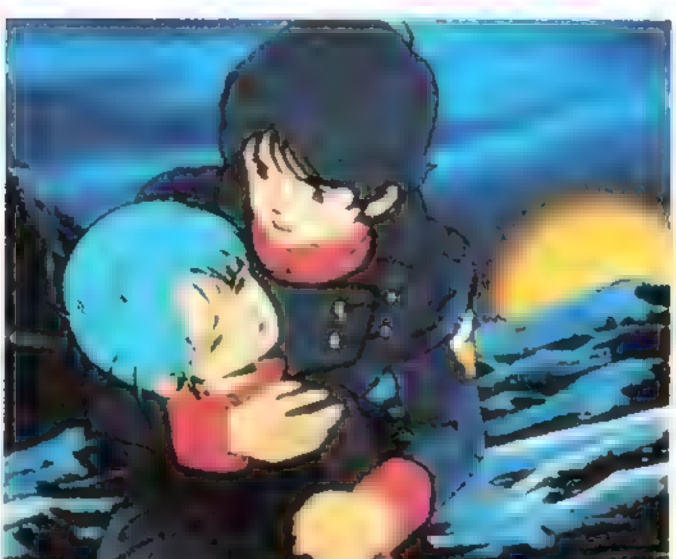


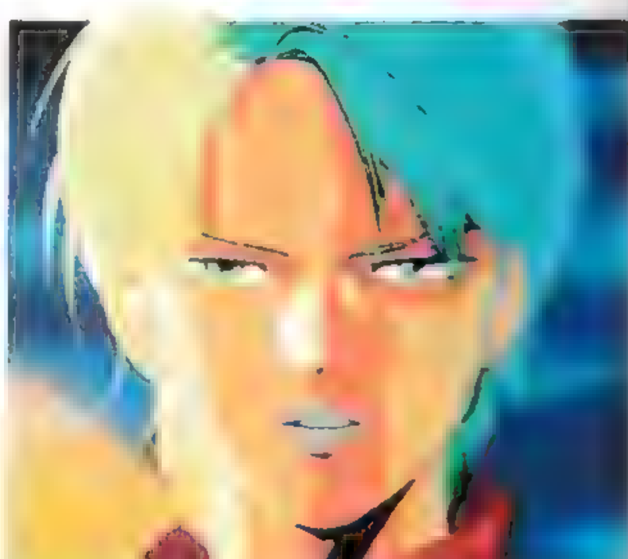
カミーユ自身が設計にくわわった、変型ＭＳであるＺガンダム


彼は彼女からこの戦争の本質を知る


フォウの哀しみはカミーユを

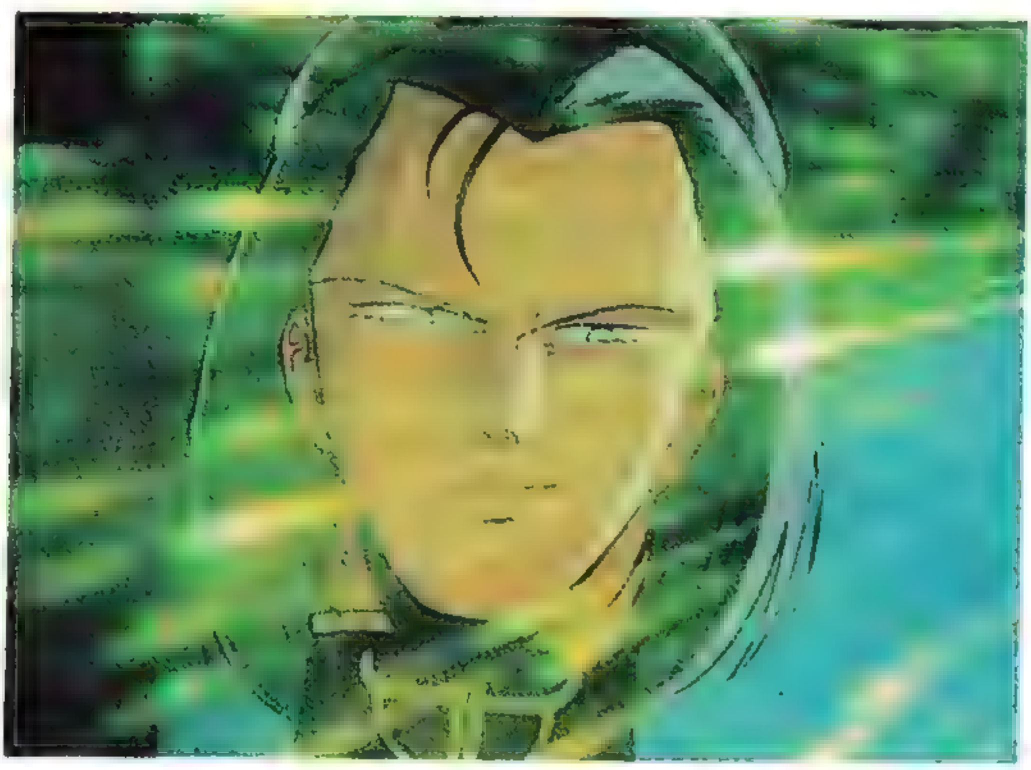

再会を果したふたりは、互いを求めあうが…


そして、彼女もまた生命を散らす…

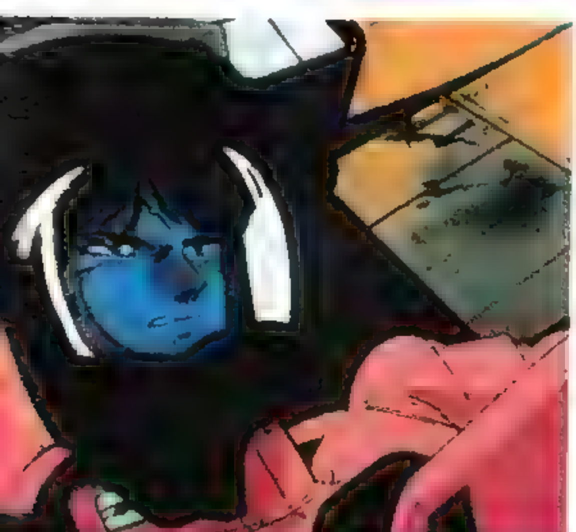

すでにフォウは精神改造を



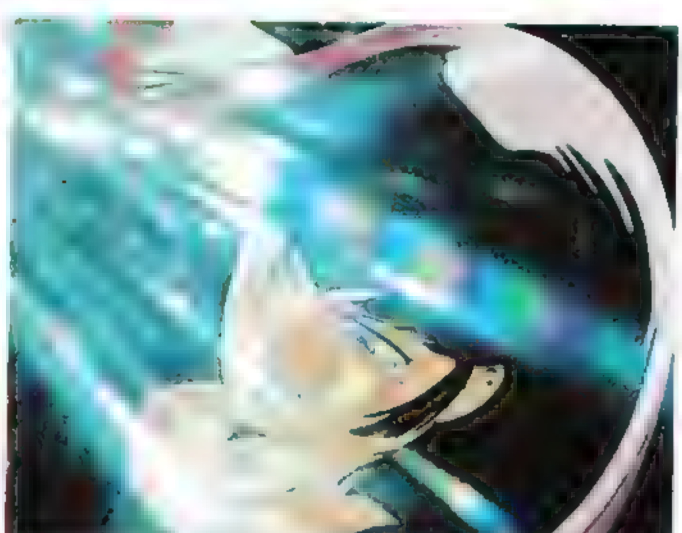
ーゴ、ティターンズ、アクシズの戦争はコロニーレーザー砲を巡る戦いへ



異常な出生によ
、かたよった
ニュータイプで
あったシロッコ。
彼は地球を手に
入れようとした



終わらんよ！」シャアは再び去



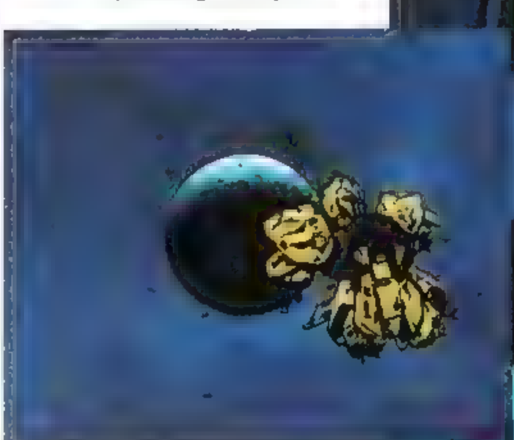
シャアを求めつつ、彼と戦うハマーン



ひとり、カミーユは自分の心を崩壊させながらもシロッコを倒した

キャパシティーを超えてまで戦った彼の精神の再生には、つぎなる者、ジュドーの出現をまたねばならない



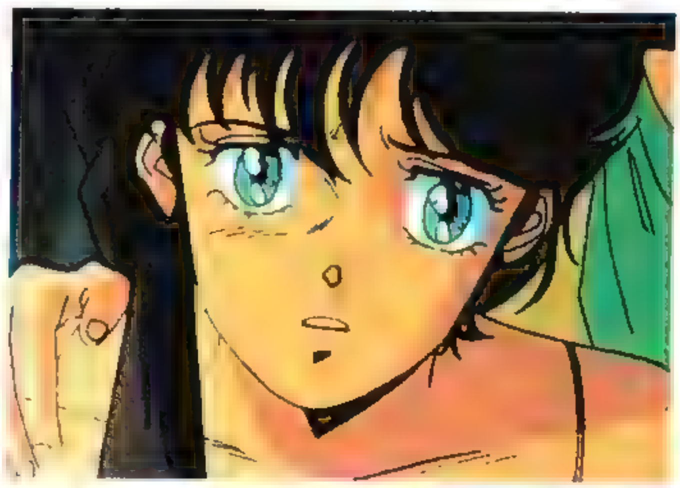


ガンダムZZ



生まれ、宇宙で育った少年、ジュドー。彼は新たな“戦う者”となる

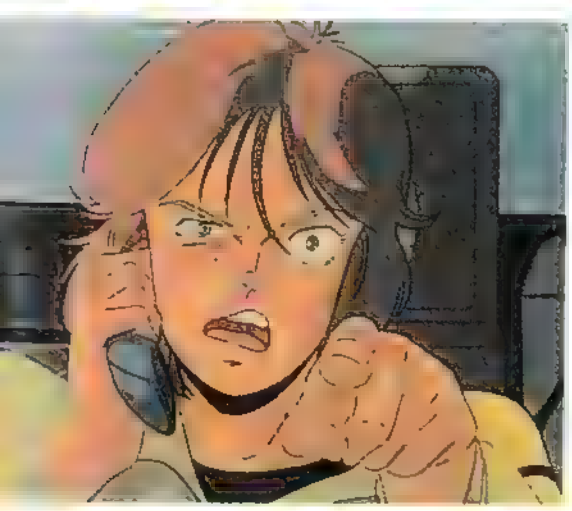


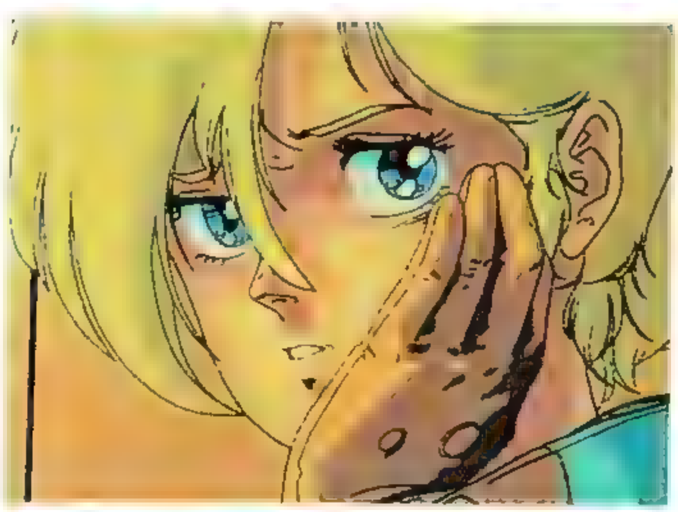










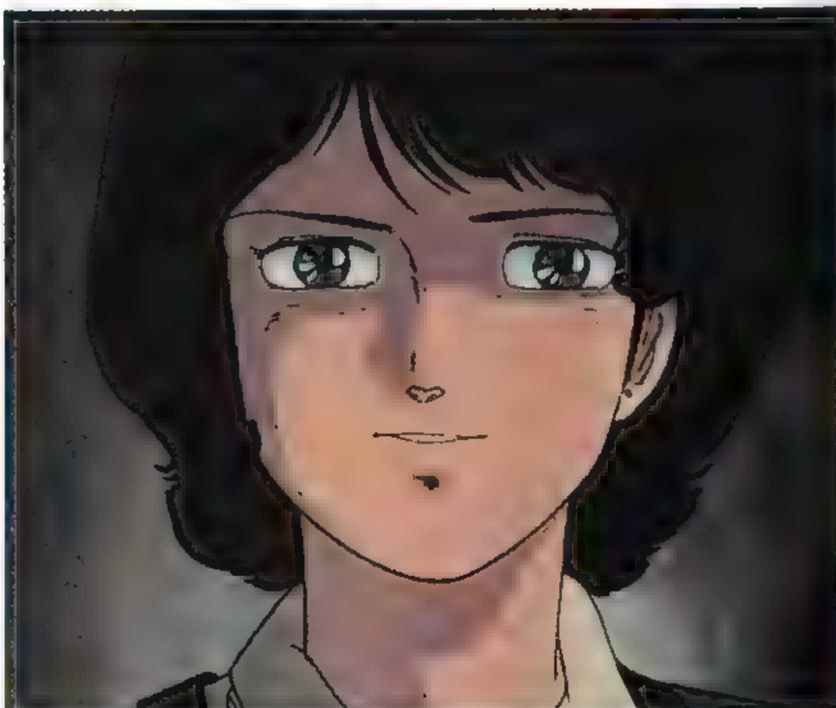


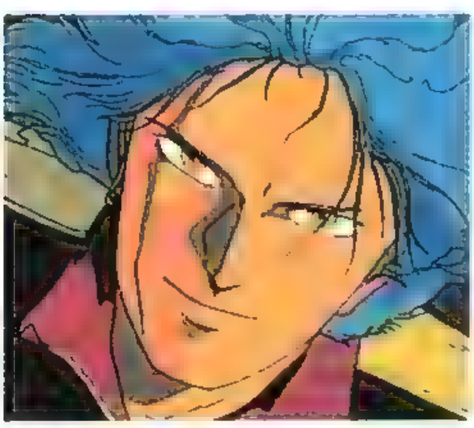
ーと一緒に戦う仲間たちは、いままでよりもさらに若い少年少女たちだった



強大なパワーと火力を誇る、
合体変型ＭＳ、ＺＺガンダム

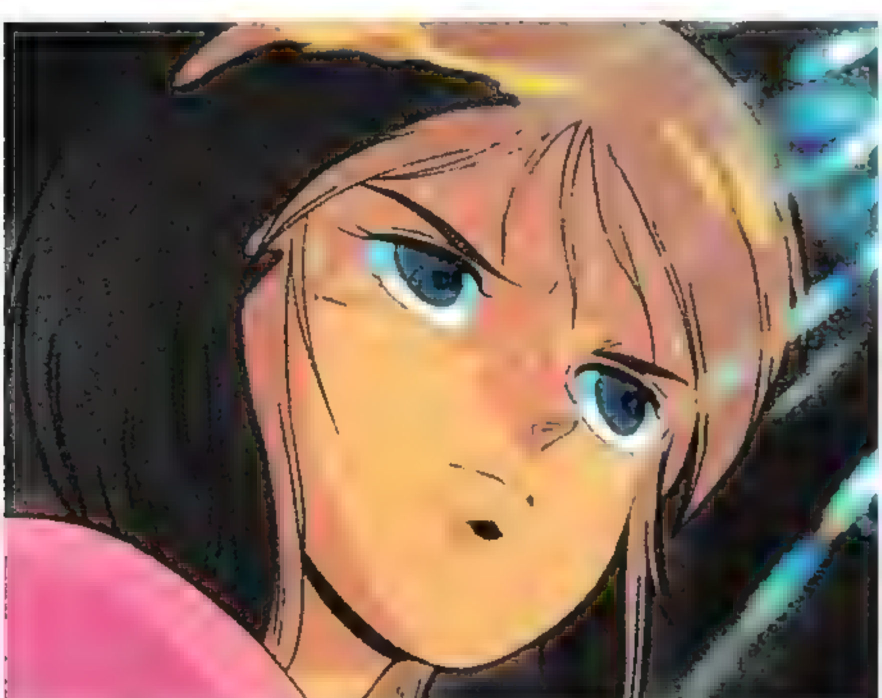
カミーユは戦いのなかの哀し
みをジュドーへと伝える





敵、アクシズのマシュマー

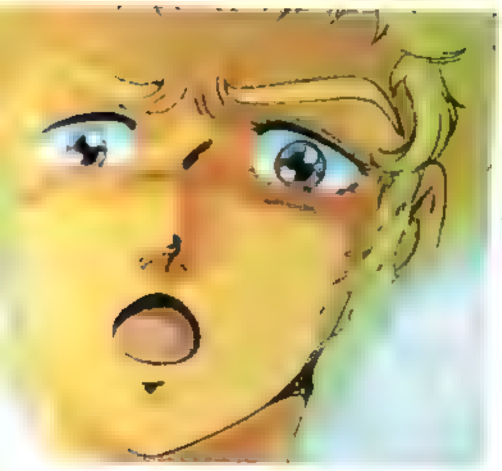
そして彼も再び精神を取り戻す



ギレンのクロー
いたいけな少女で

プルと同じクロー

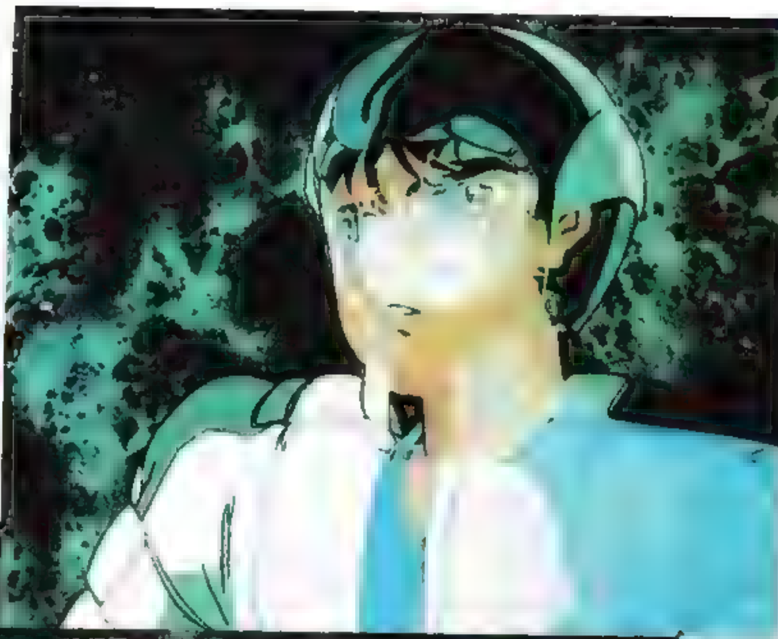


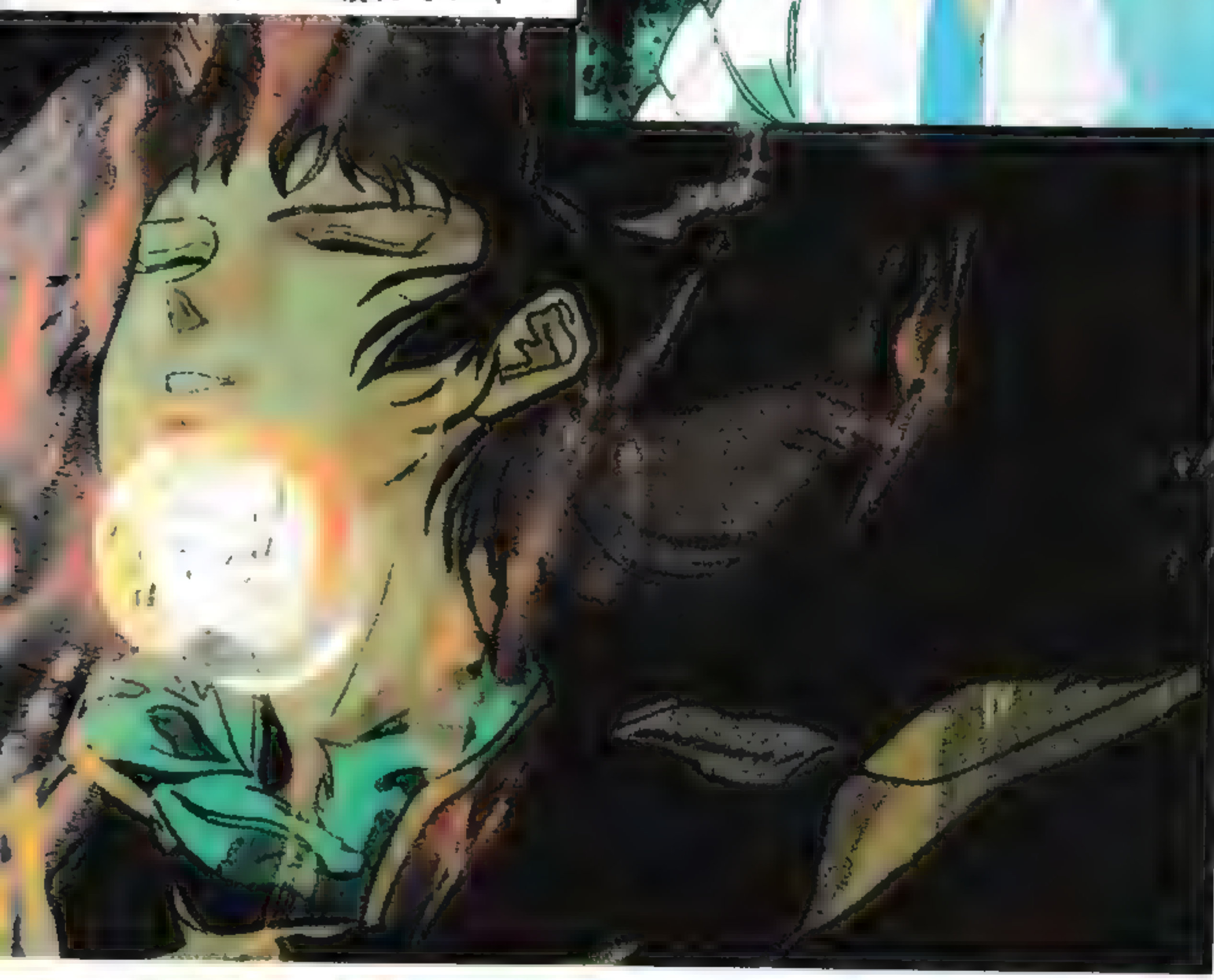


グレミーを倒す

おのれの心のなかのさびしさ
ながらジュドーに破れていく

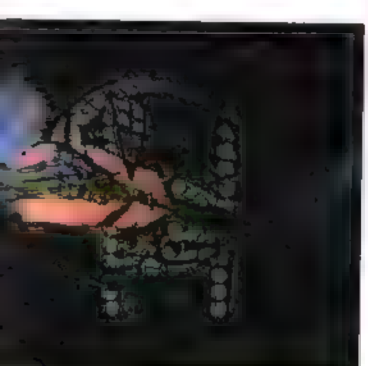
ジュドーの怒りが戦いを終わらせた







を見送る仲間たち



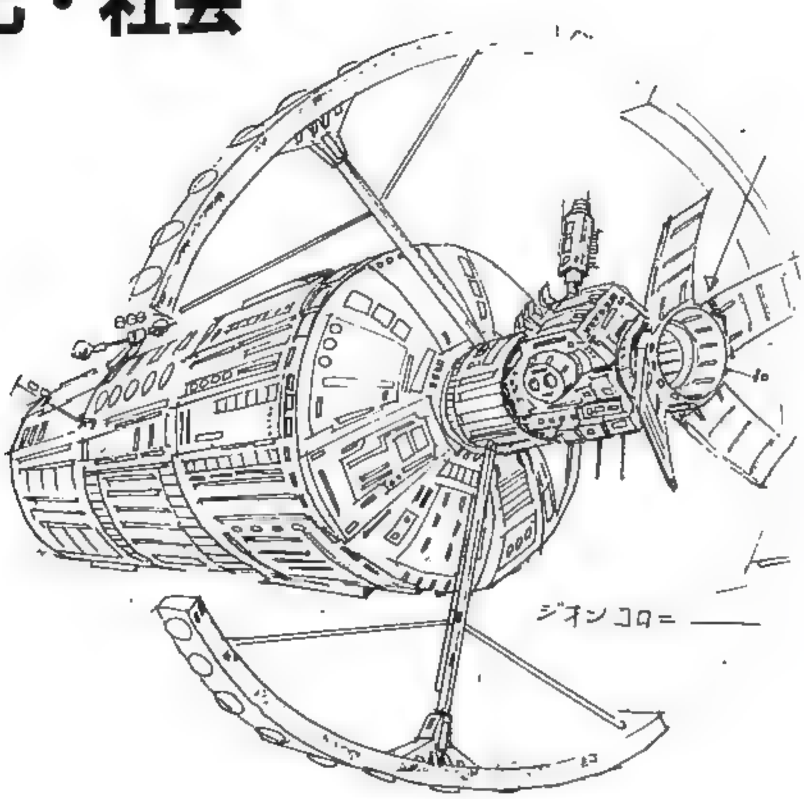
は遠い宇宙へ…



ジュドーは妹のリィナと再会を果す

ガンダム世界の基礎知識

- ◉科学・テクノロジー
- ◉政治・経済
- ◉文化・社会



政治・経済

ガンダムワールドの科学技術は、あくまで現代科学の発展した、リアリティーを求めたものとして4作を通じて描かれている。物語のはじまった宇宙世紀0079年において、地球人類は80億人を突破。すでに地表での生存限界を超えてしまったために、月軌道上の5か所の重力平衡空域（ラグランジュ・ポイント）にスペース・コロニーを建設。そこに20億人以上の人々の生活圏をつくり上げていた。このコロニーは1基で約1千万人の人間を収容、それが最盛期には約240基稼動していたのである。それらを約40基程度ずつにわけて、それぞれをサイドと呼び、行政区分している。

この宇宙植民時代に人類は

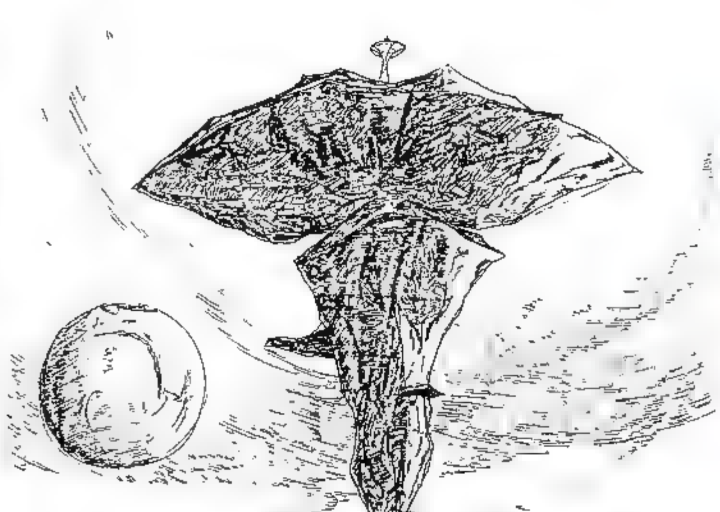
が、その結果全人類を一部の地球上に住むエリートが治めることとなり、民主主義といいながらも差別化が進行した。とくにコロニーなどの宇宙生活者(スペースノイド)はその





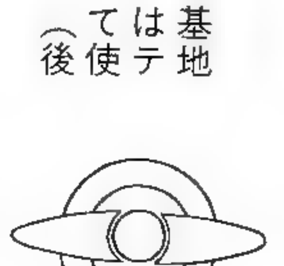
▲ジオン・ズム・ダイクン。地球聖域化論とコロニー主義を合わせたコントリズムを唱え、最初のジオン共和国を創立させた人物。進化した人間であるニュータイプの発現も予想していた

り目を向け、宇宙を軽視したためである。元来、コロニー生活者は強制移住者や、フロンティアを夢見た者だった。そのため不満がうっ積、連邦政府からの独立を唱えるように



▶1年戦争時にジオン軍の基地として、グリプス戦役時にはティターンズの移動要塞として使用されたア・バオア・クー（後にゼダンの門と改称）

の父親のジオン・ズム・ダイクンである。彼はコントリズムを唱え、スペースノイドのカリスマ的存在となり、サイド3を連邦政府から独立させるべく活動をつづけたのだった



▲反地球連邦組織エゥーゴのマーク

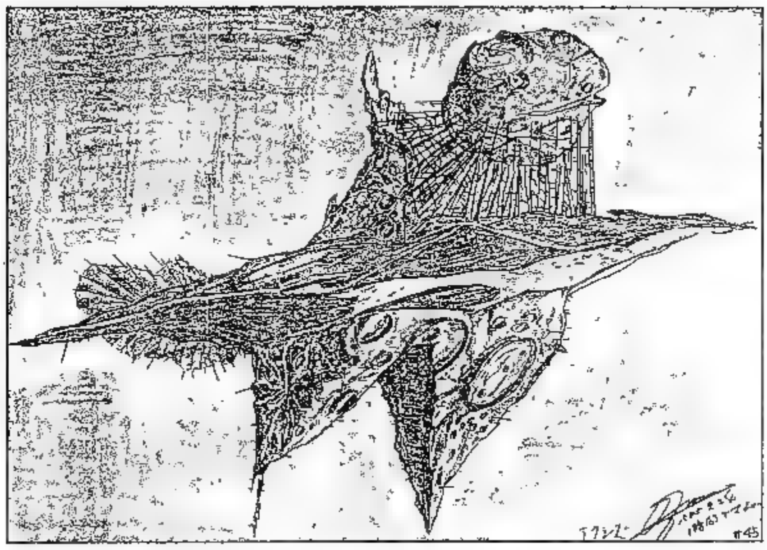


▲対スペースノイド部隊ティターンズのマーク



▲地球連邦軍のシンボルマーク

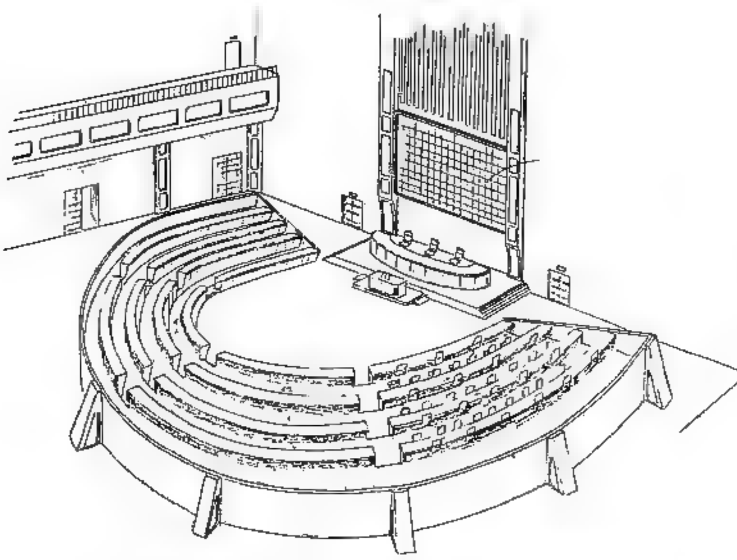
う。そしてサイド3はザビ家によって掌握され、ジオン公国を名乗り、連邦政府に対し宣戦を布告する。これが「ガ



▶ジオン公国残党の拠点である小惑星を改造した移動要塞アクシズ。アステロイド・ベルトで建造されたが、後に地球圏へ来襲。「逆襲のシャア」では地上に落とされかかるのだが…

れるものである。

この戦争はザビ家の内紛と連邦軍の物量によって、ジオン共和国の敗北で終結するが、



▲アフリカのダカールにある連邦政府の最高議決機関、連邦議会々議場



▲連邦政府議会の議長。議会自体がすでに形式的なものになりさがっている

樹立させた。

だが、それでスペースノイドの不満が解消するわけはな



▲アフリカにある石油採掘コンビナート

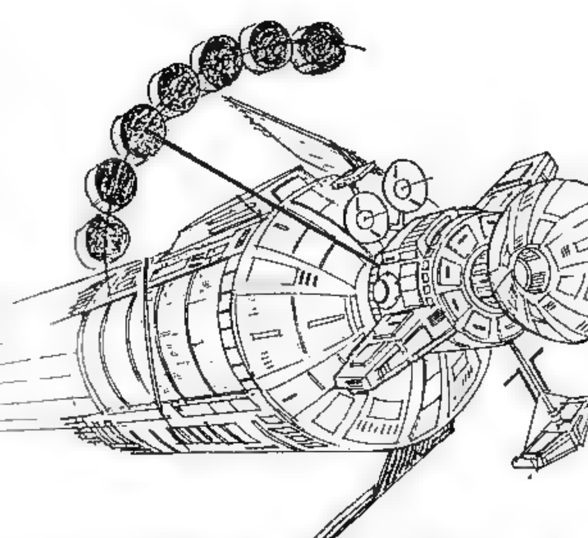


▲アフリカ解放戦線のひとり。人種差別と戦っていた人物

年、サイド1の30バンチで行なわれた反連邦デモに対し政府はコロニー内部へ毒ガスを注入、住民1千万人とデモ参加者2千万人を殺害したのである。この事件により、スペースノイドとアースノイド（地球生活者）の対立は深刻化、連邦政府はジオン公国の残党狩りを名目に、対スペースノイド部隊であるティターンズを創設。いっぽうでスペースノイドも急進派が反地球連邦組織エゥーゴを作った。この二者とジオン公国のみつどもえの戦争が「Z」「ZZ」で描かれたもので、グリプス戦役と呼称される。しかし、勝利はエゥーゴが握ったものの、人間に地球回帰願望がある限りなんら変化はなく、人類はまたも戦いをはじめる。

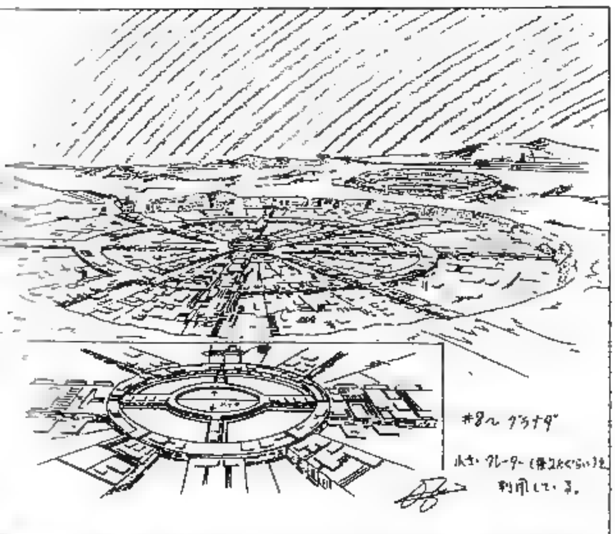
科学・テクノロジー

　母なる地球の手を離れ、宇宙での生活を余儀なくされた人類は、その必然性から大幅に科学技術を進歩させつつあった。それは、われわれの目から見ても違和感がないようなもので、ガンダムワールドのリアリティを高めるものであった。



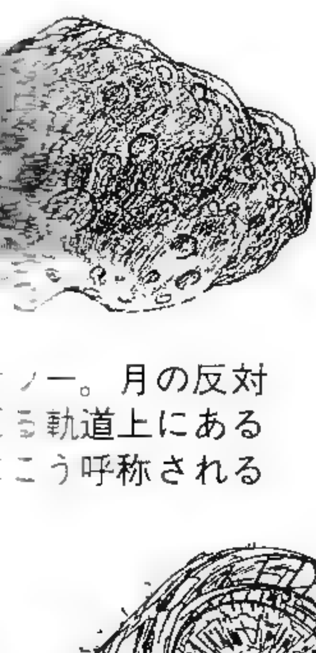
…の反対位置にあるサイド7の1番
…ンチ)コロニー、グリーン・ノア

　第1話に登場するコロニーはイギリス人の科学者G・K・オニールの提唱する宇宙植民地の島3号タイプと呼ばれるもので、遠心力による人工重力とミラーによる採光(サイド3のみ、密閉式で人工太陽灯によって光を得ている)を行い、外周部にある農業ブロックで食料と酸素を供給するようになっている。つまりは、緊急時には内部に住む1千万人程度の人間を自給自足で生活させることが可能なのである。



…裏側の中心地グラナダ。かつてはジ
…国の最終防衛ラインであった

　また、この時代の戦争になくてはならないモビルスーツ(以下MSと略す)は、もともと兵器として開発されたものではなく、宇宙空間での作業用外骨格式パワードスーツがその元となっている。そのため画面に登場したMSのなかで、いちばん旧式の「ガン



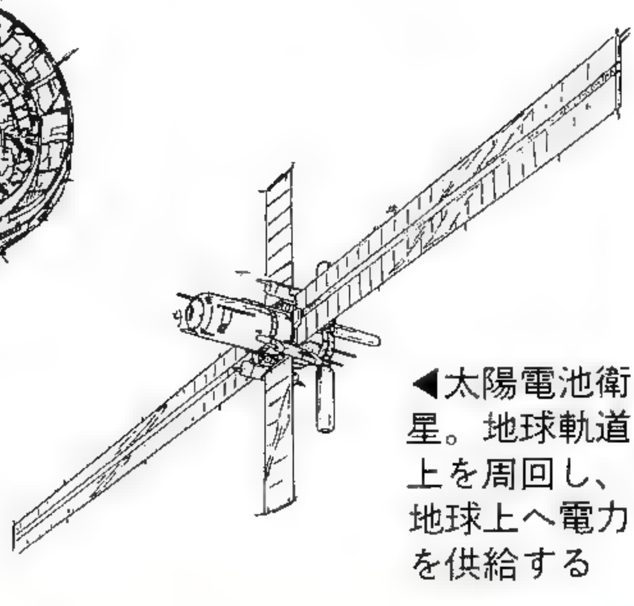
…ノー。月の反対
…る軌道上にある
…こう呼称される



▲月面上にある、アナハイムエレクトロニクスの工業基地



…コロニーを改
…造られたコロニ
…ー砲



◀太陽電池衛星。地球軌道上を周回し、地球上へ電力を供給する

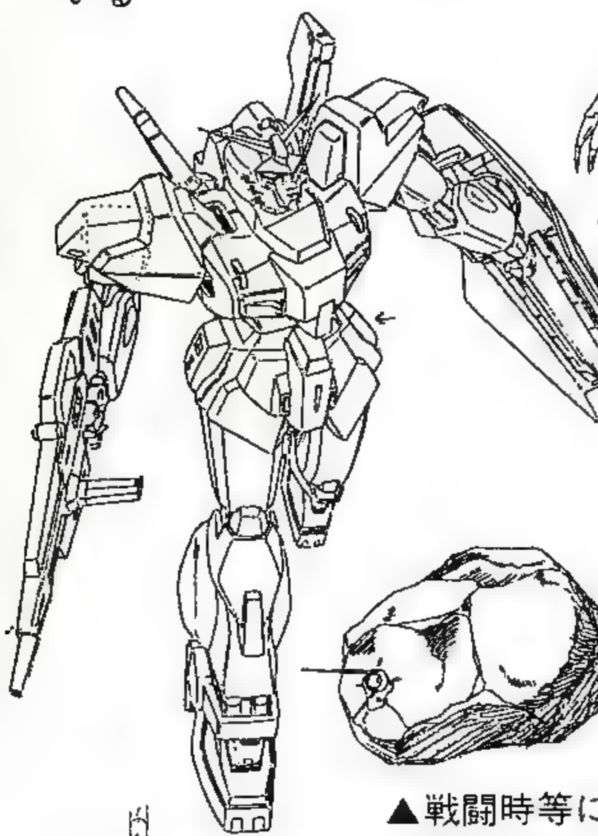
[illegible]を残している。もっとも、このMSにしても、電波吸収特性と重力遮断効果を持つミノフスキー粒子が開発されていたからこそ、活躍できたので[illegible]

性[illegible]を運べ[illegible]する必要のない、小型化された核融合炉が実現。すでに、一般人用の電力のほか、先のMSの動力としても使用されている。

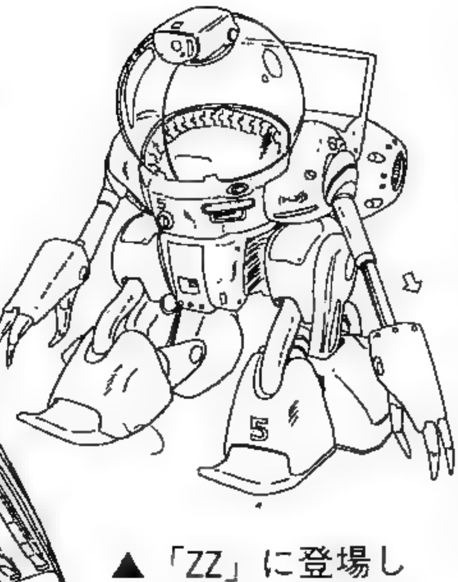
ニュータイプとは、[illegible]ことではない。これは、本来広大な宇宙空間で生活しなければならなくなった人類が、その過酷な環境に適応するた[illegible]

[illegible]のなのだ。[illegible]らの持つ認識力は進化していない人々から見れば、予知能力として思えるほどのものだった。その能力は戦争においては多大な戦力となり得るものであった。このことは、ハードウェアの精神波によってコントロールするシステム、サイコミュにより、一層高まった。精神波はミノフスキー粒子の干渉を受けないために、遠隔コントロールによる兵器が使用できるのと、タイムラグを短縮できたのである。

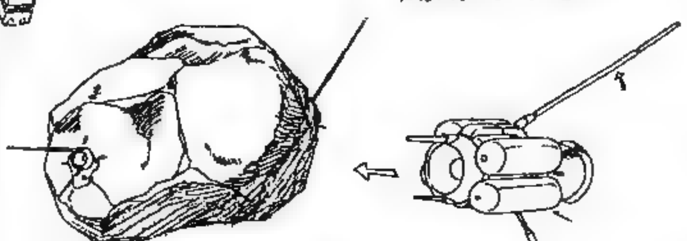
しかし、この画期的なシステムには重大な副次産物があった。精神波を周囲に放出するため、人と人、場合によっては敵と心をつなげてしまうのだ。それを嫌った軍上層部は、人為的なニュータイプを作成、強化人間と名づけた。



▼攻撃型ＭＳ、ガンダムMk-II。シンプルな作りで、非常に汎用性の高いものとなっている



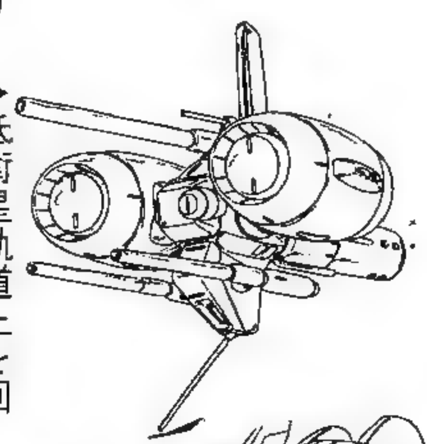
▲「ZZ」に登場したプチMS。作業用の機械であり、戦闘用ではない



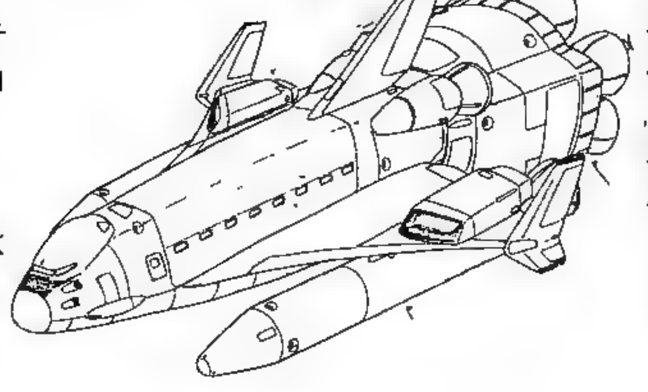
▲戦闘時等に使用される疑似障害物（ダミー）



▲サイコミュシステムの一種、サイココントロールシート



▶低衛星軌道上を回るレーザー戦闘衛星。すでに時代遅れの品



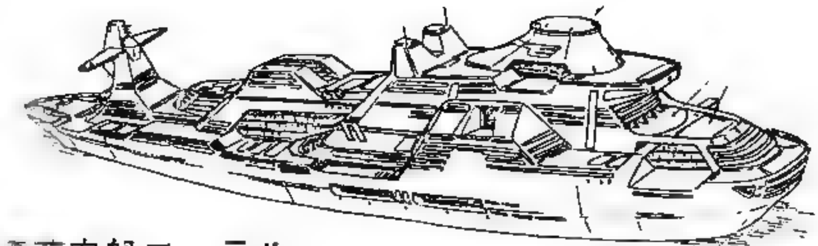
▶シャトルの形状はNASAのものとあまり変化していない

文化・社会

統一国家の完成と、宇宙移民により人間の混血化は、さらに進んでいた。その結果として当然のことながら文化の融合も進み、地域によっては、東西両文化が入り混ざった、われわれから見ると違和感を感じる景観となっている所もあるようである。しかし、経済的にはまだ華僑系とユダヤ系の影響力が強く残っており、ホンコンのルオ商会やタイガーバウムコロニー、アナハイムエレクトロニクスなどの巨大な複合産業体によって牛耳られてしまっている。

なお、一般人の生活としてはわれわれ現代人のそれと、大差は見受けられない。科学技術の進歩により、若干は便利になったであろう、といった程度である。やはり、人間は生きる、というレベルでは余り変化しないようだ。

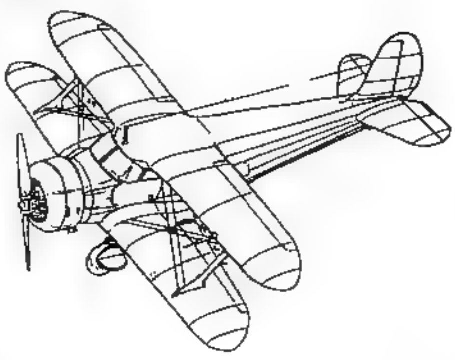
結果として、文化は爛熟期に入り、復古調なものが喜ばれるようになりはじめている。これは文明と意識のあいだにギャップができた、世紀末的な時代に見られやすい状態で、ガンダムワールドが、ある意味では人類が種としての限界に達しはじめた世界であることを示している。その結果として、ニュータイプが生まれたのであろうが、人が革新し始めたいま、旧人類間ではこの傾向はさらに助長されていくのではないだろうか。



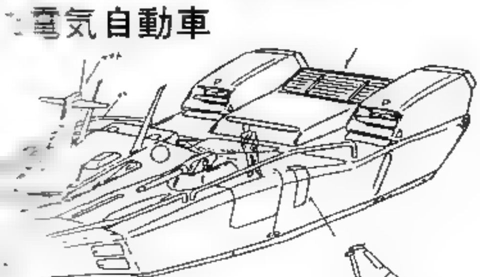
華客船コーラル・エンタル号。交通機関も進歩し一方でこの様な物も残った



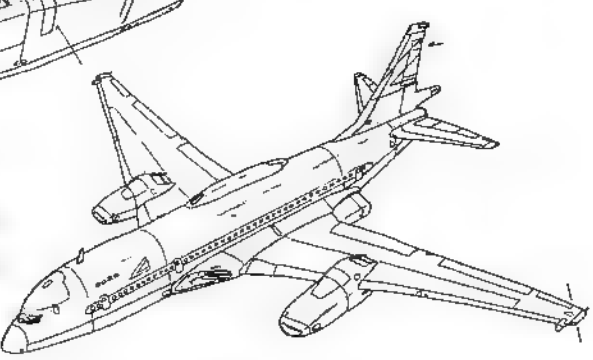
ンカ。コロニー内部で源節約のために開発さ電気自動車



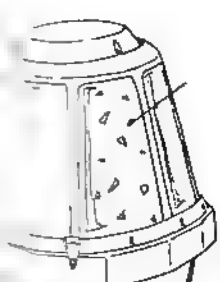
▲ビーチ17コメット。1900年代初期の飛行機のレプリカ。ベルトーチカが使用



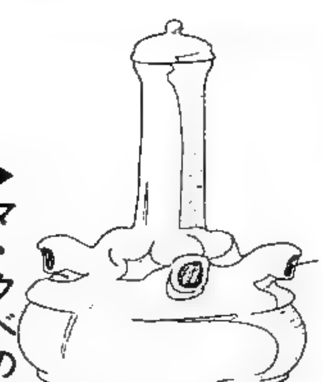
一般的に使用さいる水上連絡」の香港編場していた



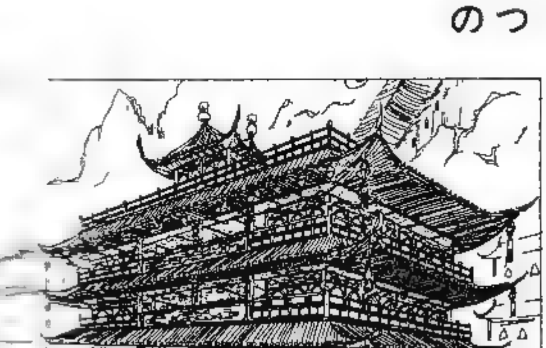
▲一般的に使用されている航空機



◀おみくじマシーン。昔よくあったやつです



▶マ・クベのつぼ。中国古代の本物らしい



系の住民が大部分を占めるコー、タイガーバウム。内部は中なふんい気になっている

機動戦士ガンダム
機動戦士Ζガンダム
機動戦士ガンダムΖΖ

設定&
ストーリーダイジェスト



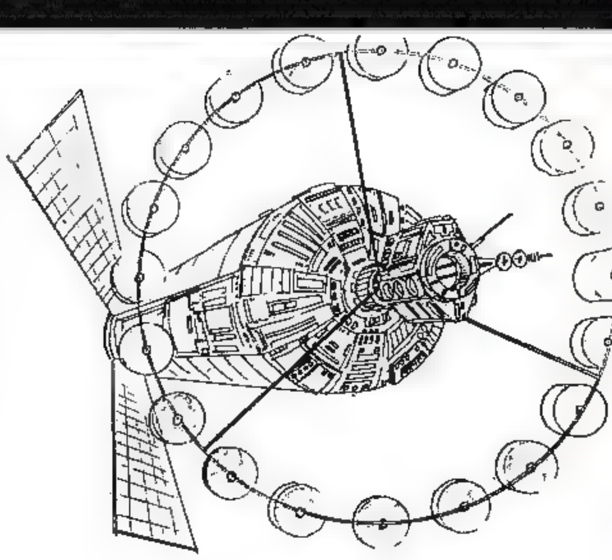
〝ガンダム〟の魅力ともいうべき設定とストーリー。ここではガンダムを知る上で欠かせない必要最低限なものを掲載してあります。



◀連邦軍の機密を得るため、サイド7へ潜入した



▲ジオン公国少佐、シャア・アズナブル



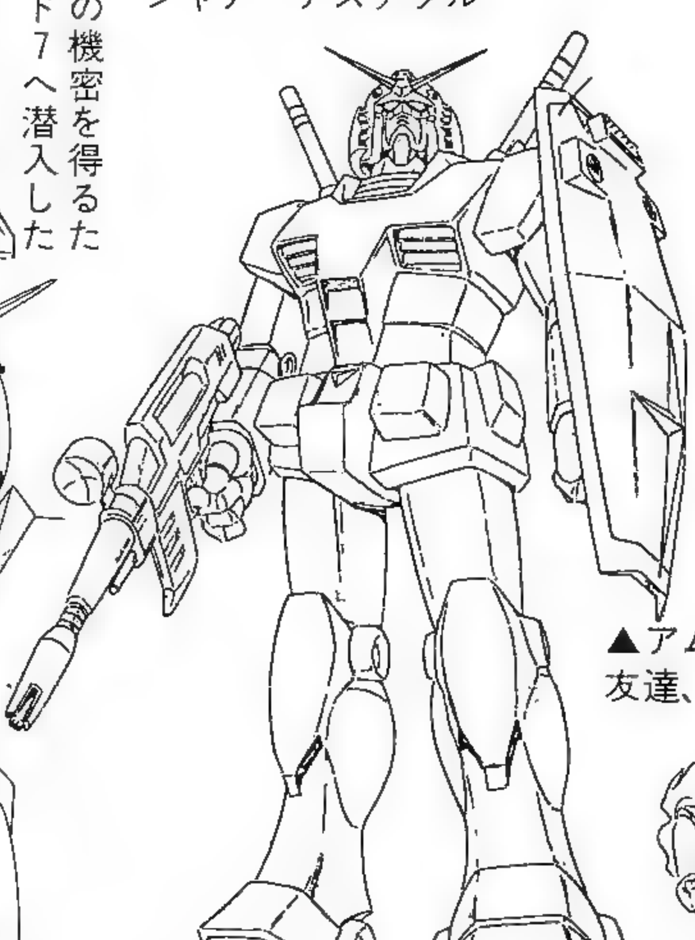
▶アムロの住むスペースコロニー、サイド7



▲FRONT



▲SIDE



▲RX-78ガンダム。連邦が誇る最新鋭MS全高18m



▲アムロの幼な友達、フラウ



▲アムロ・レイ。内向的な少年だ



◀テム・レイ（アムロの父）少尉



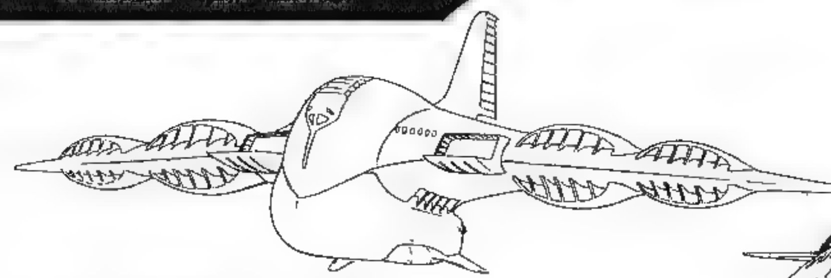
▲アムロが作ったハロ

第1話〜第4話

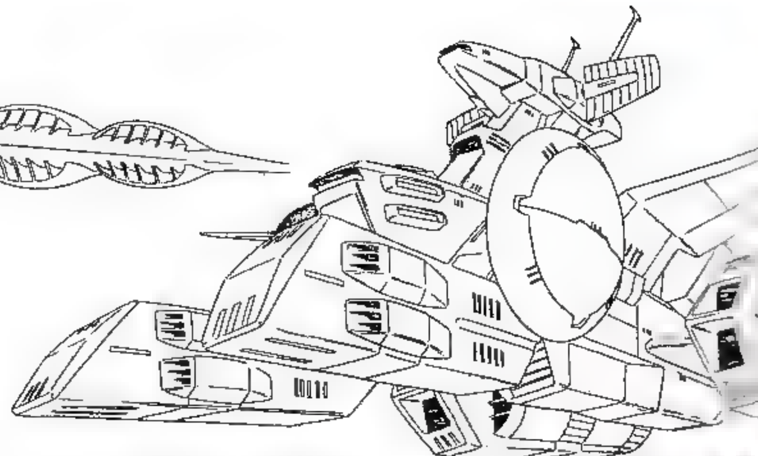
スペースコロニーサイド7に住むアムロは、メカのすきな内向的な少年だった。だが、ある日突然戦禍に巻きこまれる。

宇宙都市サイド3が、ジオン公国を名乗り、地球連邦政府に独立戦争を挑んできたのだ。おりしもアムロの住むコロニーでは連邦軍の新型モビルスーツがテスト中であり、その秘密を奪取しにきたジオン軍MSザクが潜入したのである。戦火に包まれるコロニー。逃げまどうアムロは、父を捜すなか、連邦軍の極秘マニュアルを拾う。それは連邦軍が開発した新型MSガンダムのものであった。アムロはなりゆき上、ガンダムに乗りザクを倒す。

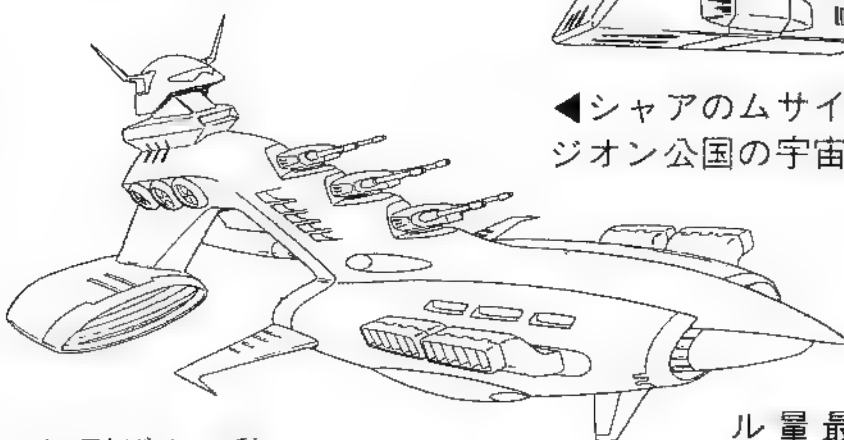
ガンダムを受け取りに来た連邦軍新型空母ホワイトベースに収容されたアムロは、強制的に連邦軍に参加させられることになる。



▲ガウ攻撃空母。ジオンが誇る戦略空中空母



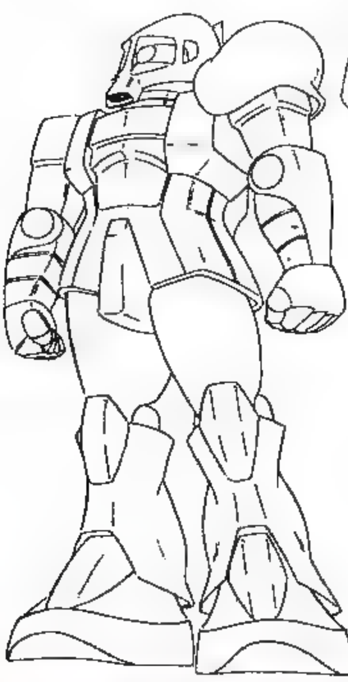
▲宇宙空母ホワイ…ス。連邦軍の最新…



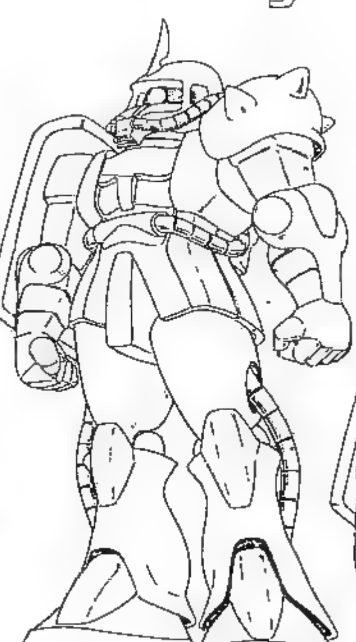
◀シャアのムサイ艦。ジオン公国の宇宙戦艦



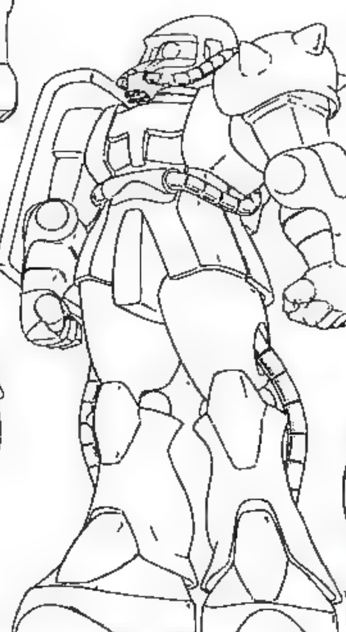
▲WB搭乗員、…イラ、ミライ…は民間人だっ…



▼旧型ザク。動力パイプが内蔵されているために動きがにぶい



▼MSザク。ジオン公国が最初に開発、量産したモビルスーツ



▲シャア専用ザク。頭部飾りと色が異なってる



基地をめざすホワイトベースだが、シャアの企みにはまり、ジオン制圧下の区域へと降下せざるをえなくなってしまう。

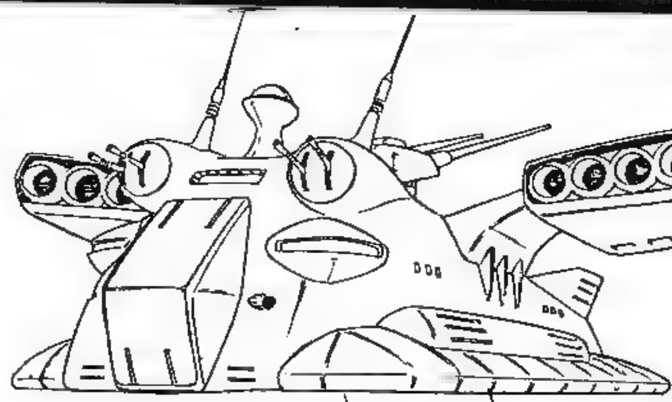
地上では、シャアの士官学校時代の同期生であり、ジオン公国を支配するザビ家の4男、ガルマ・ザビ大佐が待ち受けていた。

ホワイトベースに対し、執ように攻撃を仕掛けるガルマの部隊。連日連夜の戦いがつづき、アムロの心のなかに無気力感がしだいにつのる。だが、そんな心とはうらはらに、ガンダムを着実に乗りこなしていくアムロであった。

いっぽう、ホワイトベースをなかなか討てないガルマは、兵力を尽くして攻撃を仕掛けてきた。一時は追いつめられるホワイトベースであったが、ガルマはシャアの陰謀にはまり、その命を散らし、危機一髪で救われる。シャアの真の狙いとは何なのだろうか？



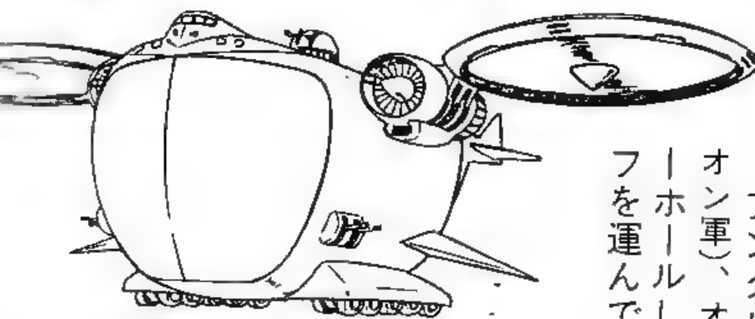




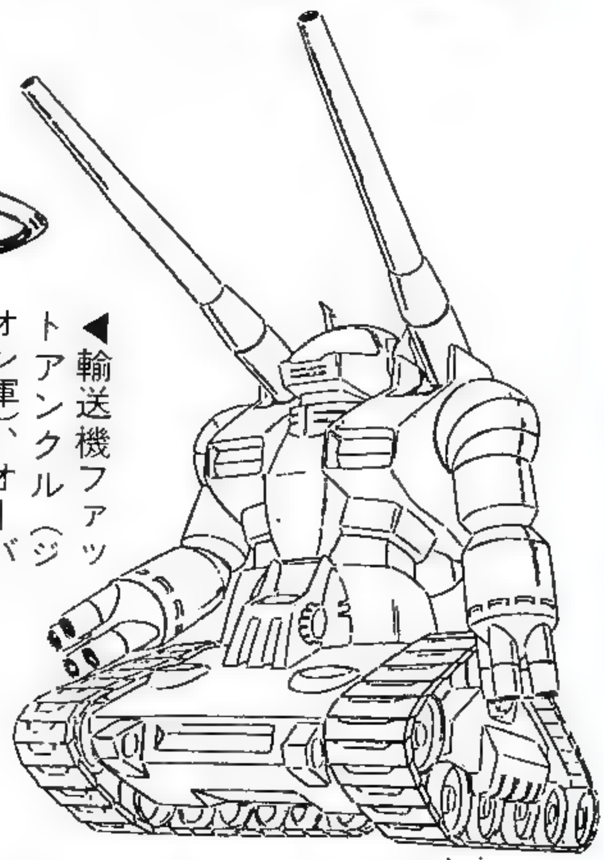
▲ギャロップ小型陸戦艇。ランバ・ラルが使用する陸戦艇。ホバークラフトで浮上し、進撃する

▲ランバ・ラル大尉。独立部隊の隊長、歴戦の勇士だ

…モン・ラル。…・ラルと伴…に来た



◀輸送機ファットアンクル（ジオン軍）、オーバーホールしたグフを運んできた



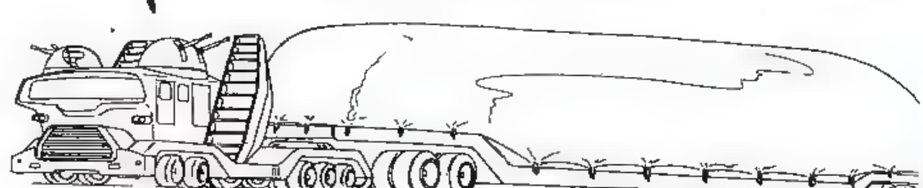
…ン（捕虜服姿）ラ…MSパイロット。…の撃ったバズー…にする





▶カマリア・レイ。アムロの母、地球でひとり暮しをしている

▲ガンタンク。ガンダムとともに開発された連邦のMS。長距離援護用



▲サムソン（ジオン大型輸送車）。MSを輸送する

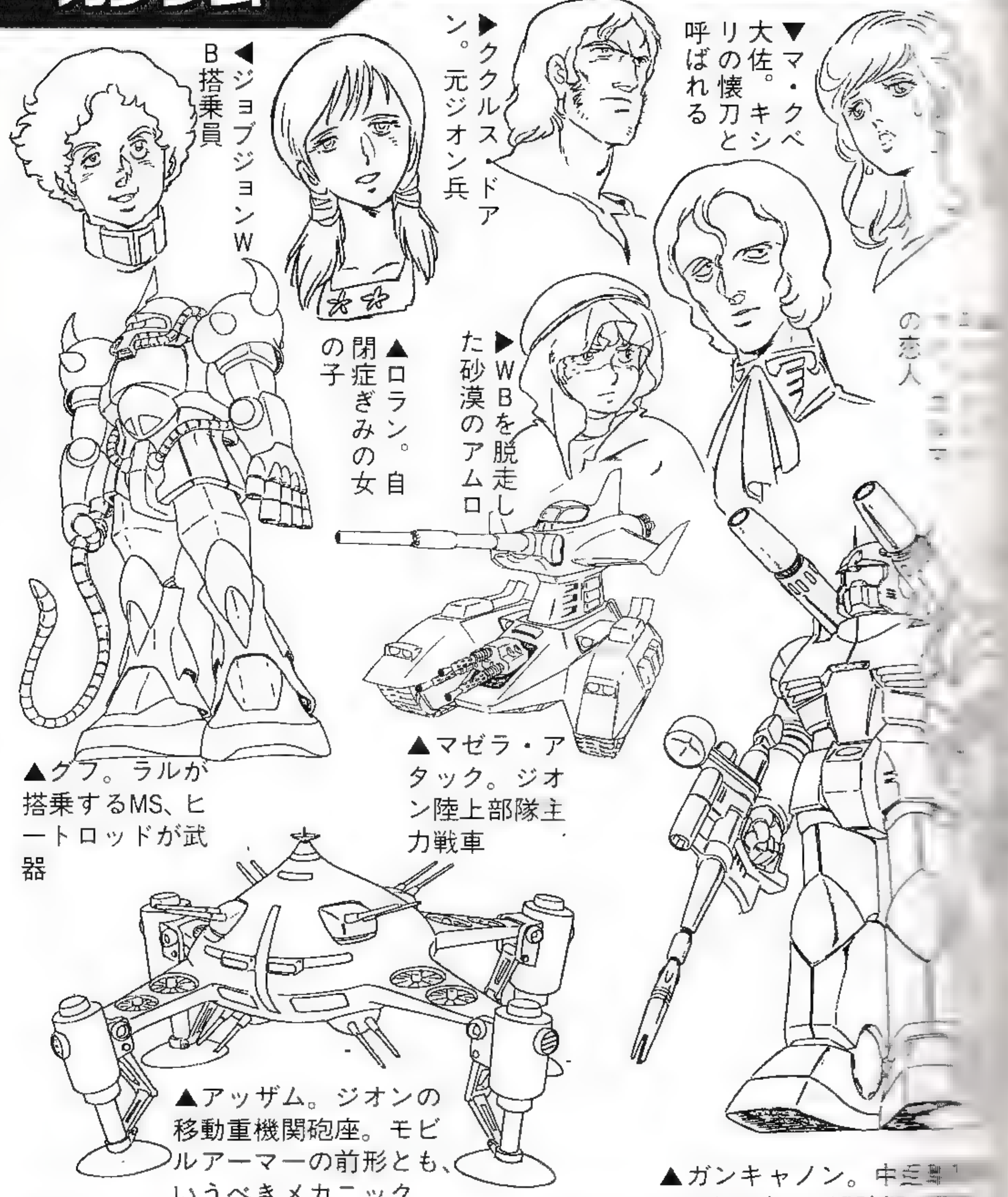
第11話～第14話

ガルマ散る——のしらせはジオン公国にただちに届き、ガルマを守りきれなかったシャアは左遷される。そして、ガルマの仇討ち部隊としてランバ・ラル大尉率いるMS部隊がホワイトベースに差し向けられた。

新型MSグフに乗ってガンダムに迫るランバ・ラル。歴戦の勇士の手腕の前に苦戦するガンダム。アムロは、この装甲もスピードもザクとは違うMSに恐怖する。

そのころ、地球からもっとも遠い位置にあるサイド3——ジオン公国では、ガルマの葬儀が行われており、ギレンが国民に対し、結束を求めていた。

ランバ・ラルの追撃を逃れたホワイトベースは、日本にやってくる。日本には幼いころ、父と別れた母——カマリア・レイがいた。[illegible]



◀ジョブジョンWB搭乗員

▶ククルス・ドアン。元ジオン兵

▼マ・クベ大佐。キシリの懐刀と呼ばれる

の恋人

▲ロラン。自閉症ぎみの女の子

▶WBを脱走した砂漠のアムロ

▲グフ。ラルが搭乗するMS、ヒートロッドが武器

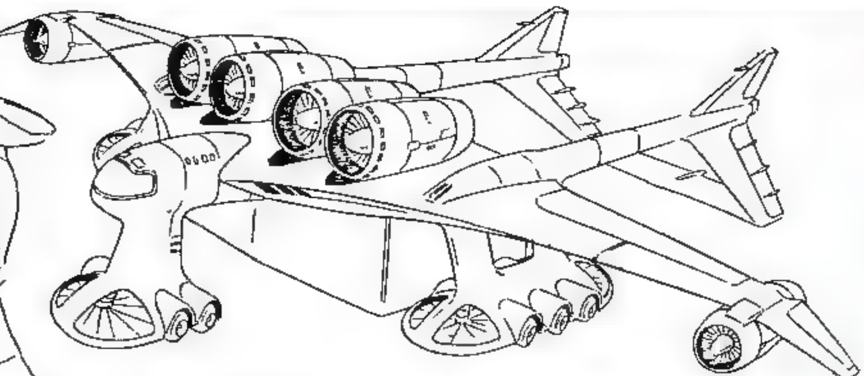
▲マゼラ・アタック。ジオン陸上部隊主力戦車

▲アッザム。ジオンの移動重機関砲座。モビルアーマーの前形とも、いうべきメカニック

▲ガンキャノン。中[illegible]MSガンダムと同時期に[illegible]

を脱走した兵、ドアン[illegible]会い
アムロ。アムロはドアンの生き方に共鳴しながらも、自分にはやるべきことがあると確信する。
いっぽう、ホワイトベース乗組員であり、シャアの実の妹であるセイラは、なんとか兄の消息を知りたいと考え、命令違反を犯して出撃し、ガンダムに危機を招く。だが、アムロがガンキャノンで出撃、からくも危機を逃れる。セイラは捕虜コズンからシャアの消息を聞き、ひとり涙するのだった。
ランバ・ラル隊の追撃が再びはじまり、独断で出撃したアムロに、ブライトはガンダムの操縦者としての不適合の判断をくだす。その事を知ったアムロは、ガンダムに乗って脱走してしまう。しかし、ランバ・ラル隊をまのあたりに見、グフに戦いを挑む。ホワイトベースに帰還したアムロを待っていたのは独房入りの処置であった。

▼ウッディ大尉、



▲ミデア輸送機。連邦軍の主力輸送機

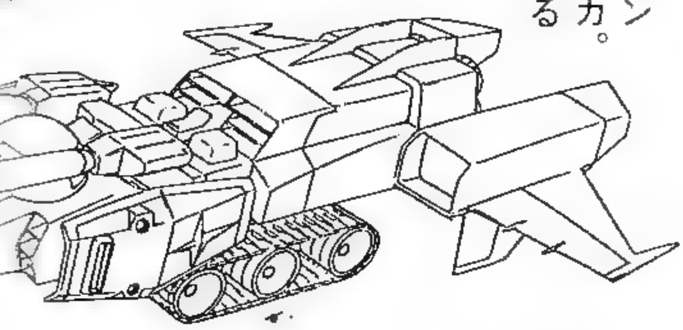


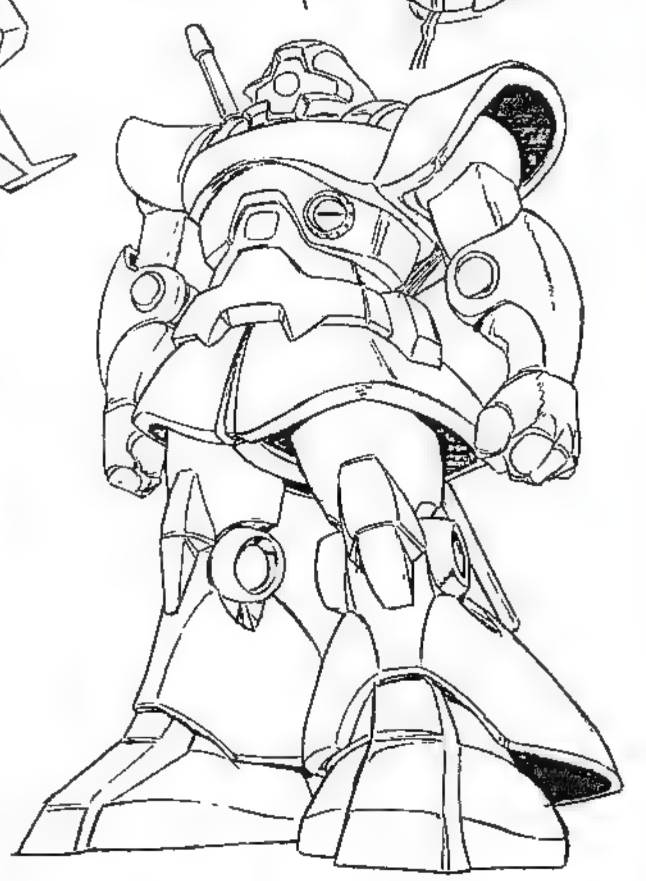
▲マチルダ・アジャン中尉。ミデア輸送隊々長

▼Gアーマー。ガンダムの支援強化メカ。3タイプに変型する

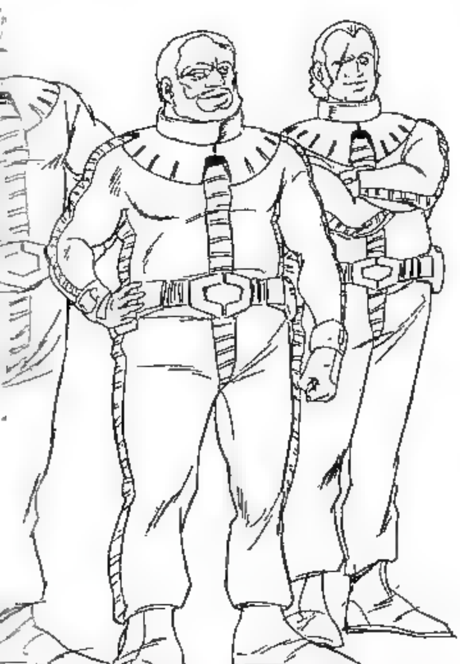


▶連邦軍、レビル将軍。「ジオンに兵なし」と演説した





▲ドム。黒い3連星が使用する重モビルスーツ



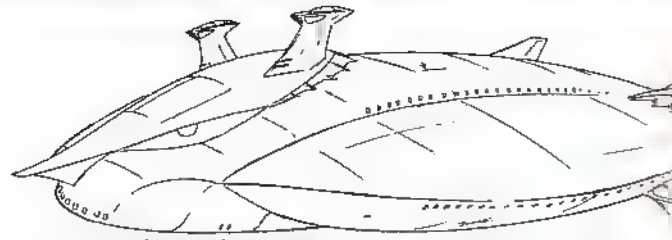
◀〝黒い3連星〟オルテガ、ガイア、マッシュ（左より）。ドム搭乗員

第20話〜第25話

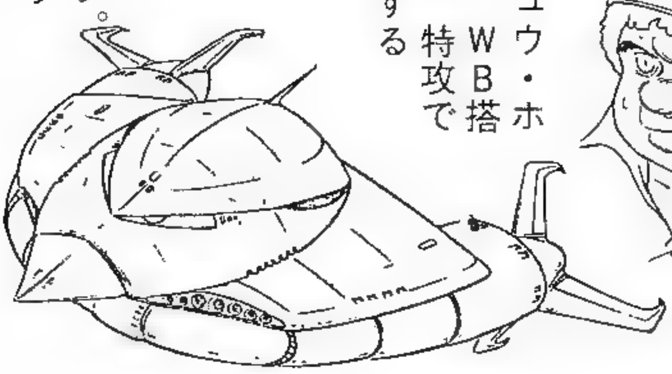
ラルの部隊はついに、ホワイトベース内に突入した。激しい肉弾戦のなか、ラルは自爆して果てる。
　そして、ラルの妻――ハモンが特攻をかけてくるが、コアファイターで出撃したリュウが体当たりし危機を逃れた。いっぽう、キシリアの命を受けたマ・クベは、包囲作戦を展開。ホワイトベースを追いつめる。しかし、それを脱出したホワイトベースの前に連邦軍のミデア輸送機が現れる。ミデアのマチルダ少尉は、レビル将軍から託されたガンダムのパワーアップメカを輸送してきたのだ。
　機を同じくして、黒い3連星と呼ばれるジオン歴戦の勇士がガンダムを襲う。ジェットストリームアタックをしかける3連星のドムに苦戦するガンダム。そのとき、マチルダの乗ったミデアが突っこ



▶フラナガン・ブーン。ユーコン艦長、ゴック2機を発進させた



▲巨大潜水母艦マッド・アングラー。シャア大佐の特殊潜水艦隊の司令艦





▶リュウ・ホセイ。WB搭乗員。特攻で戦死する

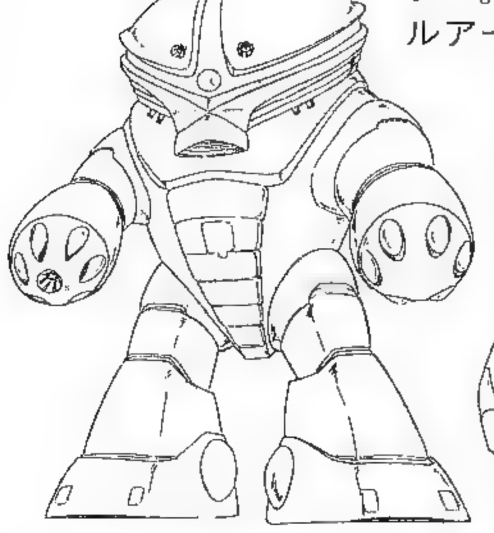


◀ミハ
ンのス
WBに

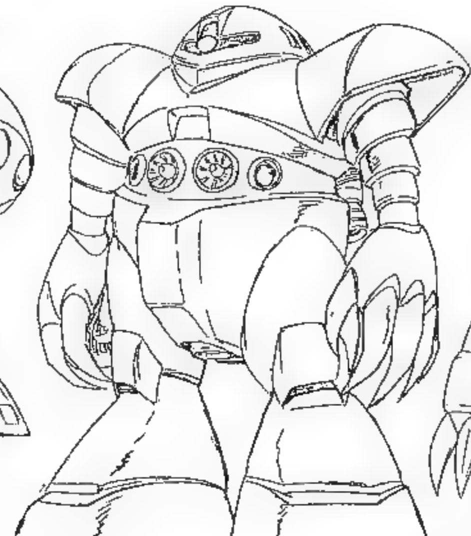


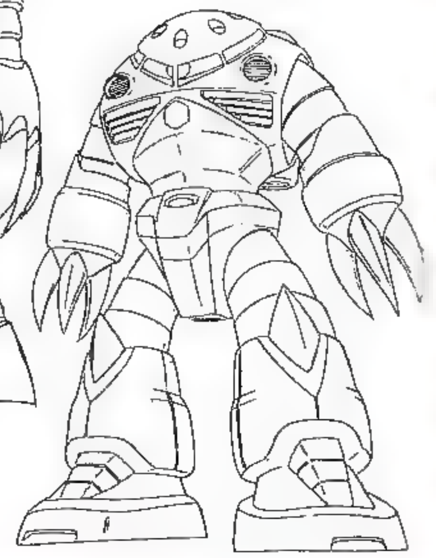
▶ジム。連邦軍初の量産型モビルスーツ

▲モビルアーマー、グラブロ。水中タイプ用モビルアーマー



▲アッガイ。腕と爪が伸縮自在のMS。ジャブローに工作員を送りこんだ



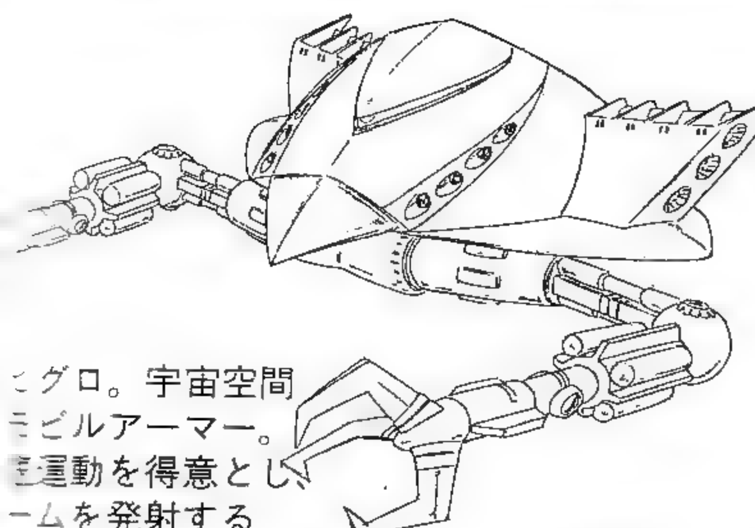


▲ゴック。水陸両用重モビルスーツ。腕は胴体に収容可能である

ホワイトベースが停泊する北アイルランド基地に迫る特殊潜水母艦。いっぽう、レビル将軍はホワイトベースに対し、南米ジャブロー基地に行けとの命令をくだした。ジオン公国との決戦に備え、ホワイトベースを宇宙に戻らせようと考えたのだ。

シャアの罠をかいくぐり、南米ジャブローへとむかうホワイトベース。だが、やっとの思いでたどり着いたジャブローにも、シャアが率いるMS部隊が襲撃をかけて来た。水陸両用MSであるズゴック、アッガイ、ゾックで攻めてくるシャアの部隊。

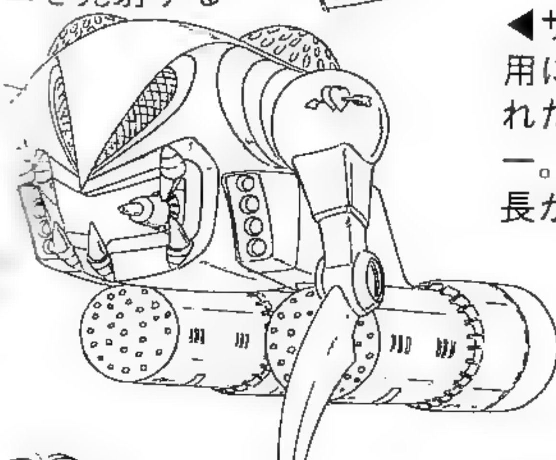
だが、ガンダムの活躍によって撃退することに成功した。ジャブローから引きあげようとしたシャアであったが、その最中、妹セイラと再開する。「軍から身を引け」そうセイラに忠告してシャアは去っていくのだった。



グロ。宇宙空間
モビルアーマー。
運動を得意とし、
ームを発射する



▲デギン・ソド・ザビ。ジオン公国の独裁者。ザビ家の長でジオン公国の公王である。62歳



◀ザクレロ。試験用に1台だけ作られたモビルアーマー。デミトリー曹長が搭乗する

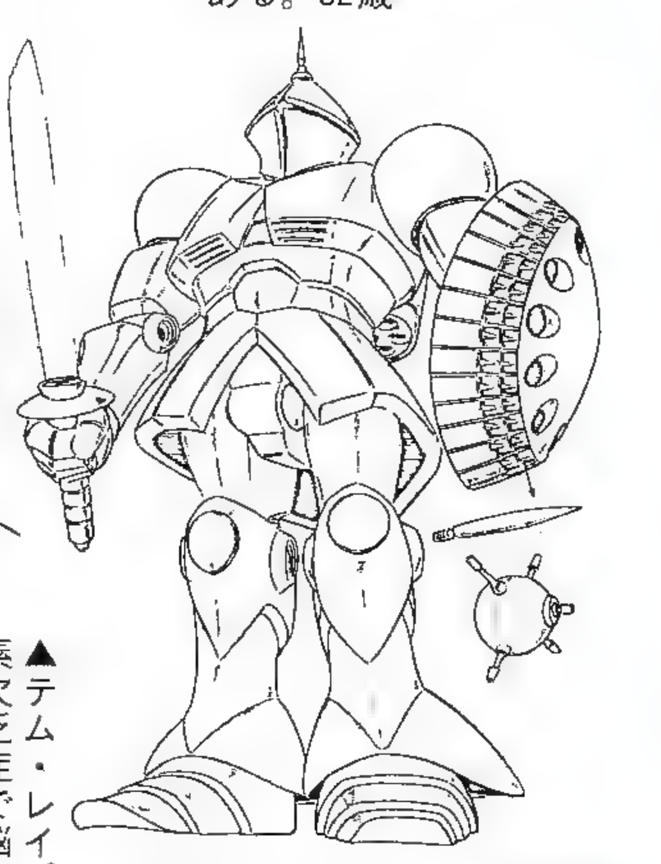


▲スレッガー・ロウ中尉。ジャブロ



▲カムラン・ブルーム。かつてのミライの婚約者で、サイド6の検察官

▲テム・レイ。酸素欠乏症で脳をやられていた



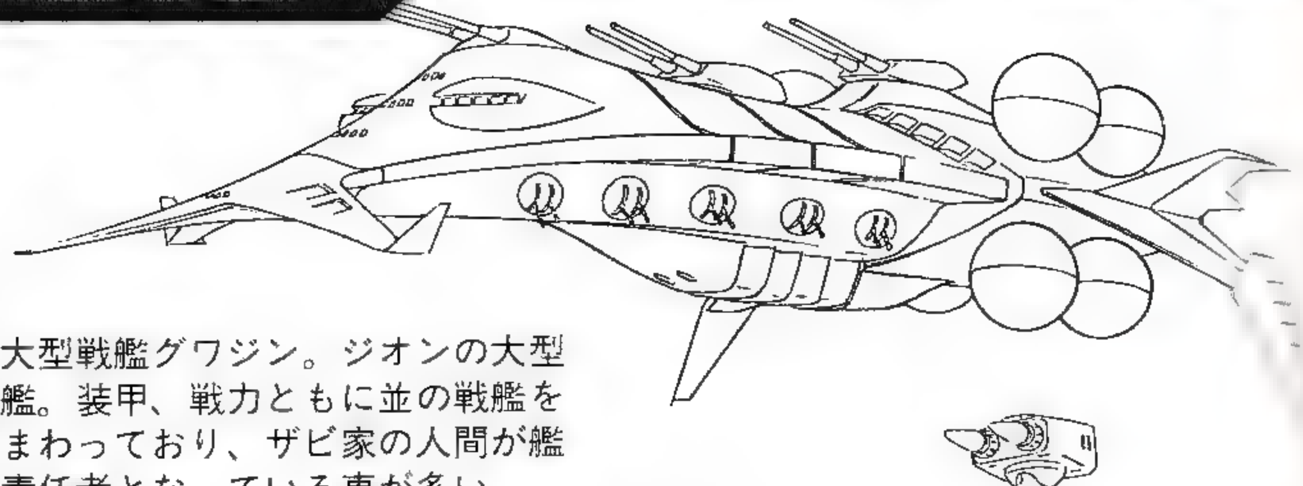
▲ギャン。マ・クベ専用モビルスーツ

第31話〜第36話

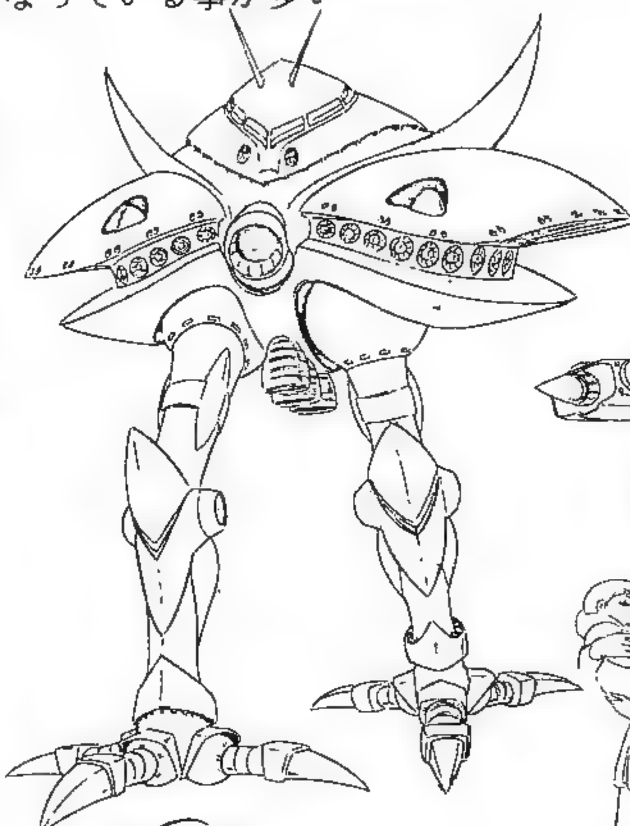
宇宙に再び発進したホワイトベースを待っていたのは、ドレン大尉率いるムサイ艦隊だった。しかし、スレッガー中尉を仲間に加えたガンダムの敵ではなかった。中立コロニー、サイド6へと入港するホワイトベース。そこではさまざまな出会いが待っていた。ミライはかつての婚約者カムランと、アムロは行方不明の父、そして不思議な少女——ララアに出会った。

サイド6を出港したホワイトベースは第3艦隊と合流し、ジオンの宇宙要塞ソロモンへとむかった。

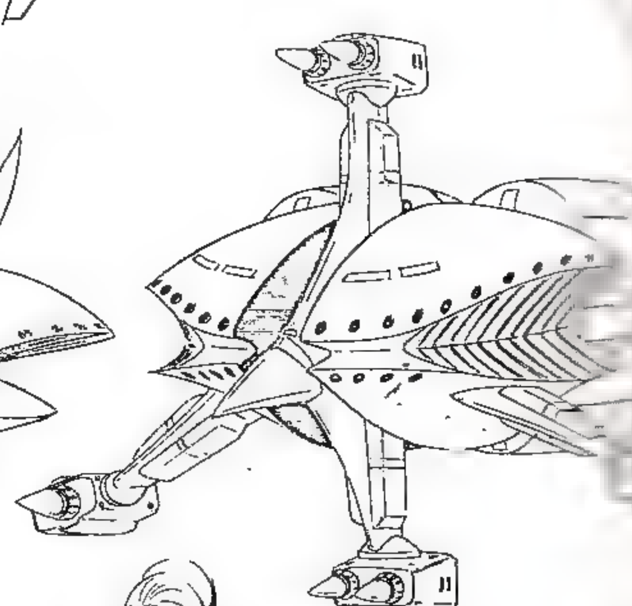
ワッケインの指揮下、地球連邦軍の攻撃が開始される。展開する一大攻防戦。その攻防戦にとどめをさしたのが、ソーラ・レイと呼ばれる巨大な光線兵器であった。太陽光を集光し、ソロモンに集中させるなか、ソロモンの指揮官、ドズ・ザビ中将の[illegible]



▲大型戦艦グワジン。ジオンの大型戦艦。装甲、戦力ともに並の戦艦を上まわっており、ザビ家の人間が艦の責任者となっている事が多い



▶ビグ・ザム。強力な拡散ビーム砲を持つモビルアーマー。ソロモン戦においてドズル・ザビが使用した。対ビームバリアを装備してる。搭乗員は3名。



▲ブラウ・ブロ。[illegible]りのシャリア・ブ[illegible]が搭乗するモビルアー[illegible]ー。オールレンジ[illegible]得意とする



▶ゼナとミネバ。ソロモンを脱出したドズルの妻と娘



▶ドズル・ザビ中将。宇宙攻撃軍及び宇宙要塞ソロモンの司令官



▶シャリア・ブル。ギレンの命でキシリアの元へきた

局はジオンに不利になりつつあった。ギレンは、密閉型コロニーをソーラー・レイ・システムに改造し、戦局の逆転を企む。

いっぽう、アムロの反射神経に追いつけなくなりつつあるガンダムに、ハン博士はマグネットコーティングを施す。急場しのぎ的な対策であったが、ガンダムの性能は向上した。そのガンダムの前に、グリーンのモビルアーマーが現れた。サイド6で出会った少女——ララァが操縦するエルメスである。

エルメスはビットと呼ばれるサイコミュ攻撃兵器を搭載しており、独自の戦法でガンダムに迫った。だが、すでにニュータイプとしての素養に目ざめたアムロの敵ではなかった。戦いの最中、アムロとララァはふたりの目ざすべき未来を垣間見る。だがときはすでに遅く、ララァは散っていくのだった。ふたりの出会いは遅すぎたのだ。



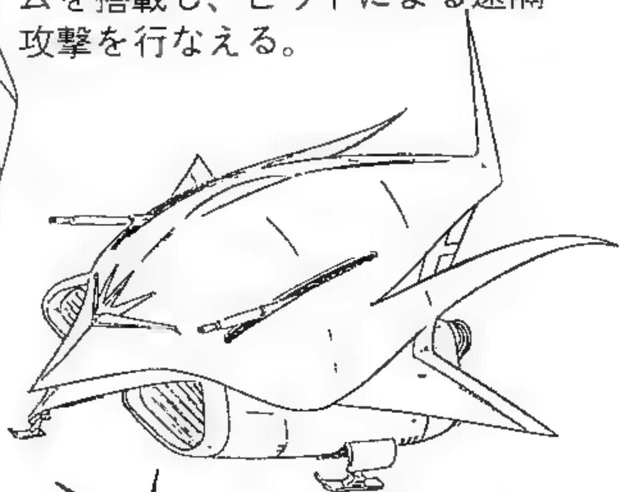
▶ギレン・ザビ。公王デキンの長男、野心家であ[illegible]



▶キシリア・ザビ。突撃機動軍司令官として引力地帯での主戦力を受け持つ



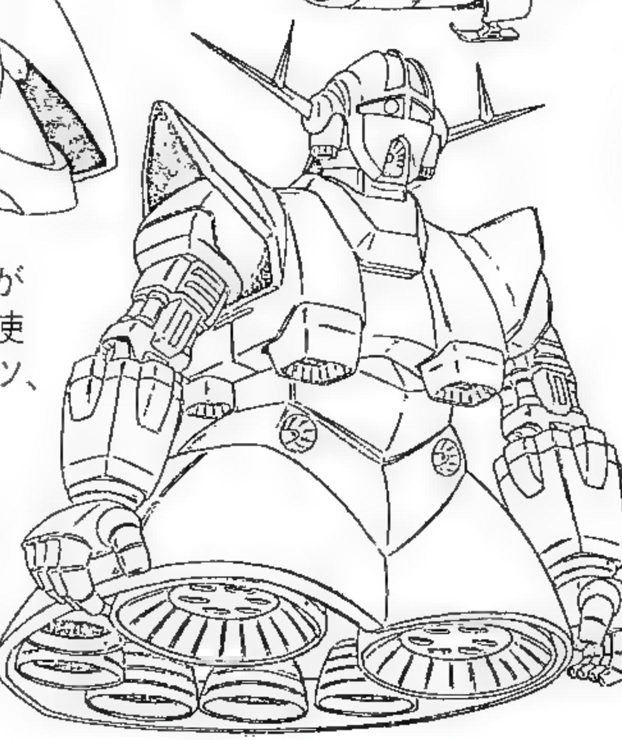
▲ララァ・スン。ニュータイプのジオン軍少尉。シャアによりみいだされフラナガン機関で学んだ。



▼エルメス。ララアが乗るモビルアーマー。サイコミュシステムを搭載し、ビットによる遠隔攻撃を行なえる。



[illegible]ググ　シャアが[illegible]ースコロニーで使[illegible]た量モビルスーツ、[illegible]イプもある



[illegible]オング。シャア[illegible]決戦において[illegible]した大型モビル[illegible]頭部にコク[illegible]がある



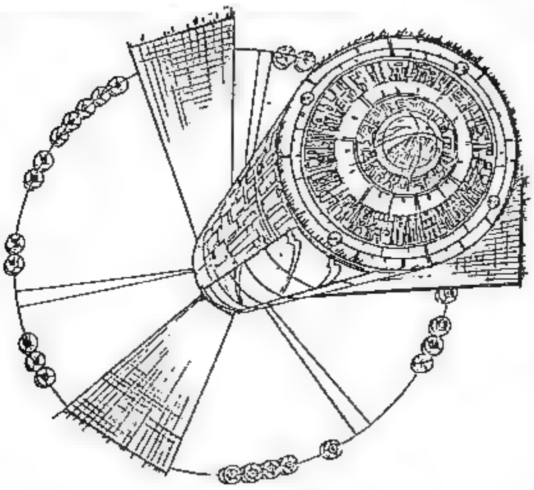
◀アムロたちをニュータイプとして自覚させた

第42話〜第43話

デキン公とレビル将軍による和平工作は、ギレンの放ったソーラ・レイによって砕かれる。

今、最後の決戦が行われようとしていた。ジオン公国最後の防衛ラインともいうべき宇宙要塞ア・バオア・クー。その空域に両軍が集結しつつあったのだ。

連邦軍と、ジオンの凄絶な戦いのなか、キシリアは実兄ギレンを父親殺しの大義名分を持って射殺する。しかし、そのことが指揮系統の乱れをよんだ。反撃を開始した連邦軍。激しい最前線のなか、アムロはジオングに乗ったシャアとまみえる。死力を尽くし戦うふたり。その戦いは両モビルスーツをも破壊し生身のものへと移行した。だが、ふたりのあいだにセイラがわって入る。シャアがキシリアを撃つ。爆発するア・バオア・クー[illegible]



▲再度、物語のはじまりの地となったサイド7のグリーン・ノア



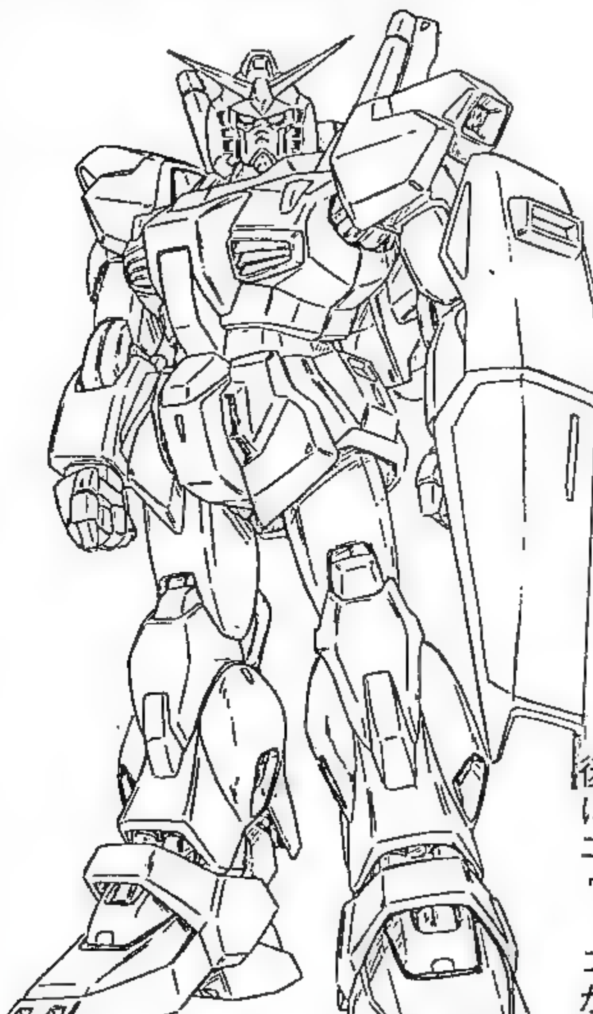
▶ファ・ユイリイ。カミーユのガールフレンド。彼を見守り続ける



▲[illegible]ーユ・ビダン[illegible]絶えず優しさを求めつづけていた少年



◀ジェリド・メサ。彼がカミーユと殴りあったことから物語ははじまる



◀ガンダムMk－Ⅱ。ガンダムの後継機としてティターンズに配備された。しかし、後にエゥーゴが奮取



▲ティターンズ兵の腕章。鷹のエンブレム



▲カミーユ[illegible]親のヒ[illegible]料工学の[illegible]

第1話〜第5話

宇宙世紀[illegible]

より7年が経過したこの世界で再びスペースノイドとアースノイドの戦いがはじまりつつあった。エゥーゴはティターンズの宇宙での拠点であるサイド7に3機のMSを偵察に派遣したのである。その中の1機のパイロットは、かつて赤い彗星と呼ばれたジオンのシャアなのであった。

その頃、コロニーに住む少年、カミーユはティターンズのジェリドと争い、ガンダムMk－Ⅱを奪って兵と戦闘をしていた。事態を発見したシャアたちはカミーユを助け、彼をエゥーゴへと導く。

だがティターンズは奪われたガンダムMk－Ⅱを取り返すためにカミーユの父や母を人質として交換を呼びかけてくる。しかし、母はジェリドの手によって、父は一度は助けたものの背信行為を行い、それを止めようとしたカミーユ自身の手によって殺されたのだった。



…・オム
…ェリド
…官。後
…・ギア
…就任



◀ジェリドの友人、カクリコン・カクーラ中尉。ティターンズ所属



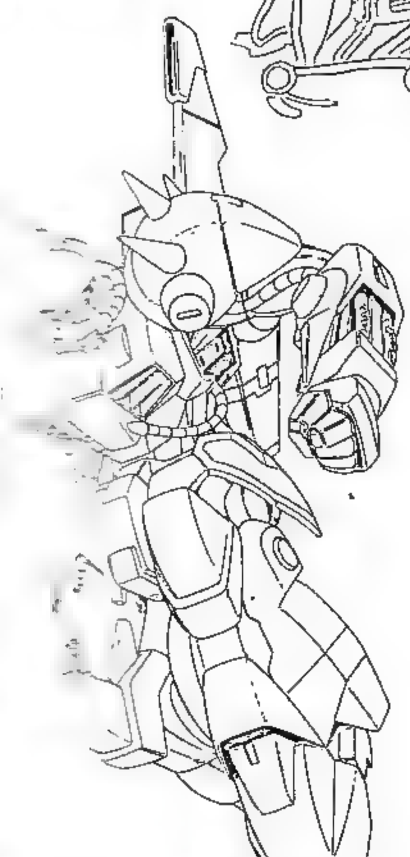
▶ガディ・キンゼイ。巡洋艦アレキサンドリアの艦長



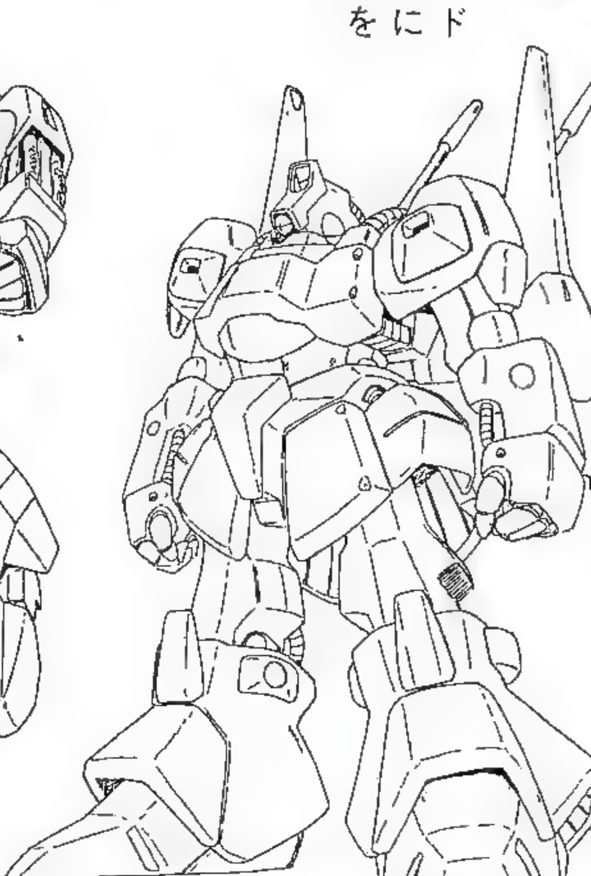
▲ブレックス・フォーラ准将。エゥーゴのイデオロギー的な指導者



▶レコア・ロンド中尉。ジェリドに宇宙での生き方を教え、死亡した



…ク。連
…していい
…の発展型
…的に変化



◀リック・ディアス。エゥーゴが秘密裏に開発したMS。シャアも使用していた



▶シャア（クワトロ・バジーナ）の艦内での着用服

第6話〜第10話

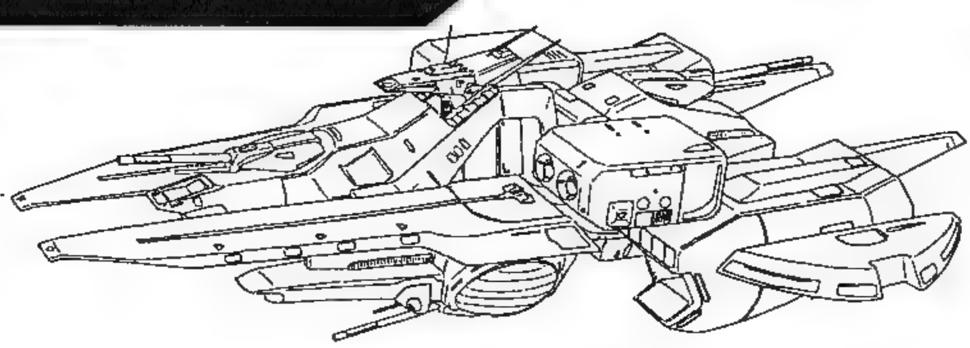
サイド7の領空を脱出したカミーユたちの乗るアーガマと、追撃に出てきたティターンズのアレキサンドリアの戦闘が続いていた。なんとかエゥーゴの制圧地である月まで、アーガマは逃げたかったのである。しかも、その間にも連邦政府の中心である、南アメリカのジャブローへ、レコアを送り込むための作戦などを行なわねばならなかったため、わずかでも戦力の欲しいアーガマの艦長は、カミーユをMSのパイロットとして出撃させることにする。

そのかいあってか、レコアの乗るカプセルは無事に大気圏へ突入、アーガマも月へ到着した。

いっぽう、エゥーゴの上層部は、自分たちの存在を一般人にアピールすべく、ジャブローへの侵攻を計画する。それは、シャアたちの…



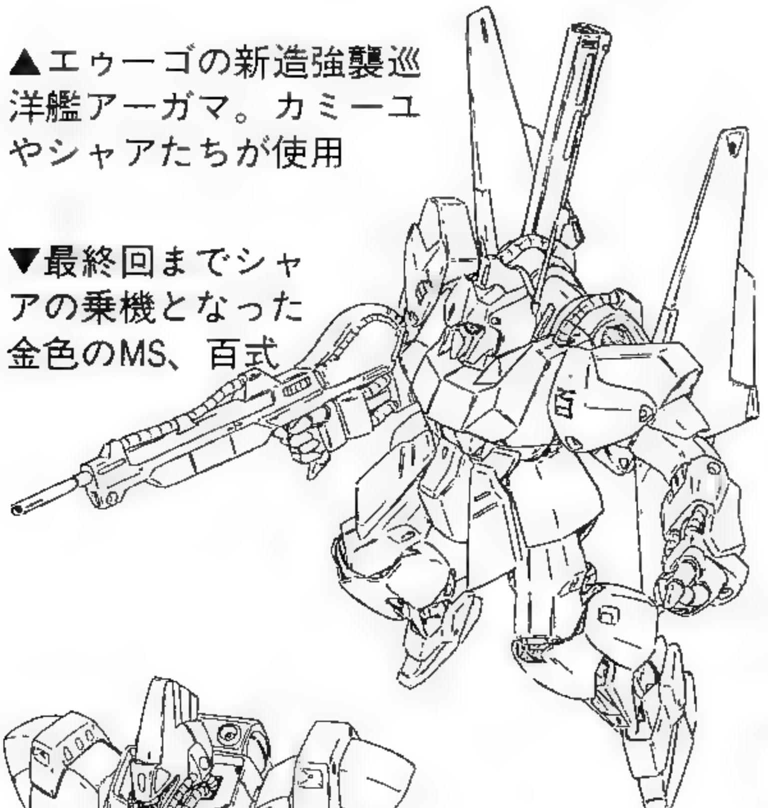
▶エマ・シーン。ティターンズの一員だったがエゥーゴへ寝返った



▲エゥーゴの新造強襲巡洋艦アーガマ。カミーユやシャアたちが使用

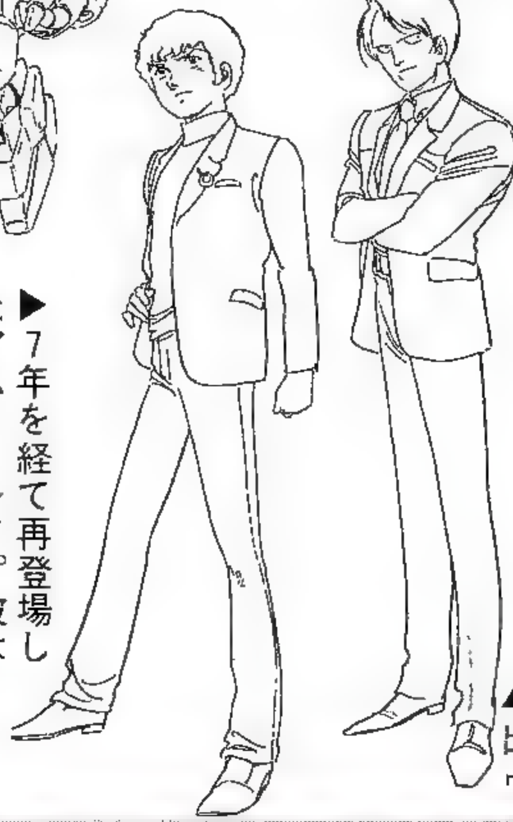


▶変装しているヘンケン・ベッケナー

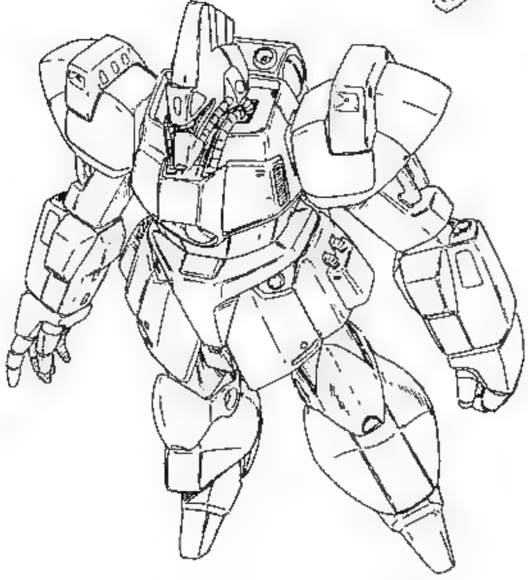


▼最終回までシャアの乗機となった金色のMS、百式

▼カイ・シデン。前作以来、性格は変わっていない。ジャブローへ潜入



▶7年を経て再登場したアムロ・レイ。彼は最初なぜか心を閉ざす



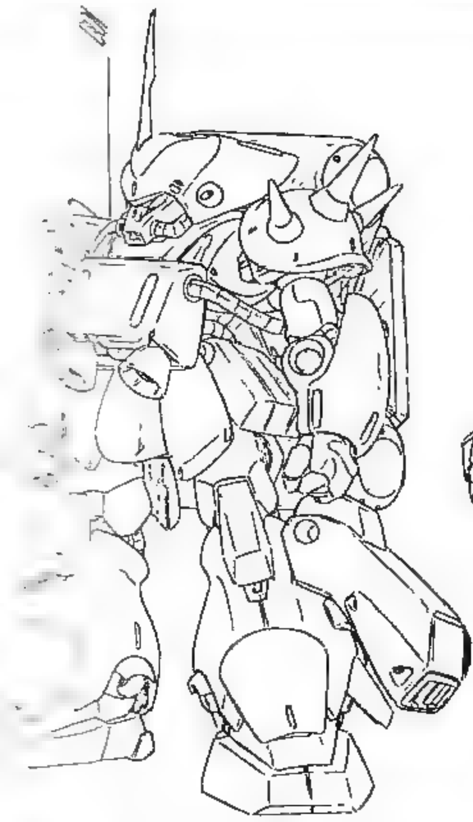
▲ガルバルディβ。ライラたちルナツー防衛隊が使用

▲エゥー
出資者
ウォン・

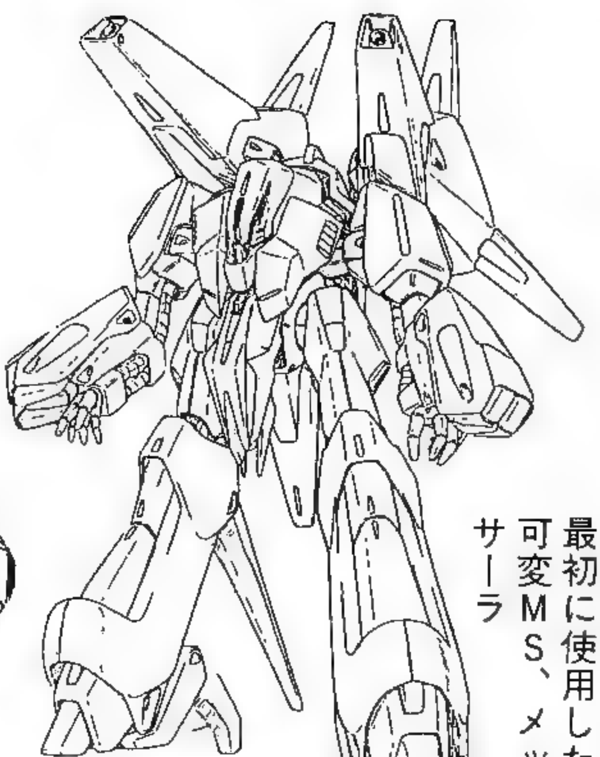
ジャブローへ侵攻するため大気圏ギリギリの所で、次々とMSを発進させるエゥーゴ艦隊。そしてそれを阻止するためにやってくるティターンズのMSと、木星からやってきた男、シロッコ。カミーユたちは必死の防戦を行い、なんとかジャブロー上空へとやってきた。

しかし、そこはすでにもぬけのからで、中枢部はどこかへ移転してしまった後なのだった。そしてさらには、罠として自爆用の核爆弾が…！急ぎ脱出を迫られたエゥーゴのメンバーは残っていた超巨大飛行機ガルダを奪い、なんとか脱出したのであった。しかし、再びメンバーと装備を宇宙へ送り返す手段はなく、彼らは地球をさまようことになってしまう。

それを知った地上の反連邦組織カラバは、協力を申し出てきたのだが、その中にはアムロやハヤトなどの姿もあった…。



ィターンズが使って
MS、マラサイのバリ
パック装備状態



◀シロッコが最初に使用した可変MS、メッサーラ



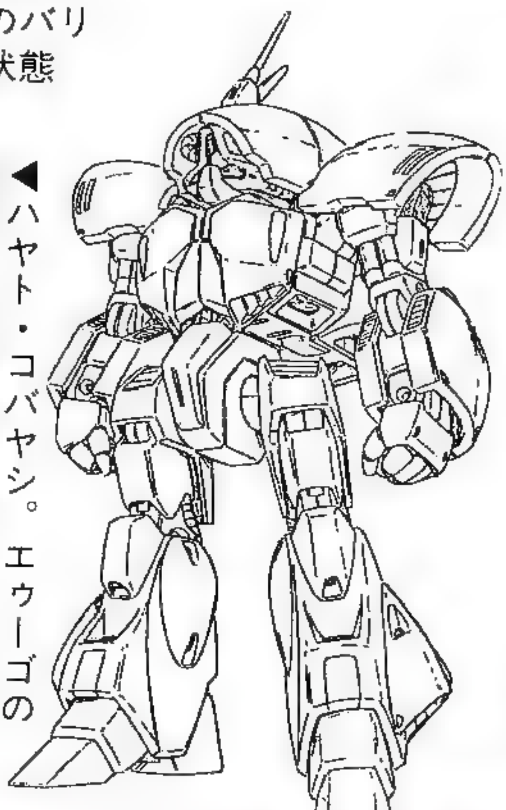
▲ヘンケンの制服姿。戦艦アイリッシュの艦長となる



▲さびしさの余りエゥーゴを裏切った女性、レコア



◀ハヤト・コバヤシ。エゥーゴの地球上での支援組織、カラバの指導者となっていく



◀大気圏内を単独で飛行できる初のMA、アッシマー



▲ジャミトフ・ハイマン大将。ティターンズの首領

第17話〜第20話

少しずつではあるが、なんとかパイロットを宇宙に帰し続けて、残ったのはカミーユ1人となった。しかし、協力しているカラバが用意したシャトルも当座の分は底をついてしまい、彼の帰還はしばらくまたねばならないのだった。

また、アウドムラ自身、急な発進のために食料が不足しており、危険とはわかっていても、補給をするために自治区であるホンコンに寄ることを決める。

そして、カミーユはそこで彼の精神を充足させる不思議な少女フォウ・ムラサメと出会う。2人はともにさびしかったのである。

だが、彼女はアウドムラ攻撃のために派遣された強化人間だった。戦場でそのことを知ったカミーユは彼女に自分の心を訴えかける。彼を理解することで自分を理解したフォウは、





▶フラウ・コバヤシ。ハヤトと結婚し、カツたちを養子として育てている。当時妊娠中



▶7年を経て可愛いく育ったキッカ。大きくなったものである



▲3人の中、唯一宇宙へ行ったカツ

▲レツ。雰囲気は7年を経ても変らない



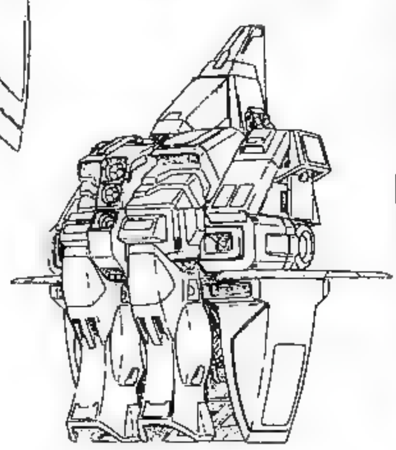
▲ルオ・ステファニー。ルオ商会会長の一人娘



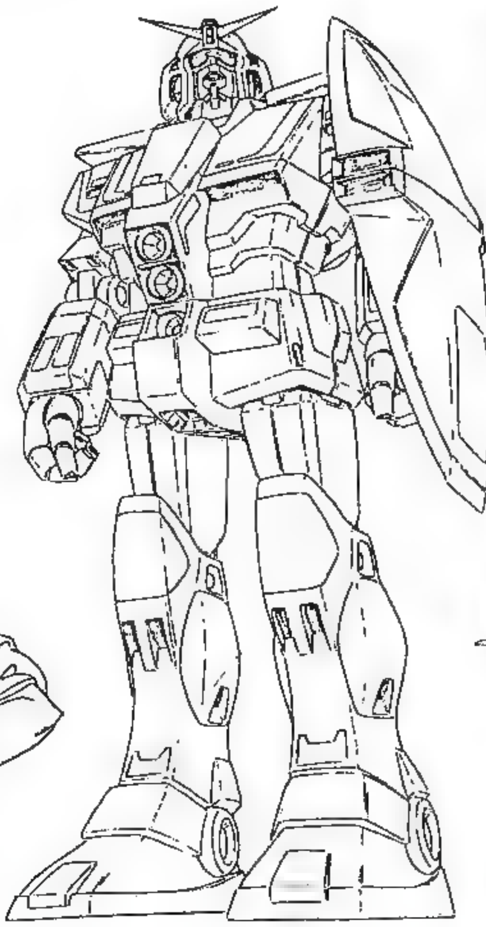
▲アムロの恋人となるカラバのベルトーチカ・イルマ



▲ブライ
婚、2人
ちのミライ



▲サイコガンダムのモビルフォートレス形態



▲フォウの操るサイコガンダム。全高40m



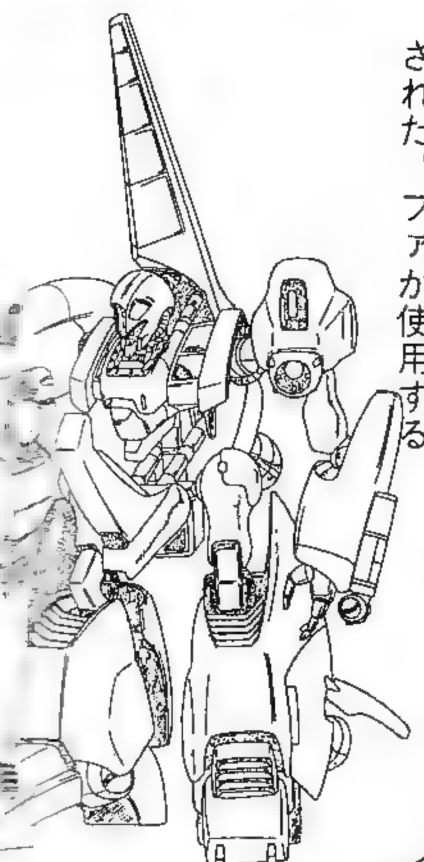
▲哀しき強化人間、フォウ・ムラサメ

第27話〜第28話

宇宙へと帰ってきたカミーユは、無事にアーガマに収容され、戦線へと復帰した。しかしその直後、やはり宇宙へと帰ってきていたジェリドの部隊と交戦、カミーユの乗るガンダムMk－Ⅱは、ジェリドの気迫と新型のMSに圧倒され敗退、一時は彼自身、死を覚悟するまでに至ってしまう。

だが、そこへ新型の変型MS、Zガンダムをファが運び込み、それに乗りかえたカミーユはなんとか巻き返しに成功したのだった。

戦況全体としては、ティターンズの月面基地制圧作戦やグラナダへのコロニー落しなどが行なわれたが、エゥーゴの努力により、なんとか回避するのに成功、一進一退の状態であった。しかし、そこへシロッコの部隊が参入、ティターンズ側についたためバランスがくずれてしまう。戦力数的に劣るエゥーゴにとって、拡大した戦線での戦闘は不利でしかなかった。



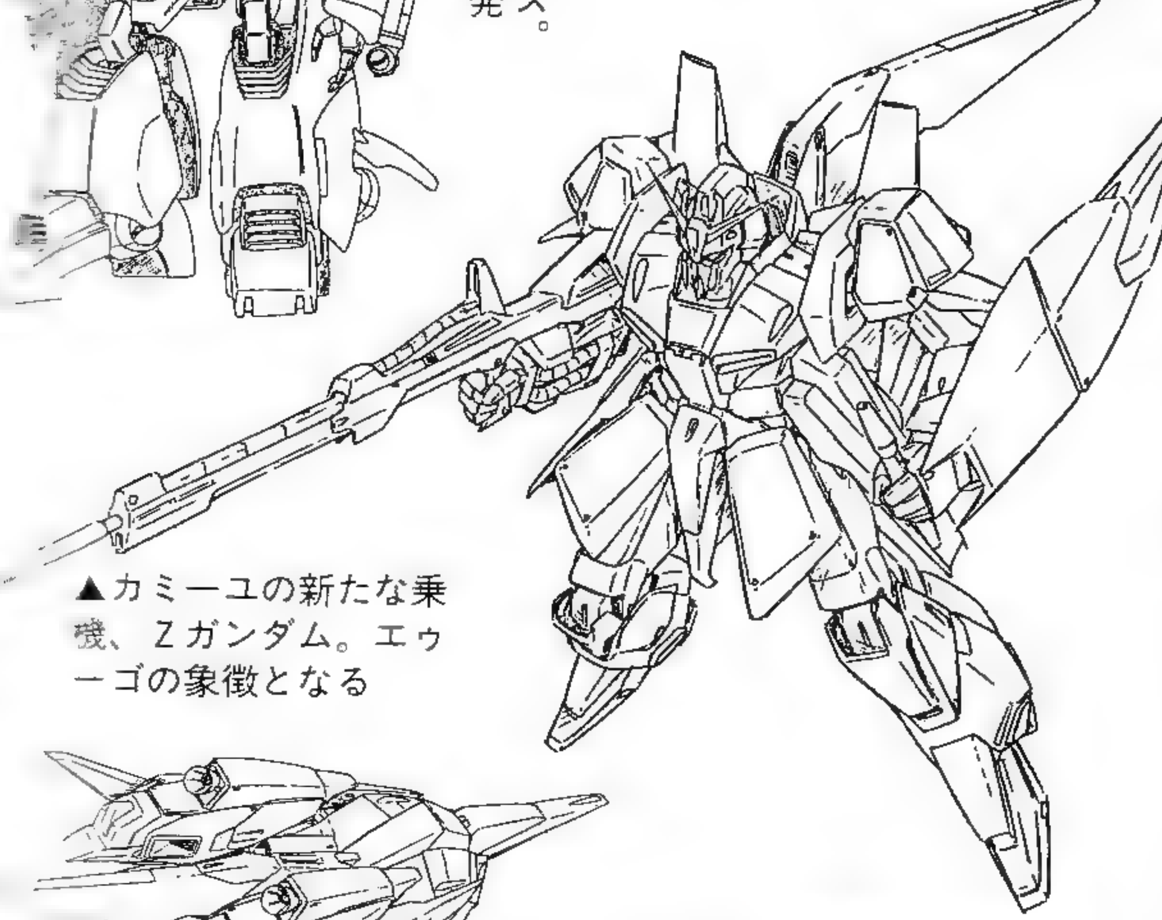
◀エゥーゴの可変MS、メタス。Zガンダムの支援用として開発された。ファが使用する



▲アストナージ。アーガマのメカニックマン



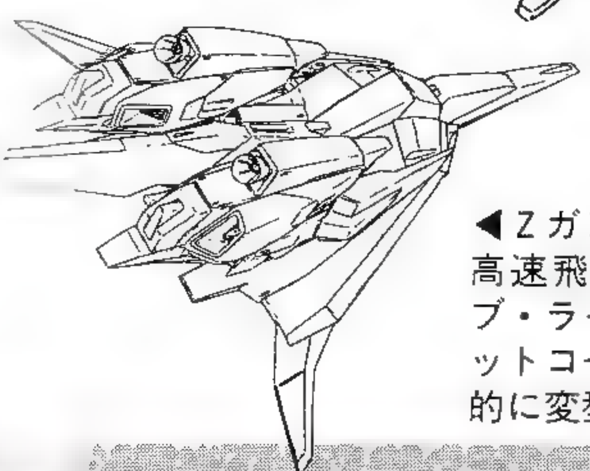
▲アーガマのブリッジクルー、トーレス。通信担当



▲カミーユの新たな乗機、Zガンダム。エゥーゴの象徴となる



▲ブレックスの艦内での服装



◀Zガンダムの大気圏突入及び高速飛行形態である、ウェーブ・ライダー・モード。マグネットコーティングにより、瞬間的に変型できる

第29話〜第37話

バランスがくずれ始めたとはいえ、いまだ決定的な状態を見せない戦線を打破するため、エゥーゴとティターンズ、両軍の上層部が考えたことは、地球圏に接近しつつあったジオン公国残党の小惑星基地、アクシズの戦力を味方に引き入れることだった。アーガマもその使節役を命令され、アクシズと接触するが、そこで彼らを待ち受けていたのは強大な戦力と、ミネバをかいらいとするハマーンの手による時代錯誤的な軍事権力であった。結局、アクシズは一時的にティターンズと組んだものの、後に分離、戦局は3者が入り乱れてさらに混迷してしまう。

そこで、エゥーゴは一気挽回のための作戦を地球上で展開することにする。新たな連邦の拠点、キリマンジャロ基地を潰すとともに、エゥーゴの正当性をシャア・アズ



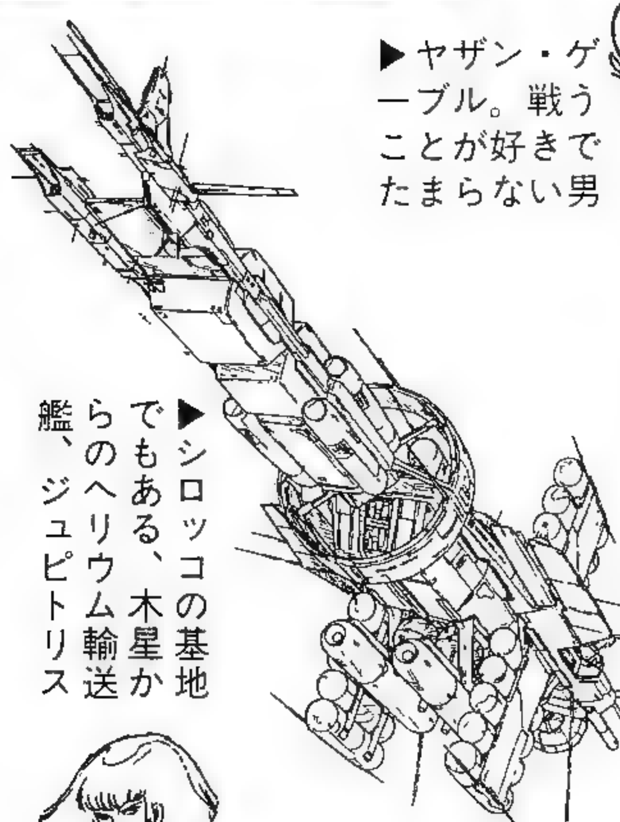
▶木星から来たニュータイプ、パプティマス・シロッコ。出生は謎である。



▶ヤザン・ゲーブル。戦うことが好きでたまらない男



▶クム。シンタと一緒につられてきた



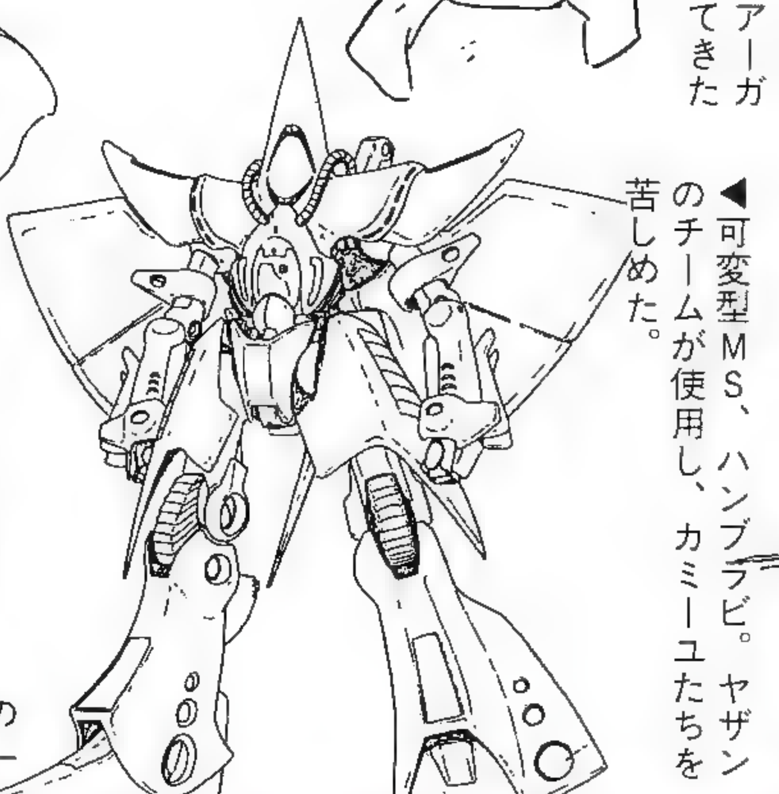
▶シロッコの基地でもある、木星からのヘリウム輸送艦、ジュピトリス



◀シンタ。戦災孤児。シャアに拾われてアーガマへやってきた



◀[illegible]娘で、ザビ家唯一の生き残りでアクシズ軍の象徴。



◀可変型MS、ハンブラビ。ヤザンのチームが使用し、カミーユたちを苦しめた。



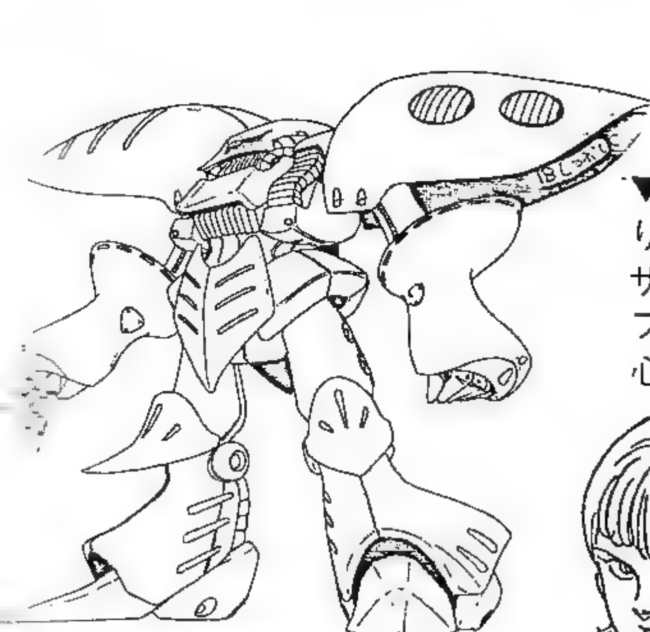
▲アクシズ軍の指揮官、ハマーン・カーン

第38話〜第46話

シャアのダカール演説は大成功であった。大衆にその残虐性を知られてしまったティターンズは支持を失ってしまったのである。だが、その間にもカミーユはキリマンジャロ基地の攻防において、再会を果したフォウの死をまのあたりにしてしまっている。

いっぽう、民衆の支持を失ったくらいではあきらめたりしないティターンズの首領ジャミトフは、コロニーレーザー砲、グリプス2を出撃させて、その力を人々に見せつける。と同時にア・バオア・クーを改造した移動要塞ゼダンの門を可動させ、エゥーゴとアクシズ軍をせん滅させようと画策したのだった。しかし、アクシズとの体当りによりゼダンの門は全壊、ジャミトフ自身もシロッコの手により暗殺され、組織を乗っ取られてしまう。

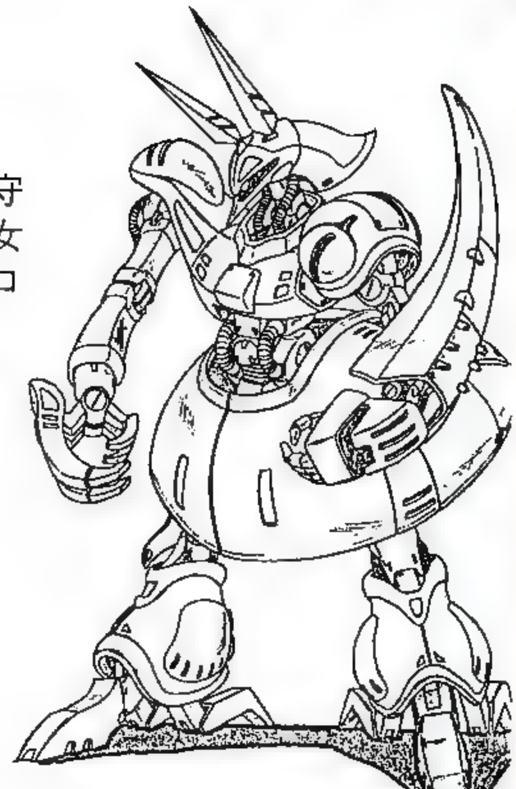
役者が出そろい、戦いは最後の局面へと突入したのである。



▲ハマーンの愛機・キュベレイ。ファンネルを装備している

▼シロッコを守りつづけた少女サラ・ザビアロフ。カツとも心を通じる





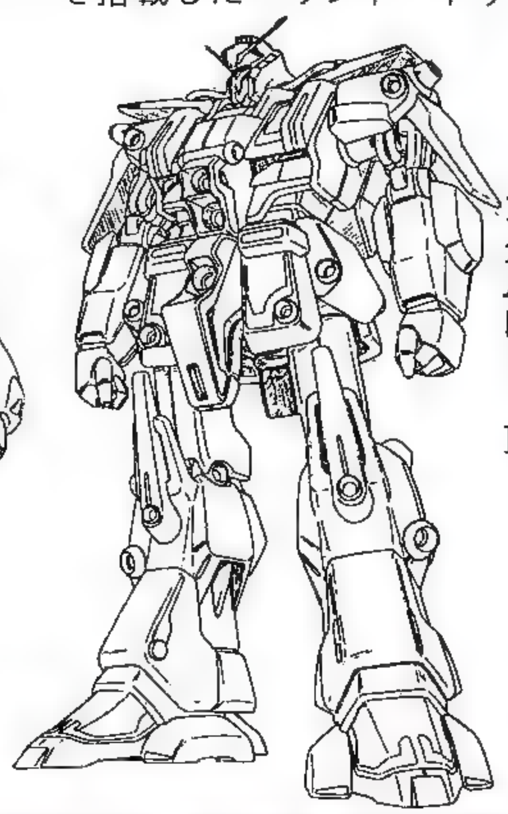
▲ニュータイプ用にサイコミュを搭載したバウンド・ドック



◀強すぎる精神制御のために崩壊していったロザミア



▶シロッコが最後に使用していたMS、ジ・オ。見かけの不恰好さに似合わず、かなりの高性能である



◀ロザミアが操縦していたサイコガンダムMk－Ⅱ

第47話～第50話

コロニーレーザー砲の周囲に集まり始める3つの軍。今こそ覇者を決めるべく戦闘は始った。その戦いの中で、エマやヘンケン、カツなどが、カミーユにその哀しさを伝えながら、次々と死んでいく。

そのなかでシャアは、ハマーンとシロッコの2人から行動と意志をなじられ、それを認めてしまう自分に苦しんでいた。だが彼は人類のニュータイプへの覚醒を信ずると語り、戦闘を続ける。そこへ入り込んできたカミーユは、戦いの意志を生み出しているのは、シロッコだと断定、こいつだけは自分で決着をつける、と死んでいった者たちの意志を背負い精神を爆発させながら体当りで倒したのだった。

しかし、シャアはハマーンとの一騎討ちの中、他人のためにしか闘えぬ自分に失望し、行方をくらましていった。



▶ヤザン・ゲーブル。MSの脱出ポットでシャングリラに流れつき、ジュドーたちに助けられた男



▶リィナ・アーシタ。さまざまな指針を兄に与える



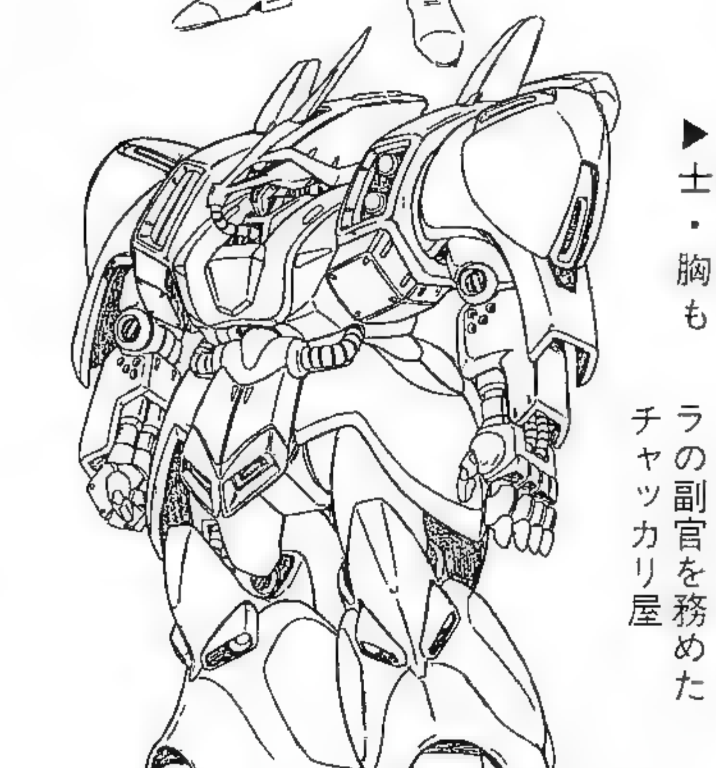
▶ジュドー・アーシタ。宇宙生まれの宇宙育ち。生活費を自分で稼ぐ行動派少年



▶マシュマー・セロ。騎士道精神を重んじるネオ・ジオンの若き指揮官。胸のバラは、ハマーンにもらった宝物だ



▶ゴットン・ゴー。マシュマーとキャラの副官を務めたチャッカリ屋



◀ガルスJ。巡洋艦エンドラに積まれていた新鋭MSのひとつ。左腕にマシンガンが内蔵されている

第2話〜第3話

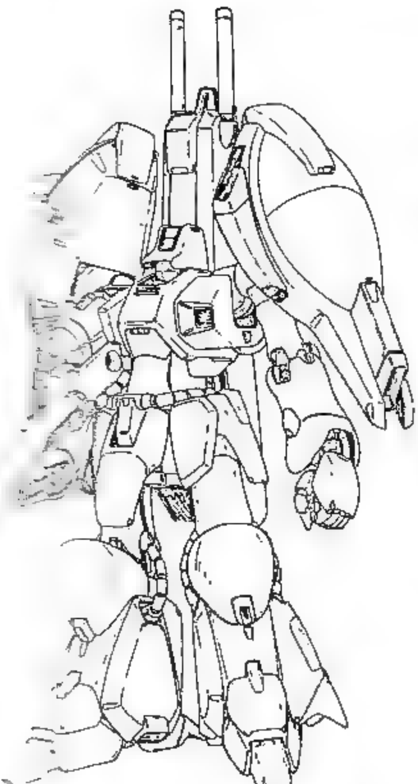
Zガンダムを盗み[illegible]うけになる!!

サイド1で最も古いコロニーのシャングリラで、仲間たちとジャンク屋稼業を営んでいた少年――ジュドー・アーシタは、元ティターンズのヤザンの目ぐるまにのせられ、修理のためにアーガマが寄航していた宇宙港に侵入。Zガンダムのコクピットにもぐり込むことに成功する。

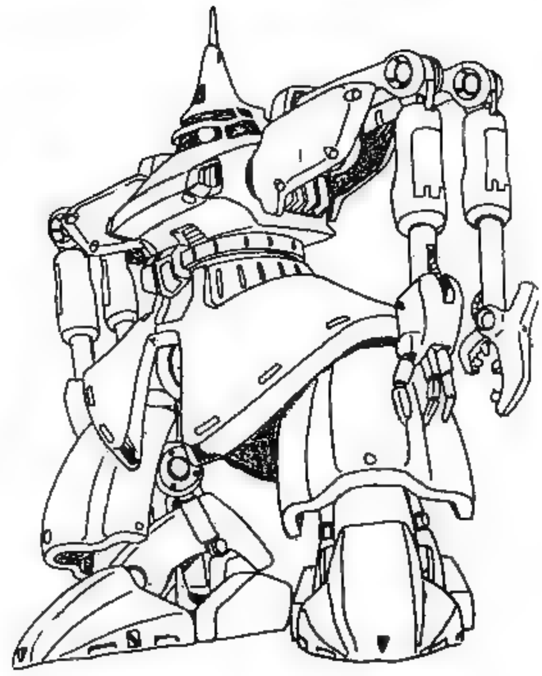
だが、そのとき、Zガンダムのモニターに、ヤザンが人間を殺す光景が！ジュドーは、そんな非人道的な行為に激怒し、Zガンダムを作動させた。ヤザンの乗るプチMSをやっつけるために……。

こうして、アーガマのクルーたちとかかわりを持ったジュドーは、マシュマーが指揮するネオ・ジオン軍の襲撃にもまきこまれてしまう。ガルスJの攻撃を受けたファを助けるため、勝手にZガンダムを動かして出撃してしまったのだ。

※第1話「プレリュードZZ」は特番のため、本編とは関係ありません



▲ガザD。ネオ・ジオンの量産可変MS



▲ゲゼ。ジャンク屋の元締、ゲモンが作ったリサイクルMS



▲ビーチャ・オレーグ。ジュドーたち、少年ジャンク屋のリーダー



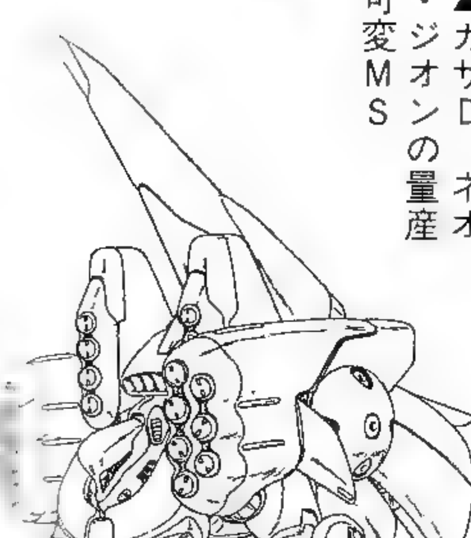
▲モンド・アカゲ。ジュドーの仲間。メカに強い



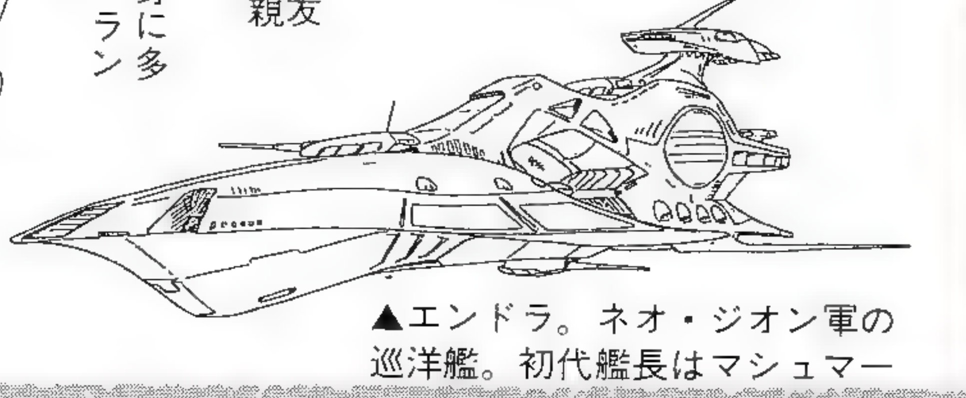
▲イーノ・アッバーブ。ジュドーの親友



▲エル・ビアンノ。ビーチャのGF（？）



◀ズサ。全身に多数のミサイルランチャーを持つ



▲エンドラ。ネオ・ジオン軍の巡洋艦。初代艦長はマシュマー

第4話〜第6話

アーガマは、シャングリラのジャンクの山を隠れ場所として、ネオ・ジオン軍の目を逃れた。ファやトーレスでは、操縦が複雑なZガンダムの能力をひきだすことはできない。戦闘を行うためには、あまりにもアーガマは不利な状況にあったのである。

しかし、マシュマーは、執拗にアーガマを追いつづける。

ブライトは、食事や生活の保障を条件に、ジュドーをはじめとするシャングリラの少年たちに協力を求めた。人手不足を解消するためには、ある意味でそれしか手段がなかったのだ。

「ジュドー、お願い……。MSに乗って!! このままじゃ、Zもアーガマもやられちゃう……」

拘束を嫌い、アーガマに乗ることを拒否していたジュドーも、そんなファの願いに心を動かされた。



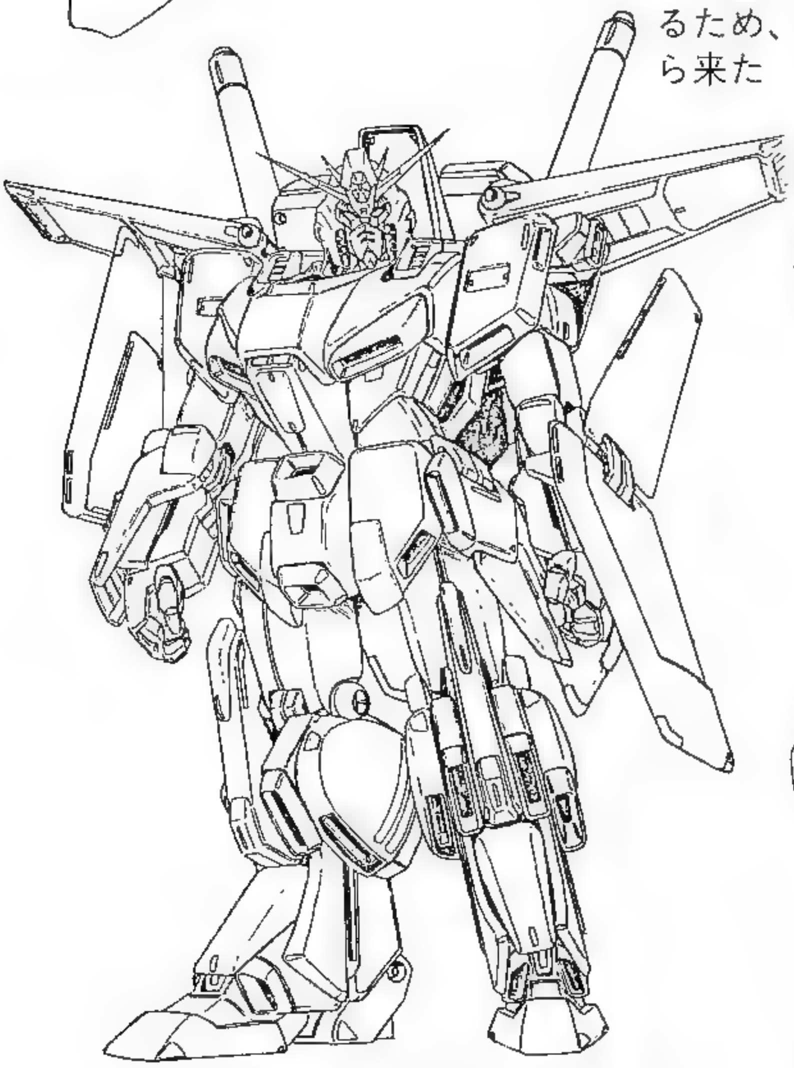
◀頭部に内蔵されたハイ・メガキャノンは、一撃で戦艦を沈めることができる必殺武器だ



▲キャラ・スーン。マシュマーを監視するため、アクシズから来た

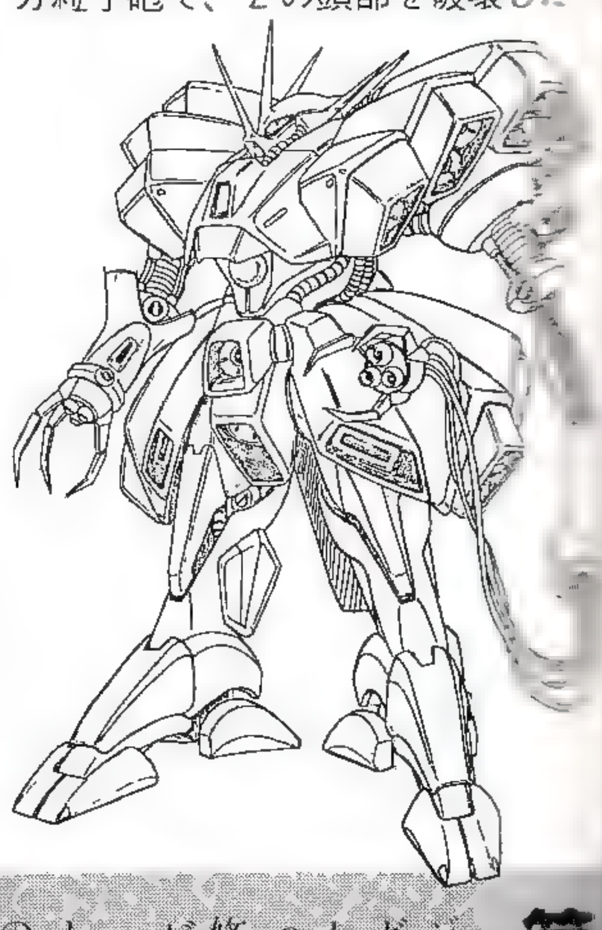


▲グレミー・トト。ジオンの血を受け継ぐ少年将校。ルーに恋心をいだく



▲ＺＺガンダム。重火器型の合体可変ＭＳ。パイロットは、ジュドー

▼ハンマ・ハンマ。高出力、高機動を持つ試作ＭＳ。シールドのメガ粒子砲で、Ｚの頭部を破壊した



第7話〜第13話

シャングリラの内部で、ネオ・ジオン軍と戦いつづけていたアーガマに、宇宙ドックのラビアンローズからの使者、ルー・ルカがやってきた。アーガマと艦載ＭＳを修復するために、ラビアンローズが近くの宙域まで来ていたのだ。

　ふたたび宇宙空間に旅立ったアーガマは、執拗なネオ・ジオン軍の追撃と戦いながら、なんとかラビアンローズと合流。ハンマ・ハンマとＲジャジャの両面攻撃を受け、大破したＺガンダムに変わる新型ＭＳ――二機の戦闘機が合体して完成するＺＺガンダムが、新たに配備された。

　しかし、ジュドーにとって悲しい出来事が……。ジュドーを助けるため宇宙に出撃した妹のリィナが、ネオ・ジオンのグレミーに連れ去られてしまったのだ。

「リィナ……待ってろよ。必ずオレが助けてやる。それまでガマンしてくれ……」



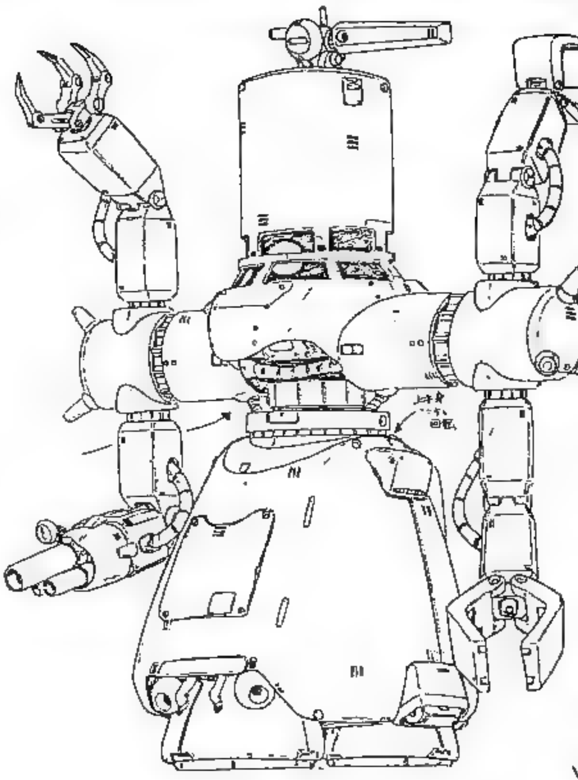
▲ラサラ・ムーン。
ーンムーンに住
ン女



▲ッチャー・ム
チャー。エゥー
の指揮官



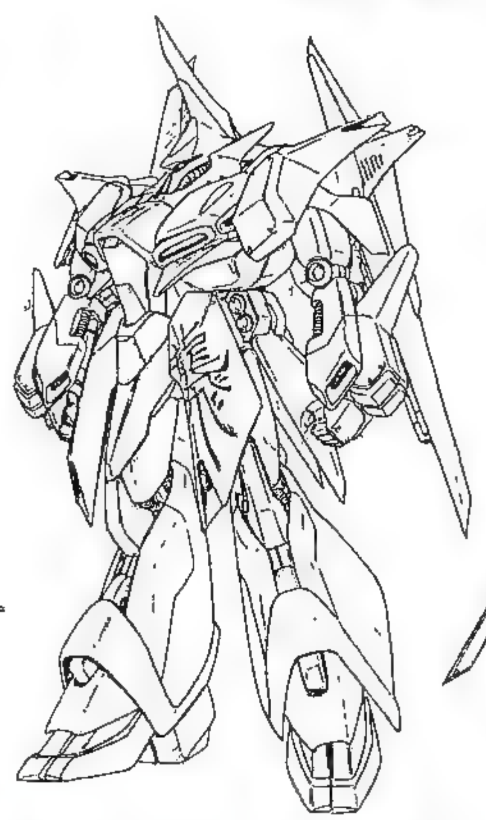
▲ミリィ・チルダ
ー アナハインの
社員。メガライダ
ーを持ってきた



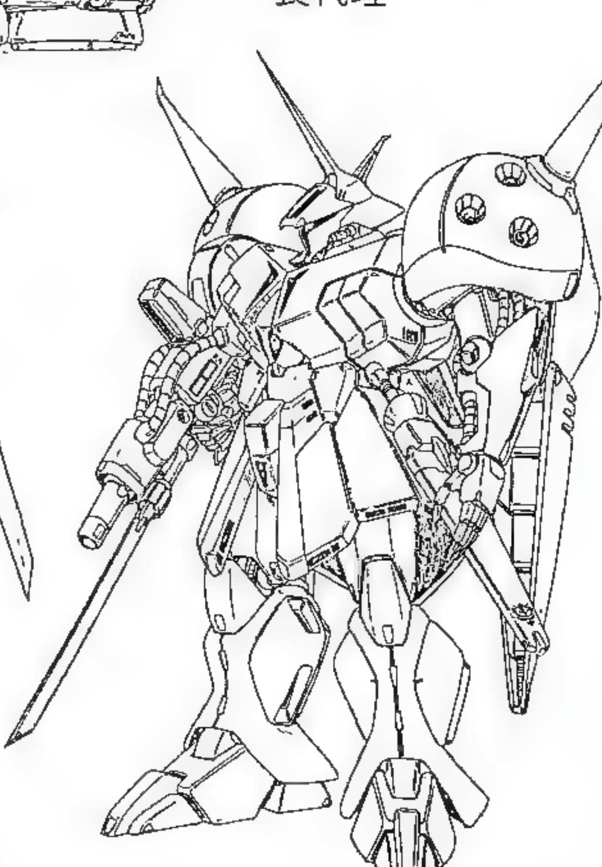
▶キャスク。ムーンムーンで神の像として祭られていた10数年前のMS



▲エマリー・オンス。ラビアンローズの艦長代理



▲バウ。グレミーに与えられた2機合体タイプのMS



▲Rジャジャ。キャラ専門のMS。ギャンの後継機にあたる

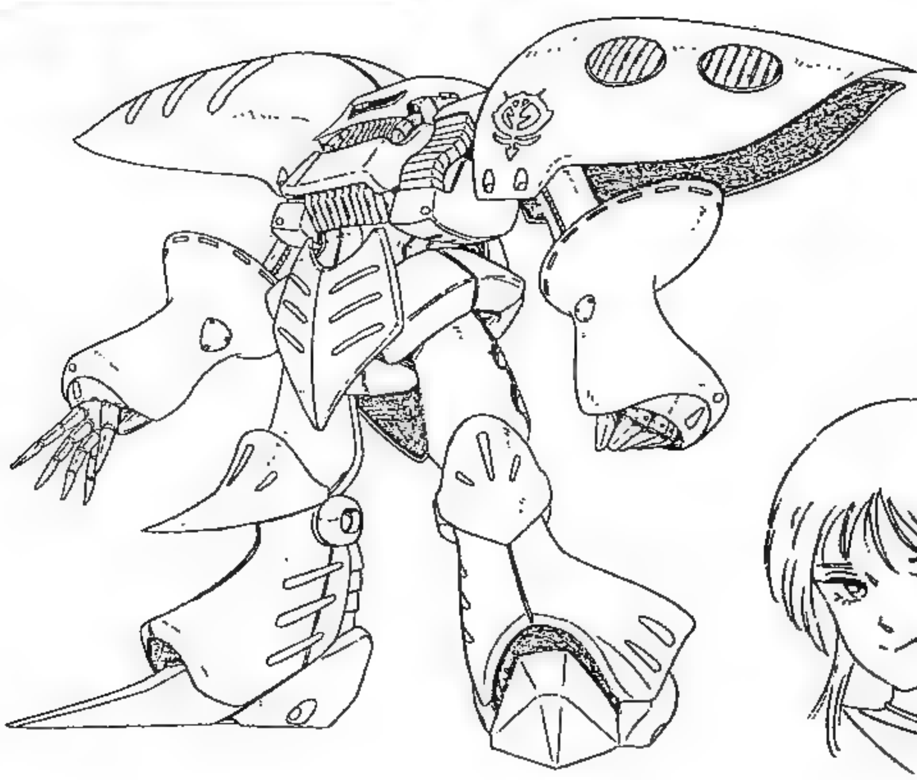
第14話〜第21話

ラビアンローズで大規模な改装を行い、人々に忘れ去られた幻のコロニー・ムーンムーンの騒動を解決したアーガマに与えられたつぎなる指令。それは、新たに装備されたハイパー・メガ粒子砲で、敵の拠点であるアクシズを攻撃せよ、という無謀な作戦だった。

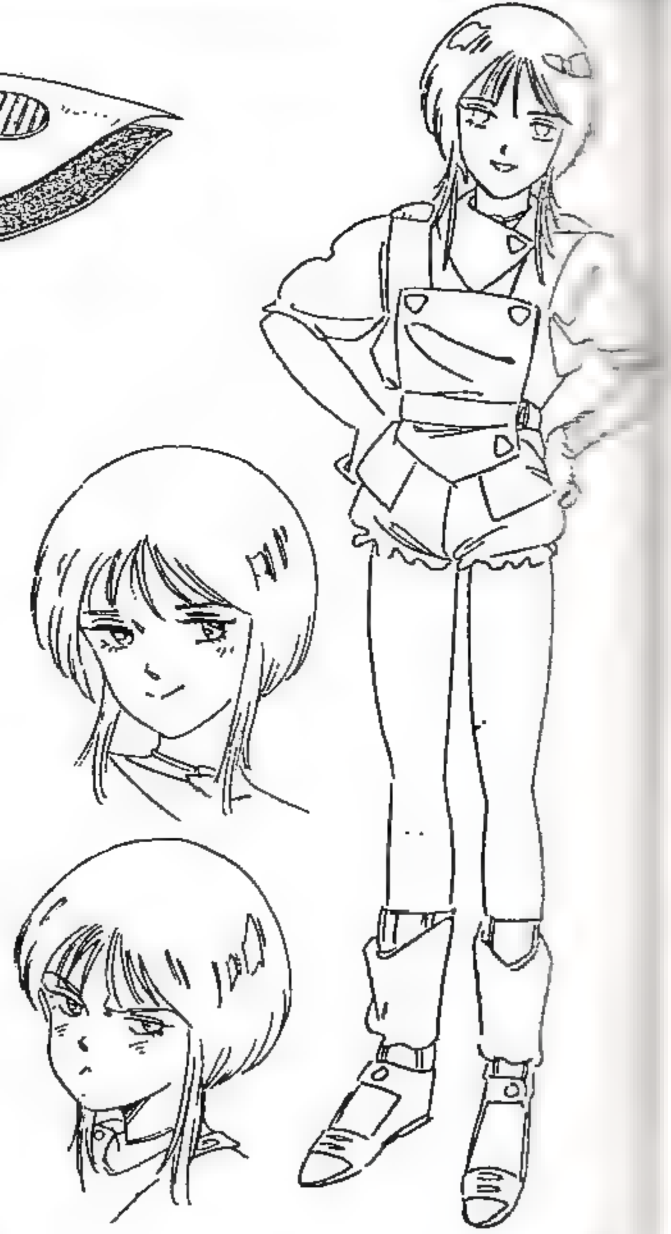
ジュドーは、妹を救出するため、一足先に、コア・ファイターでアクシズに潜入。そこで、プルと名乗る不思議な少女、そしてネオ・ジオン軍を支配するハマーン・カーンと出会う。

結局、アクシズはアーガマの攻撃を受けてもビクともせず、ジュドーも、プルに邪魔されたために、リィナを救出することができなかった。作戦はなにひとつ成果のないまま終了したのだ。

ふたたび傷ついたアーガマは、月のグラナダに降り、ネオ・ジオンの[illegible]



▲キュベレイMk-II　ハマーン専用機のレプリカで、プルが使用。オールレンジ攻撃で、ＺＺを苦しめた



▲エルピー・プル。グレミーのもと強化訓練を受けてきたニュータイプ部隊の少女。大気圏突入の際、ジュドーに助けられて以来、アーガマに居ついてしまう。精神面では、普通の同子供と変わる所はない



▲セシリア・アイリーン。移民船の切符を得るため、アーガマをスパイした



◀ハマーン・カーン。ミネバの後見人であり、実質的なネオ・ジオンの支配者

第22話〜第23話

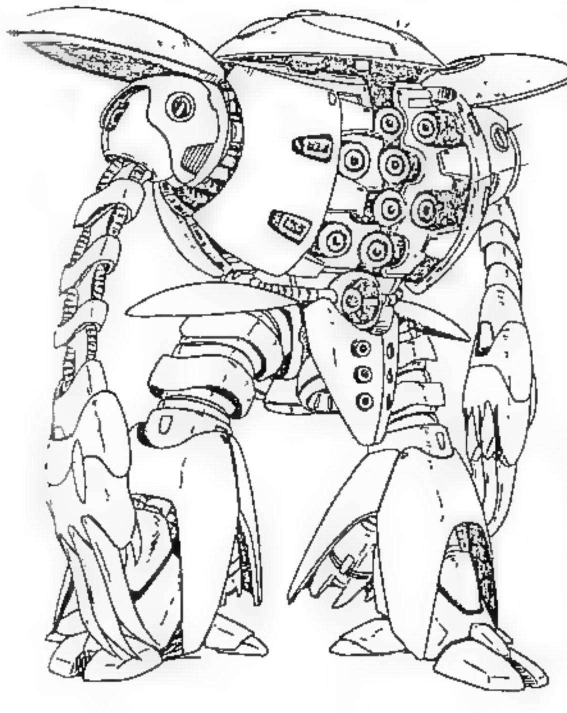
地球に降下するため、ハマーンの艦隊は静止衛星軌道に展開。それを追うように、アーガマも月から発進した。

またもや、リィナを救出するために独断で出撃したジュドーは、ＺＺと自分の体に爆弾を取りつけ、旗艦のサダラーンに接近。リィナを返せと脅しをかけた。

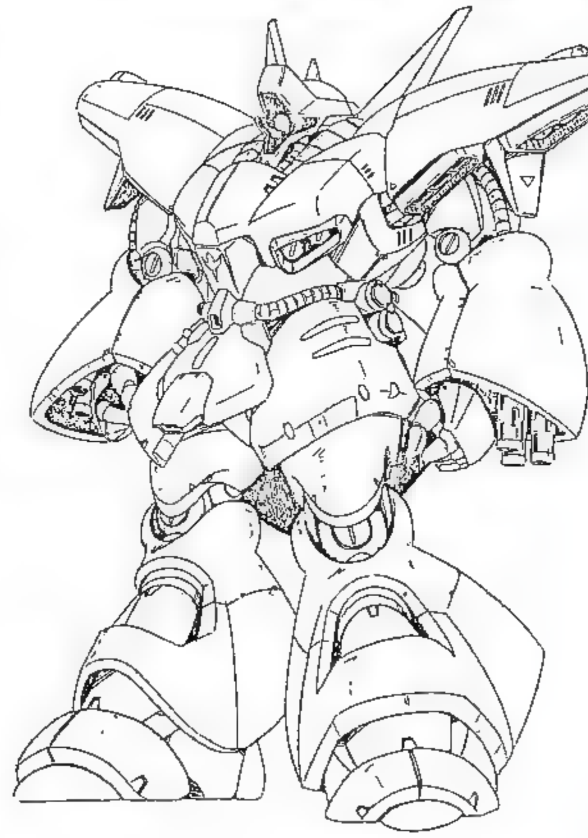
ハマーンは、リィナが艦内にいないにもかかわらず、その名まえを利用してジュドーをよび寄せた。ジュドーのニュータイプ能力を見抜き、彼をネオ・ジオンの同志にしようとしたのだ。

むろん、ジュドーはそれを拒否した。ハマーンに悪の臭いを感じ取ったのである。

そして、ネオ・ジオンの大気圏突入がはじまった。これを阻止するため、アーガマは全戦力を投入。ジュドーはＺで出撃し、洗脳処置を受けたプルと激突するはめになってしまう!!



◀カプール。ネオ・ジオンの水中戦用MS。水中で活動する際には、手足が折りたたまれ、球形になる



▲ドライセン。リック・ドムをベースに作られた量産型重MS



▶ラカン・ダカラン。豪放な性格のネオ・ジオン軍将校。グレミー派の中心戦力となる



オーギュスト・ギダン。
レミーを監視する副官



▼マサイ・ウガンバ。赤いゲルググを駆る悲しき女戦士



▲ロンメル。旧ジオン軍中佐。旧装備でガンダムに挑んだ



▲タマン。ネオ・ジオンに手を貸す少年



▶アヌ。ギニアの海辺に住むタマンの妹

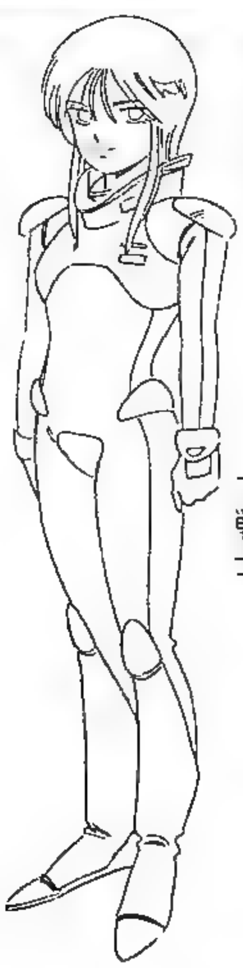
第24話～第28話

地球降下作戦に成功したネオ・ジオンは、地球連邦政府の中枢であるダカールを制圧。地球圏をその手中に収めたかにみえた。

しかし、数日後に行われたアーガマとアウドムラの連携作戦によって、ダカールは瞬時のうちに奪還されてしまう。ハマーンは、この敗北によって、地球圏を支配するには、腐敗した連邦議会などを支配するよりも、まず、エゥーゴを倒さなければならないことを悟らされたのである。

また、はじめて地球に降りたジュドーも、そこに住む堕落した政治家たちと、無意味に死んでいく戦士たちの姿を見て、怒りと悲しみにふるえた。そして、最愛の妹・リィナが……。

ダカールでの戦闘中に、ジュドーはリィナを救出した。だが、ジュドーが撃墜した敵MSが、こともあろうに、リィナが隠れていた



▶ジュネ・コク。変わり者の芸術家。ルーの美しさにひかれる



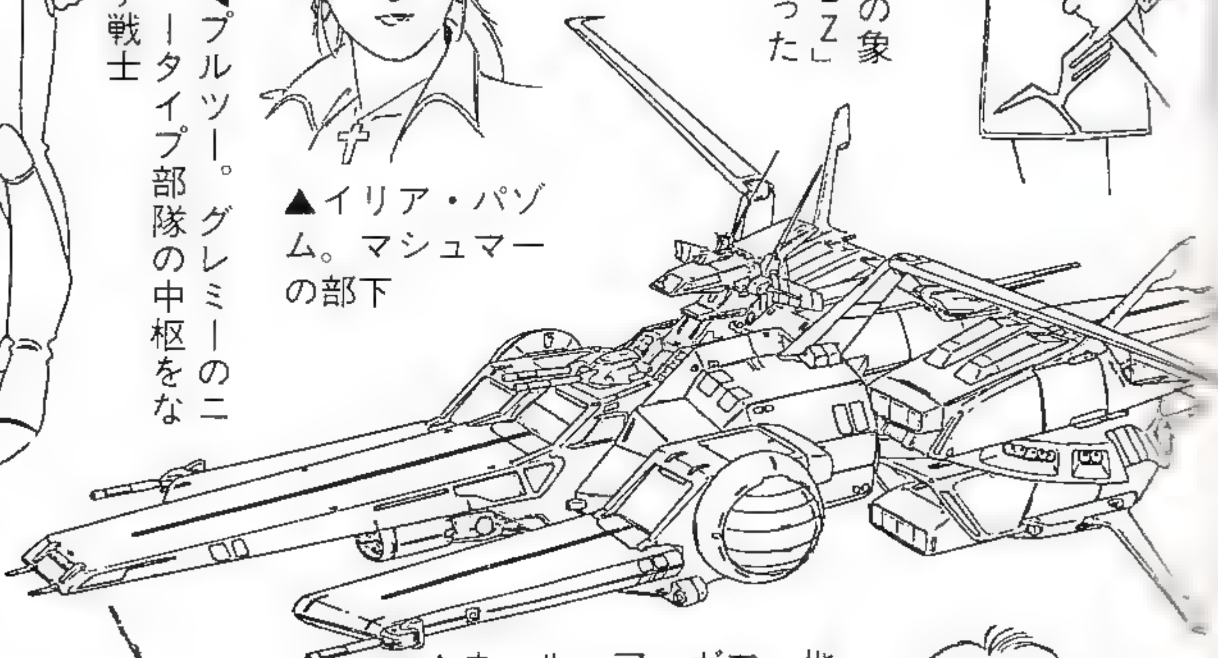


▶ミネバ・ザビ。ネオ・ジオンの象徴ともいえるドズルの娘。「ZZ」に登場したミネバは影武者だった

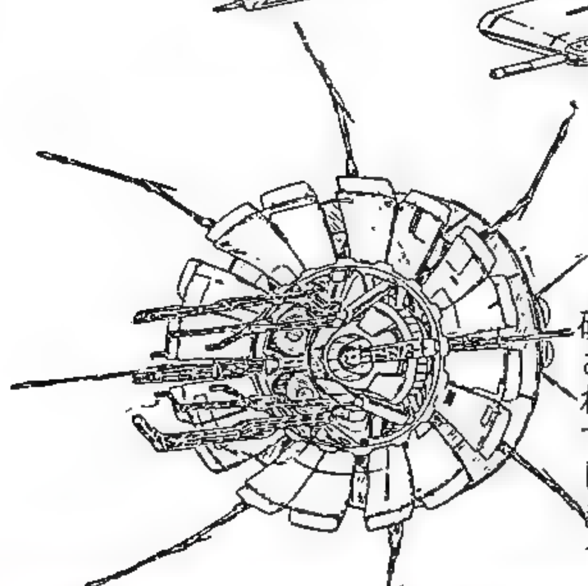


◀プルツー。グレミーのニュータイプ部隊の中枢をなす戦士

▲イリア・パゾム。マシュマーの部下



▲ネェル・アーガマ。地上に残したアーガマにかわる新造戦艦。艦長はビーチャが務めた



◀ラビアンローズ。エゥーゴのドック艦。クィン・マンサに撃破されてしまう



▲マシュマー・セロ。強化人間としての処置を受け、再登場

第29話～第36話

ハマーンは、ネオ・ジオンの力を誇示するため、コロニー落としを敢行。白い炎が、イギリスのダブリンを飲み込んだ。

そんな状況を利用して、グレミーの切りふだ——第2の強化人間プルツーが、アーガマに襲いかかる。サイコガンダムMK-IIのプルツーとZZのジュドー、そしてキュベレイのプル。ニュータイプの素養を持つ、3人の戦士の悲しき激突が、またもや展開されてしまったのである。

自分と同じ顔をしたプルツーを倒すため、プルは自分の生命を力に変えて戦ったが、完全にとどめをさすことはできなかった。

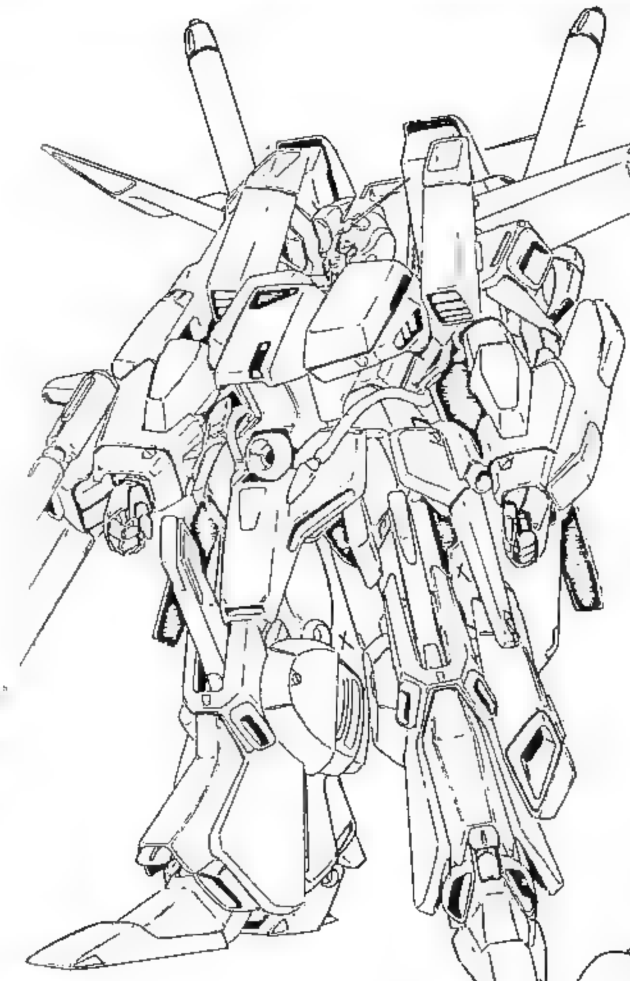
「プルは、プルに殺された……」

サイコガンダムの操縦者の顔を見たジュドーは、呆然とした。

こうして、エゥーゴに巨大な恐怖を与えたハマーンは、アナハイムのメラニー会長にサイド3の返還を要求。拠点を手に入れた。



▶スタンパ・ハロイ。サイド３にあるタイガーバウムの実力者



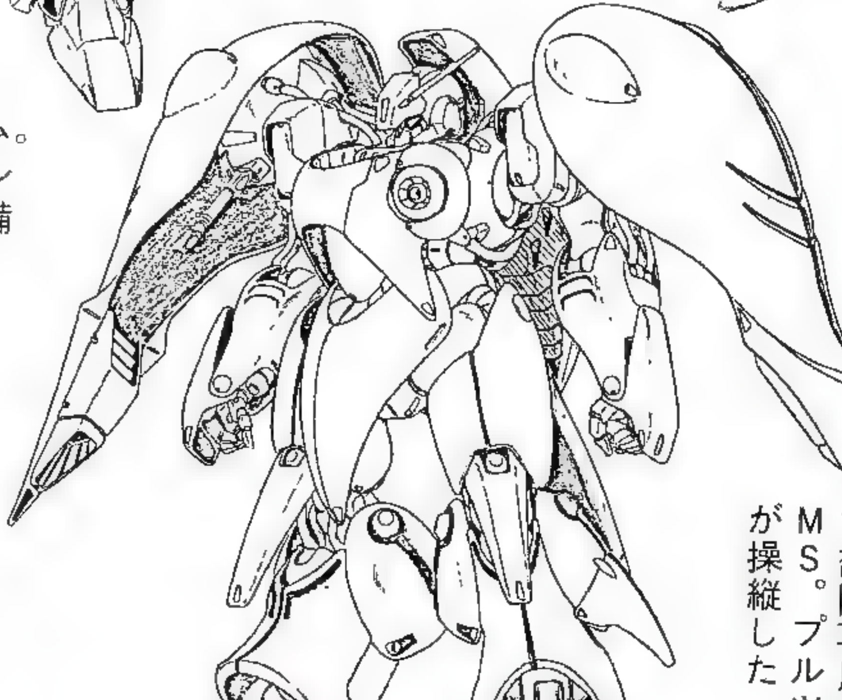


▼ロイ・レビン。鉱山小惑星における反ハマーン派のリーダー

▲ルチーナ・レビン。ロイの娘。プルに似ているという理由で、プルツーに助けられた



ルアーマーＺＺガンダム。
最終決戦に向け、ミサイル
トや増加アーマーを装備





◀クィン・マンサ。ニュータイプ部隊専用最終ＭＳ。プルツーが操縦した

第37話〜第47話

エゥーゴとの最終決戦にそなえるネオ・ジオンに異変が!? ジオンの血を継ぐ男――グレミー・トトが、アクシズを乗っ取り、ハマーンに反旗をひるがえしたのだ。

この両者の激突に、ネェル・アーガマのジュドーたちがくわわり、みつどもえの戦闘がサイド３付近の宙域で展開。マシュマー、ラカン、エマリー……。数多くの生命が宇宙に散っていった。

まず、最初に落ちたのは、グレミー陣営だった。アクシズ内部に突入したジュドーの呼びかけで、たのみの綱であるプルツーも人間性に目覚め、戦闘を拒否。グレミーは、Ｚガンダムのビームを受け、その野望とともに消滅した。

そして、ハマーンとジュドーの激突。ふたりは、両者の一騎討ちによって、この戦いに決着をつけようとした。その結果……。

長い戦いを終えたジュドーは、

ガンダム 雑学フォーラム

知らなくてもいいけれど、知っていると
作品がより楽しめる話題を大集合！

ミノフスキー粒子の表と裏

ガンダムに登場する〈ミノフスキー粒子〉とは、レーダーや無線の電波を広範囲な区域で妨害する物質として設定された。これは現代の電子戦、ECM、ECCM等の電子妨害システムの延長線上にあるものだ。ところが、この物質、ガンダムの世界では、ある必然性として設定されていた。

その理由とは、MSが活躍できる状況を作りだすものであった。考えてみれば、これは当然なことで、レーダーなどが発達すれば、宇宙空間における戦闘は、長距離レーザーや、ミサイルなどを使った艦隊戦に終始してしまう。これではガンダムなどの存在理由がなくなってしまうのだ。つまり、MS活躍のための苦肉の設定というわけ。

デザインの変遷

TVシリーズ第1作開始当時、デザイナーの大河原邦男さんによって、多数のデザインが描かれた。

アムロたちが乗る、宇宙空母ホワイトベースにしてもデザインが決定するまでに何回も描き直されている。

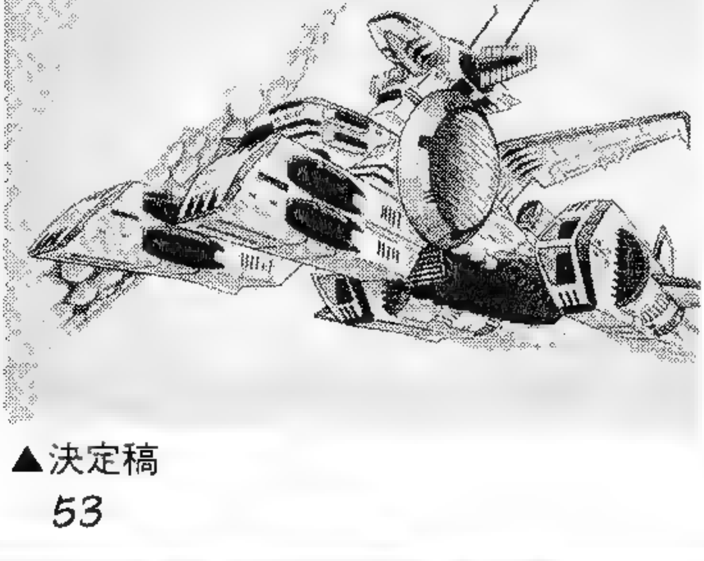
左のイラストは、そのホワイトベースの初期デザインの

[illegible]ば、決定稿（下）とはほぼ変わりない。

大河原さんによれば、このホワイトベースの基本デザインというかシルエットは、エジプトにあるスフィンクスをイメージして作られたものだという。どの番組でもそうだが、作品が生まれるまでには、多くの試行錯誤が行われているのだ。



▲初期デザイン

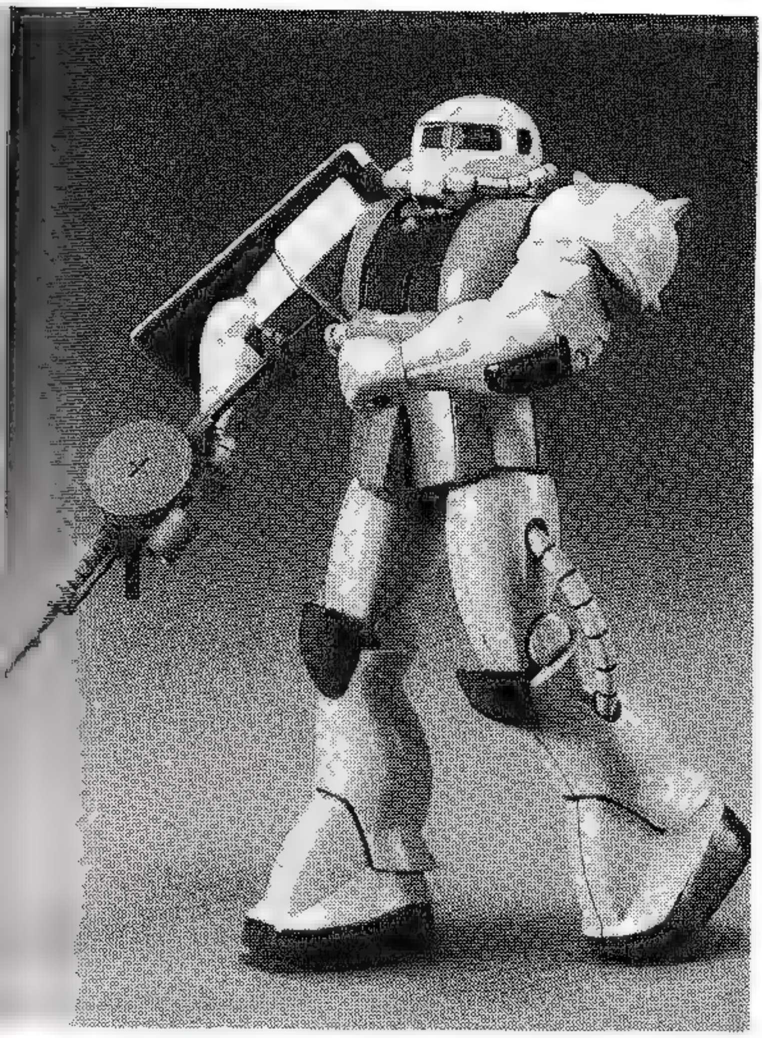


▲決定稿

大ブームのプラモ

「ガンダム」のプラスチックモデル(俗にいうガンプラ)の第1弾が発売されたのは、第1作放映終了後の昭和55年6月であった。このときは〃ガンダムシリーズ〃ではなく、〃ベストメカコレクション〃のひとつとして発売された。(このガンダムプラモが、昭和56年秋頃から爆発的なブームになったのは記憶に新しい)

　ガンダムプラモの新旧を比較すると、プラモ技術の進歩がよくわかる。従来、キャラクタープラモは、その出来が低く見られていたのだが、このシリーズによって各社とも技術水準があがった。もちろん、今回の映画に登場するMSも発売される予定だ。



▲ :スケール・ザク（300円）はガンダムより人気があったMSだ。バンダイ製

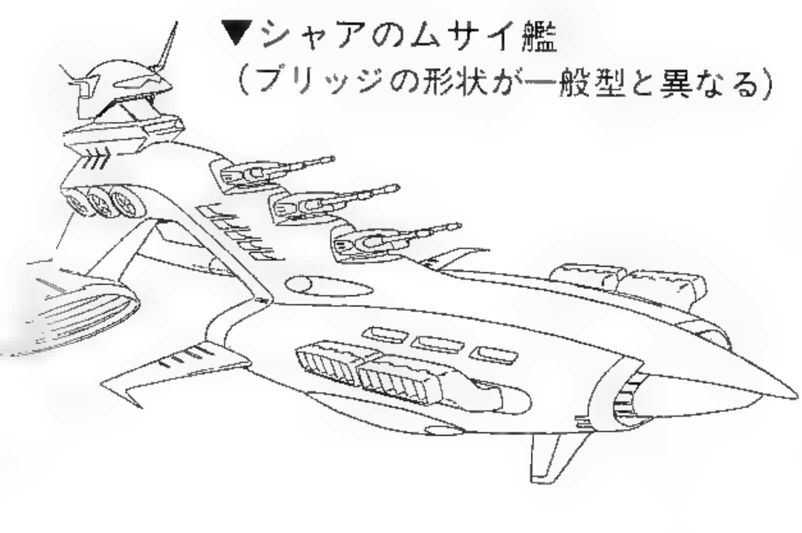
メカニックの進歩

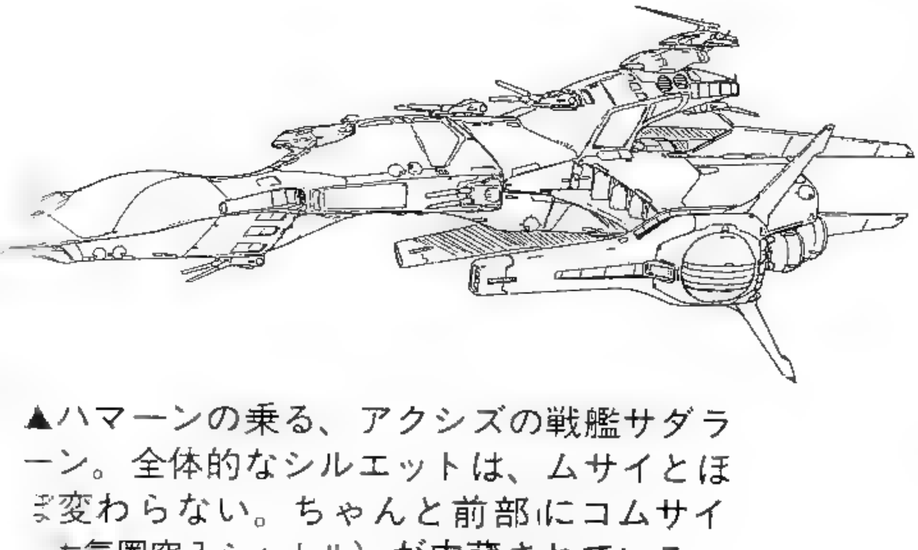
「ガンダム」の世界では、第1作から「ZZ」まで、約8年の歳月が流れている設定になっている。そのあいだ、ガンダムはもとより、いろいろなメカが進歩し、また、デザインが変わった。

たとえばジオン公国戦艦のムサイは、「Z」ではムサイ改として登場し、「ZZ」では名称こそちがうが、明らかに、基本コンセプトが同じ、サダラーンとして登場している。

　今度の映画では、さらに新型になるとか。メカファンにはうれしいこだわりだ。

▼シャアのムサイ艦
（ブリッジの形状が一般型と異なる）



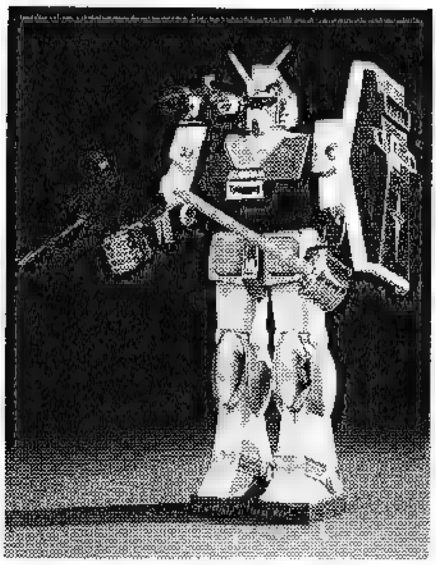


▲ハマーンの乗る、アクシズの戦艦サダラーン。全体的なシルエットは、ムサイとほぼ変わらない。ちゃんと前部にコムサイ（大気圏突入シャトル）が内蔵されている

オモチャはクローバーから

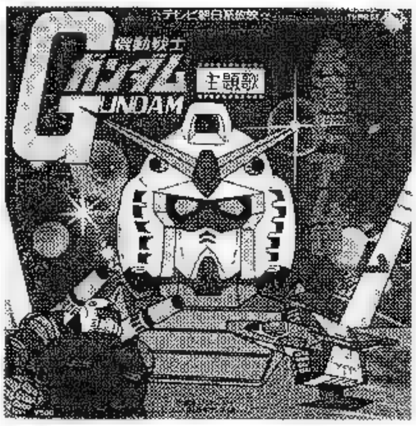
第1作放映時には、当然の事ながら、各種のキャラクター商品が発売された。なかでも最たる商品ともいえる玩具は、クローバーから発売されていた。当時のクローバー最高傑作としては「無敵鋼人ダイターン3」に登場する〝マッハパトロール〟があったが、「ガンダム」シリーズでは17点が発売された。

左の写真は、そのなかのひとつ「ダイカスト・ガンダム」（当時1、550円）である。



子ども向きからおとな向きへ

アニメブーム以降、高年齢者を意識したレコード作りが行われるようになった。「ガンダム」も番組終了後発売したBGM集や劇場版のレコードジャケットは、おとな向けのデザインで発売されている。



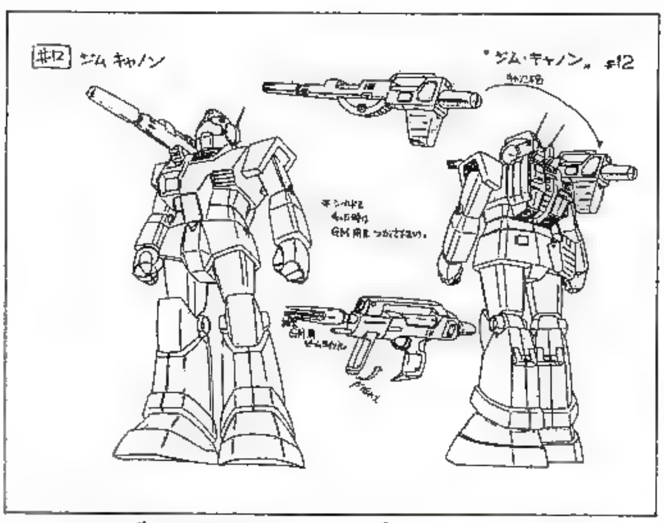
▲最初のシングルジャケット



▲劇場版第1作の挿入歌のシングルジャケット

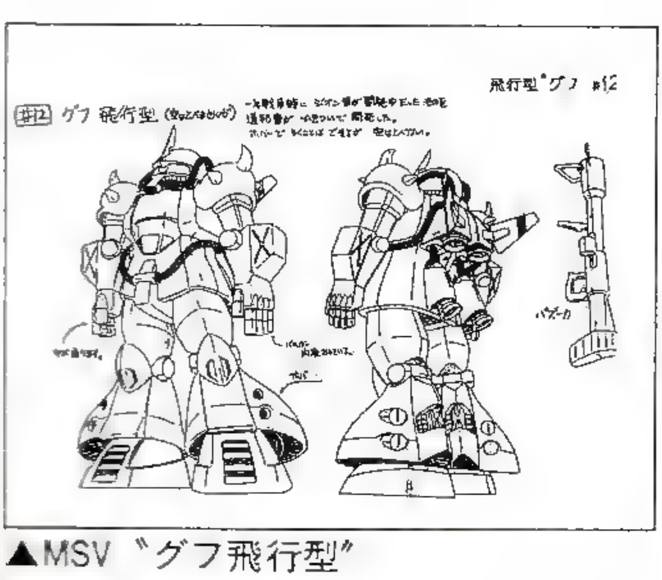
MSVとは

「ガンダム」のプラモは番組終了後、続々と発売されたが、昭和59年9月から、新たにMSVシリーズというオリジナル路線が登場した。MSVとは、モビルスーツバリエーションの略で、番組中では登場しなかったMSだが、サンライズが新たに設定をおこし、発売されたものだ。第1弾は「MS－06Rザク」であった。



▲MSV〝ジムキャノン〟

で「機動戦士Zガンダム」が放映を開始したが、MSVもゲストメカ的な扱いで登場しており、〝グフ飛行型〟〝ジムスナイパーカスタム〟〝ザクキャノン〟などが、画面に登場した。しかし、あくまでもゲストとして登場させたせいか、画面内では活躍が、ほとんど描かれておらず、違和感はいなめなかった。ちなみに「ZZ」でもMSVは登場している。

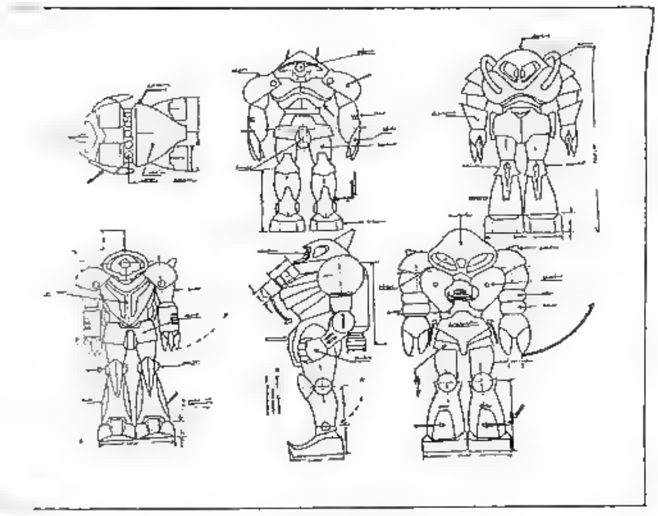


▲MSV〝グフ飛行型〟

製作されなかったMS

左の設定書は、「機動戦士ガンダム」のときに描かれた設定書だが、本編にはワンカット登場しただけのMSだ。

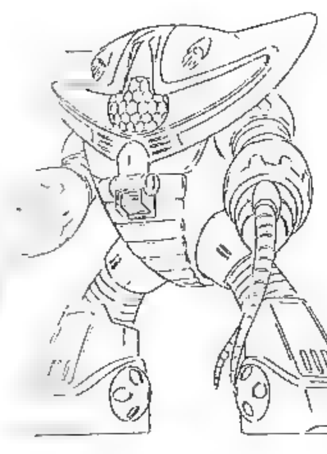
実はこれ、第26話「復活のシャア」で使用されたもので〝連邦軍が入手したジオンの新型重MSのデータ〟として画面に登場したのだ。もちろん、線画のみで、チラッと登場しただけだ。



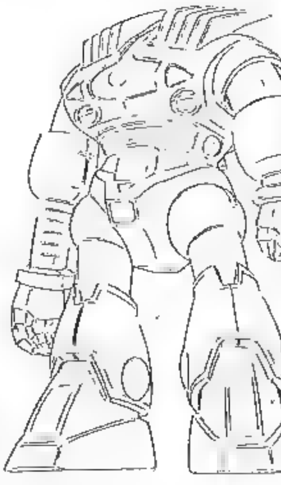
▲モニターにうつったMS

陽の目をみたMS

「機動戦士ガンダム」は当初全52話として企画されていたが、放映回数が短くなり、全43話となったため、登場が予定されながら画面に出ないMSもあった。〝アッグガイ〟〝ジュアッグ〟等4種がそれだが、プラモ人気に乗って商品化され「ZZ」では、ついに画面に登場したものもあった。



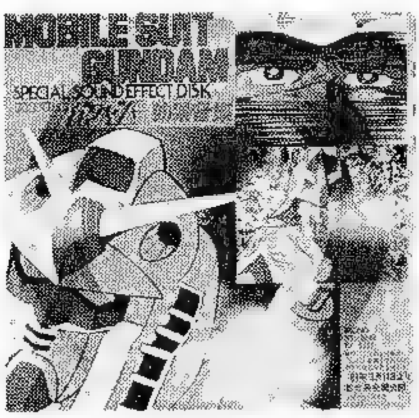
▲アッグガイ



▲ゾゴッグ

「AM」フロクのSE集

「AM」81年4月号には、「ガンダム」映画公開を記念して左の〝「ガンダム」効果音ソノシート〟がついた。MSの音などを収録したもので、当時大反響を呼び、この付録のついた号は完売を記録した。



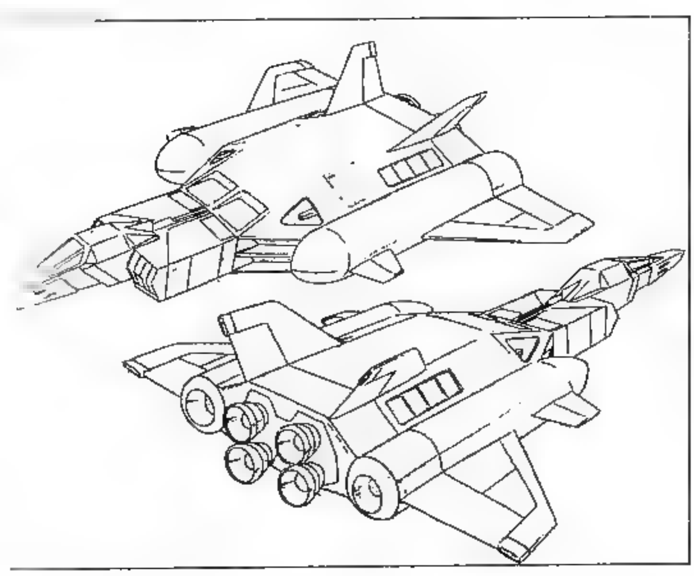
▲いまや貴重品のSE集だ

劇場用メカニック

「ガンダム」が映画化されたとき劇場用新作シーンのために、いくつかの設定が描きおろされた。キャラクターでは、ギレンの秘書、セシリア・ア[illegible]ックでは、オプションパーツ、コアブースターと、シャアがサイド6で使用するエレカーが設定された。

コアブースターというメカは、MSにくらべると地味な存在であったが、白い機体が暗黒の宇宙によく映え、スクリーン映えするメカであった。

また、コンセプト自体も非常に理にかなっており、いかにもガンダムメカであった。



セイラ登場の秘密

シャアことキャスバル・レム・ダイクンの妹として、旧作で活躍していたセイラ・マスことセイラさんは、当初、「Z」、「ZZ」ともに登場する予定はなかった。これにはいろいろな事情があるのだが、「Z」第37話「ダカールの日」では、シャアの演説シーンで、また「ZZ」でもリィナを助ける役で登場している。これはファンの要望があったのと、スタッフからのサービスだった。



実在の人がモデル

左の設定は「ZZ」の後半にチラリと登場するMSパイロットだが、じつはモデルが存在するのだ。モデルとなったふたりとは「ZZ」のキャラクターデザイナーの北爪宏幸さんが主宰するアニメスタジオ〃ぱっく〃(現・アトリエ戯雅)の原画マンだった小曽根正美さんと山下明彦さんなのだ。



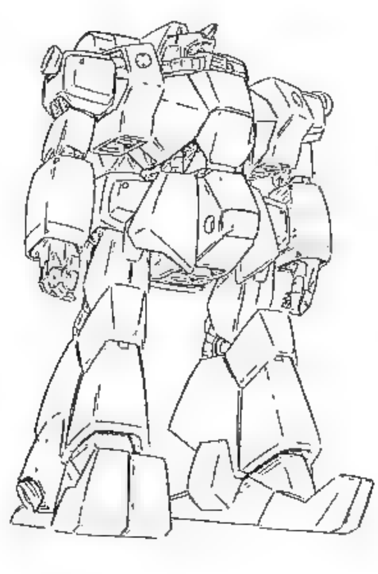
▲浅香　唯の大ファン、小曽根さん



▲義理人情に厚いという山下さん

○○○かな…

「Z」の第14話でハヤトの勤める戦争博物館にはガンキャノン108などと並んで「ザブングル」のウォーカーギャリアが展示されていた。う〜ん、惑星ゾラは未来じゃなく、過去の地球だったのか。



カスタムメイド

「ガンダム」の世界では、登場するパイロットのヘルメットや装備がカスタムのものが多い。シャアのマスクや赤いザクもそうだし、左に並べた各キャラクターのヘルメット[illegible]されている。どちらかというと連邦軍よりもジオン公国軍に、この傾向が強い。しかし、実際の戦争でも機体にパーソナルエンブレムを描くことがあるので、珍しい事ではない。

それにしても、マ・クベのMSギャンなんて、いかにも彼専用という感じであった。



▲MSギャンを操縦するマクベ大佐



▲ミライの想い人、スレッガー・ロウ



▲MAビグロに搭乗するトクワン少尉

放映終了後より評価が高まり、ファンの熱気が実現させた記念すべき映画化第1作。
スタッフはTVシリーズと同じ編成で、全国松竹系にて公開された。



▲「機動戦士ガンダム」劇場版第1作のタイトル画面　主題歌の作詞、作曲は谷村新司

●解説
映画化の公式発表は昭和60年10月9日に行われた。
製作は日本サンライズ。松竹配給だった。この時期のインタビューで富野喜幸総監督は〝全4部作で製作予定〟との発言があったが、最終的に旧「ガンダム」が3部作で完結したのは周知のとおりである。
第1部の内容はTV版第1話「ガンダム大地に立つ」から第14話「時間よ止まれ」までをまとめたもので、主人公アムロとガンダムの出会いから、WB搭乗員になって地球に降下、ガルマの死ぬまでを描いていた。この映画化により、ガンダムブームは加速を続け、前売券だけで50万枚という売上げを記録している。（上映時間137分）

●スタッフ
■企画／伊藤昌典、山浦栄二　■原作／矢立 肇、富野喜幸　キャラクターデザイン／安彦良和　メカニカルデザイン／大河原邦男　■美術設定／中村光毅　■シナリオ／星山博之、松崎健一、山本 優、荒木芳久　■総監督／富野喜幸　■グランドプロデューサー／岸本吉功　ほか


▲ガンダムのマニュアルを読むアムロ


▲シャアには打倒ザビ家の目的が……


▲陰謀に陥しいれられガルマは散った

第1部のヒットにつづいて、公開された第2部。〃哀・戦士編〃というサブタイトルがつけられていた。主題歌は井上大輔の歌う「哀・戦士」と「風にひとりで」で、ともにヒットしている。

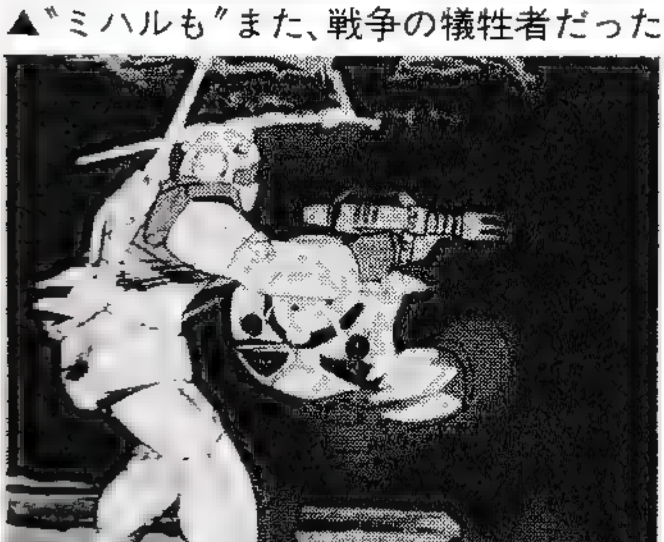

▲松竹系映画館で公開前に流された「機動戦士ガンダムⅡ〜哀・戦士編」の予告タイトル

●解説
映画版第1部が公開されたとき、最後につぎのようなナレーションが流れた。
――7月にきみはアムロの第2の出発(たびだち)を見る。きみは生きのびることができるか――
これは第2部へのメッセージだった。また昭和56年7月11日に第2部〃哀・戦士編〃が公開された。第2部は第31話「ザンジバル追撃」までで、ランバ・ラル、トリプルドムの戦いからジャブローの攻防戦を経て、ホワイトベースが宇宙に飛立つまでがまとめられていた。
この第2部では、前作よりも新作、再構成部分が多く、個々のエピソードも順序が入れ変わっている。(上映時間139分)

●スタッフ
■製作／岸本吉功 ■企画／山浦栄二、伊藤昌典 ■原作／矢立肇、富野喜幸 ■総監督／富野喜幸 アニメーションディレクター／安彦良和 ■シナリオ／星山博之、荒木芳久、山本 優、松崎健一 ■キャラクターデザイン／安彦良和 ■メカニカルデザイン／大河原邦男 ■音楽／渡辺岳夫、松山祐士 ■美術監督／中村光毅 ほか


▲〃黒い3連星〃のリーダー、ガイア


▲〃ミハルも〃また、戦争の犠牲者だった


▲シャアのズゴックがGMを倒す！

劇場版3部作の完結編。公開は昭和57年3月13日であった。第1、2作とちがい、かなりの部分が劇場用新作画になっており、劇場版「ガンダム」のなかではいちばんの完成度を誇る。



▲完結編「機動戦士ガンダム〜めぐりあい宇宙編」のタイトル画面

●解説

第3部は〝めぐりあい宇宙(そら)〟というサブタイトルが付けられており、内容はTV版第32話「強行突破作戦」から最終回である「脱出」までをまとめたものであった。

全体の90%以上が新作であり。作画のクオリティも高く、完結編を飾るにふさわしい作品であった。(上映時間140分)

※スタッフについては、第2部と同じなので省いてあります。

★おまけその1〔劇場版宣伝コピー〕

ここでは、映画公開時に作られた宣伝コピーを再録しました。当時の雑誌、新聞広告や、TVCMで使用されています。

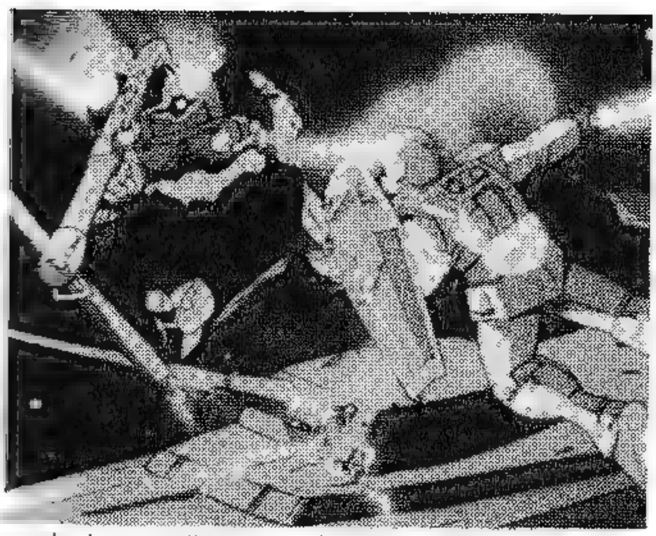
■第1作「青春の熱い魂に出逢える、この瞬間に未来ははじまった」

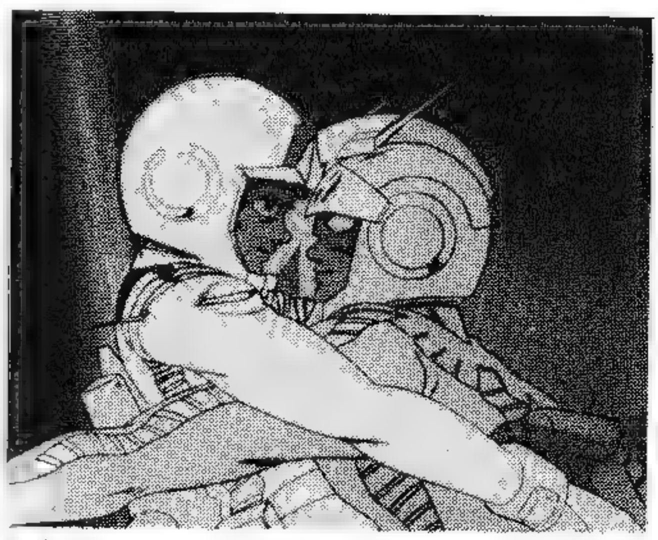
■第2作「哀の地平に目覚(めざ)めるか 愛」

■第3作「震えるか宇宙(そら)、めぐりあえよ生命(いのち)」

★おまけその2

ちなみに、こんどの新作劇場版「機動戦士ガンダム 逆襲のシャア」の宣伝コピーは、「君(きみ)はまだ本当のガンダムを知らない」となっている。

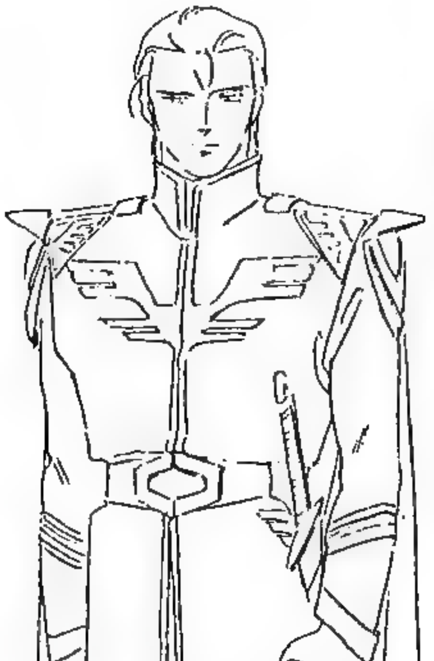

▲宇宙に展開する凄絶なMS戦


▲宿命の対決を迎えるシャアとアムロ


▲ラストにニュータイプ能力を発揮

機動戦士ガンダム
GUNDAM
逆襲のシャア

4作目の「ガンダム」として来年3月に映画公開される「逆襲のシャア」の設定を、一挙公開！





▲総師となったにもかかわらず、相変わらず自ら最前線へと赴くシャア

▲[illegible]
[illegible]姿[illegible]ダンディでシブイ。予想どおりの姿といえよう

▲通常時におけるコスチューム。やはり彼にはこういう服が似合う

▲ネオ・ジオンを掌握したシャア・アズナブルの正装姿。一見、彼はもう迷いを捨てたようだが…



▲髪の毛をおろした状態のクェス





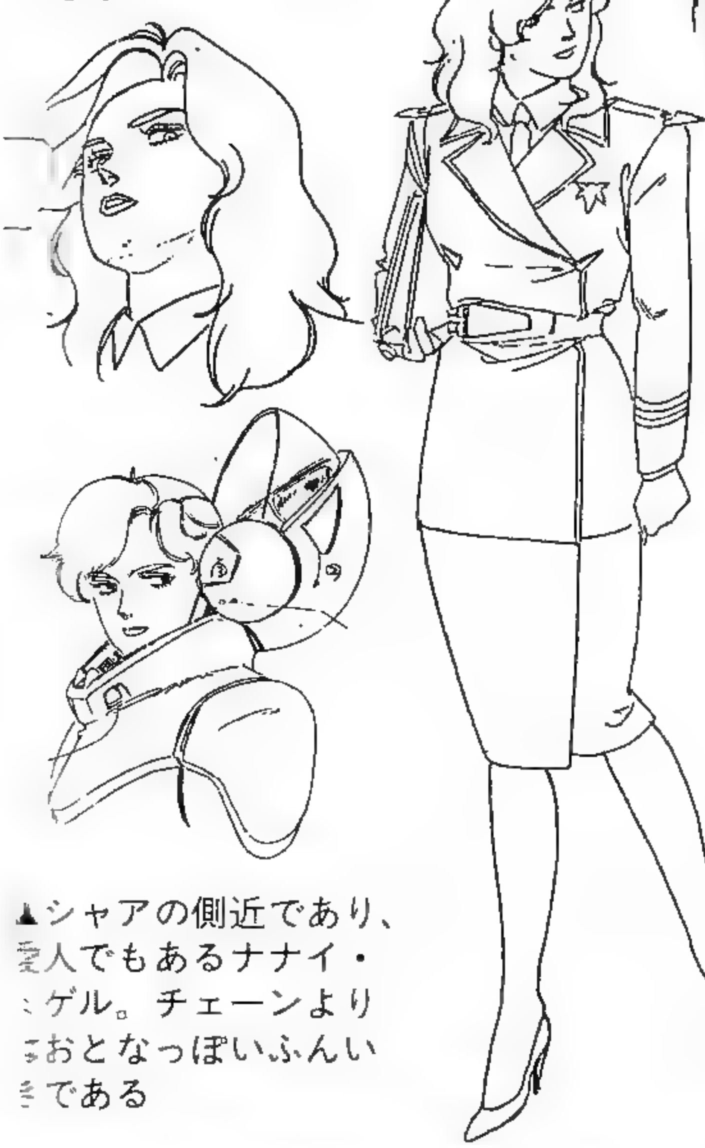
▼下着姿もなかなかにカワイイ

▲若さゆえの情熱と不思議な感性を合わせ持った少女、クェス・パラヤ





▲ネオ・ジオンの軍服を着た姿。彼女はヤクト・ドーガに乗ることになる



▲シャアの側近であり、愛人でもあるナナイ・ミゲル。チェーンよりもおとなっぽいふんいきである



▲ベルトーチカに代わる存在として登場するチェーン・アギ。アムロにνガンダムの秘密を知らせようとする途中、死亡













◀今回は指揮官としての役割もになうアムロ・レイ。シャアの地球破壊を阻止すべく再度戦う



▲年月は経てど、彼の表情は10代のころとあまり変わらない。いまも、やはりその心のなかは純粋なのだ



▲優しさをニュータイプの本質と信ずる彼は、シャアの意志を危険だと信じた



◀今回の劇場用に、新たに描かれた、ララァ・スンの設定。少し体格がよくなっているようである







◀シャアとアムロのふたりの男を、死後も見守りつづけるララァは、最後にふたりの魂を受けとめる

▶ブライトの妻、ミライ・ヤシマ。まちがえではなく、なぜか旧姓を名乗っている。ハサウェイひとりを宇宙に送り出し、自分とチューミンは地上に残る





▼またしても艦長として登場するブライト・ノア。今回は連邦軍ロンド・ベル隊の指揮官でもある



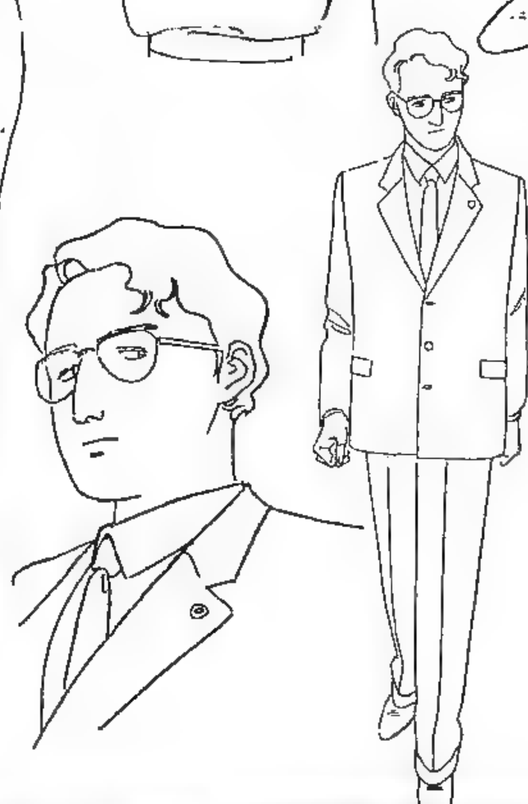






◀ブライトとミライの娘、チューミン・ノア。「Z」で登場して以来、あっという間に可愛いく育った







▶旧作以来の登場となるカムラン・ブルーム。サイド6でかつての婚約者であるミライの夫、ブラ[illegible]

▲ノア家の長男、ハサウェイ・ノア。クェスと感応し、そして彼女を殺してしまう。彼は第2のアムロなのだ





▲ギュネイ・ガス。今作に登場する、唯ひとりの強化人間。精神的な平衡を、かなり失っている。

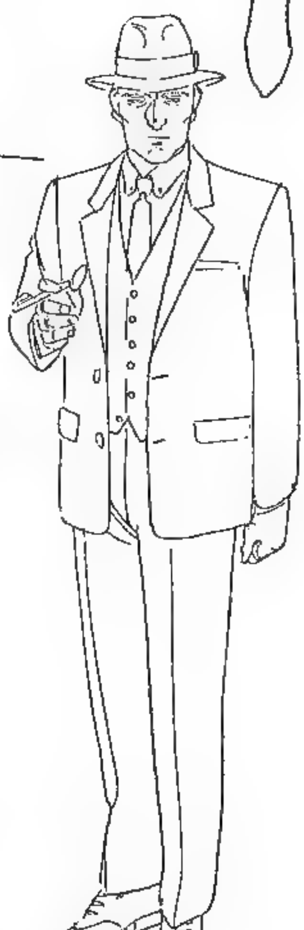
▼ロンド・ベル隊の女性MSパイロット。あわれにもギュネイと戦い、死亡する。





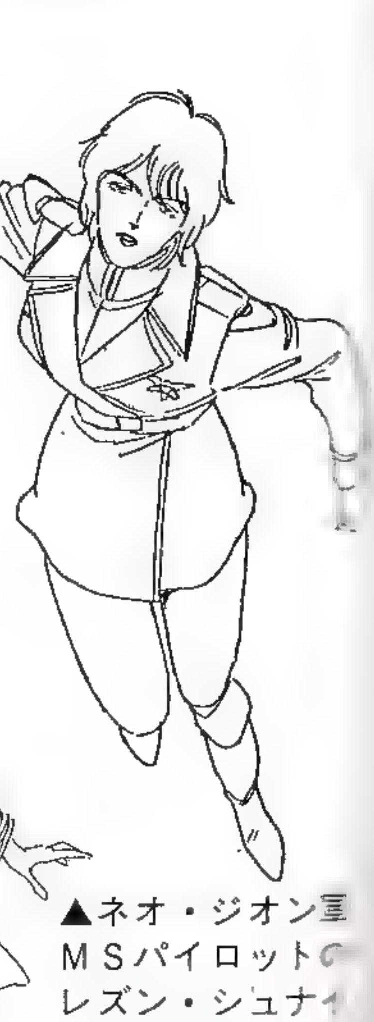




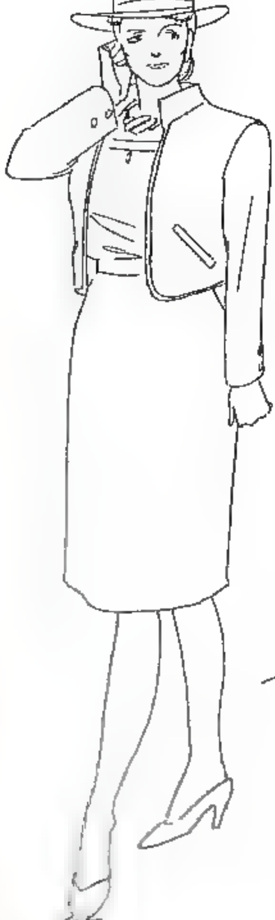


▲連邦政府の全権大使であり、クェスの父親でもあるアデナウヤー・パラヤ



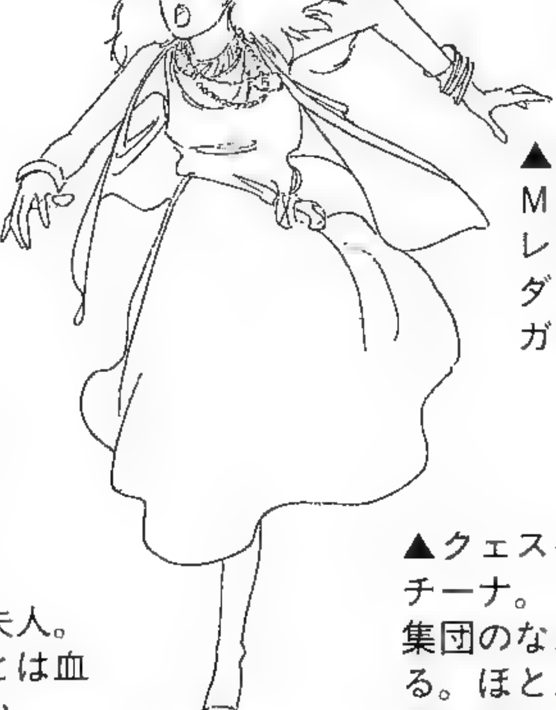


▲ネオ・ジオン軍MSパイロットのレズン・シュナイダー。ギラ・ドーガを操縦する



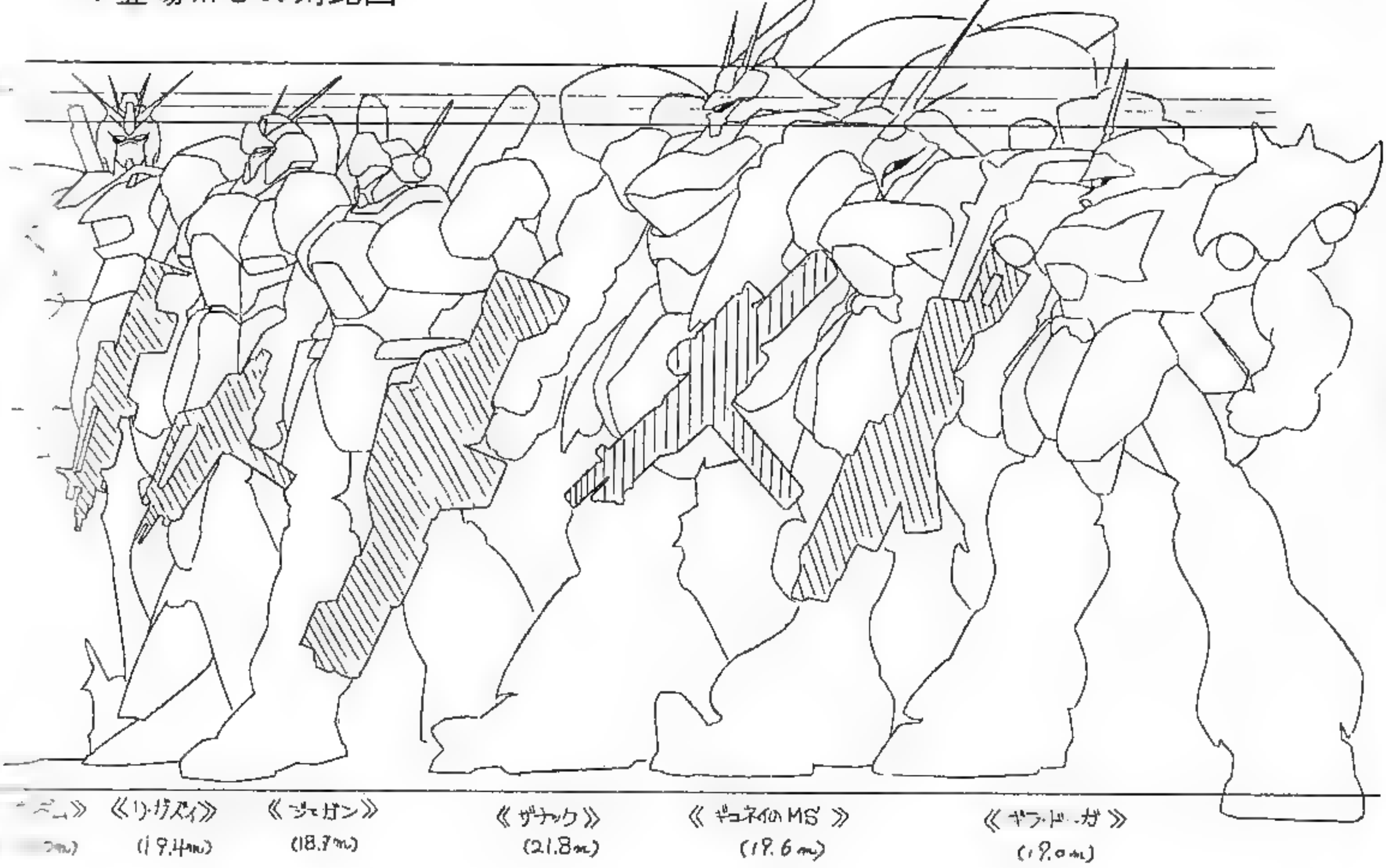


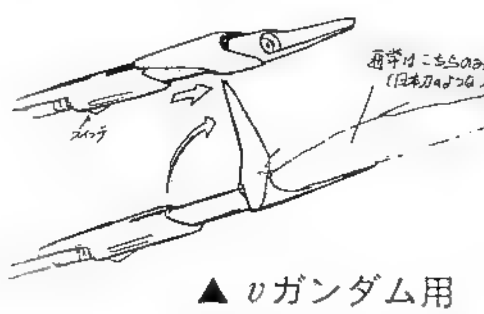
▲アデナウヤー夫人。しかし、クェスとは血のつながりはない



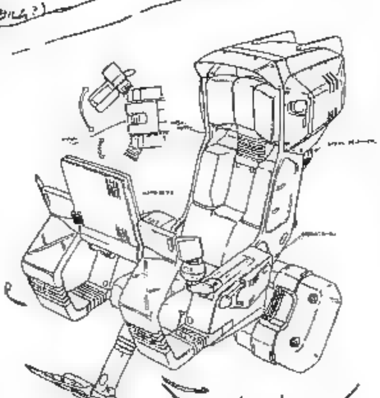
▲クェスの友人、クリスチーナ。自然主義者(?)集団のなかのひとりである。ほとんど画面には登場しない

▼登場ＭＳの対比図

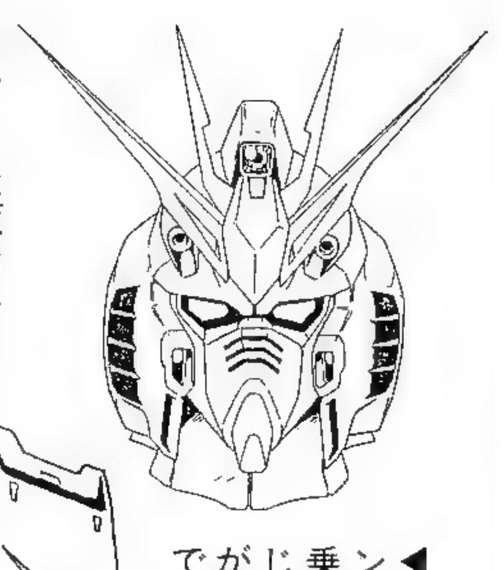


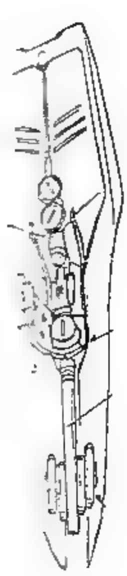


▲νガンダム用ビームサーベル。柄のほうからもビームを出せる

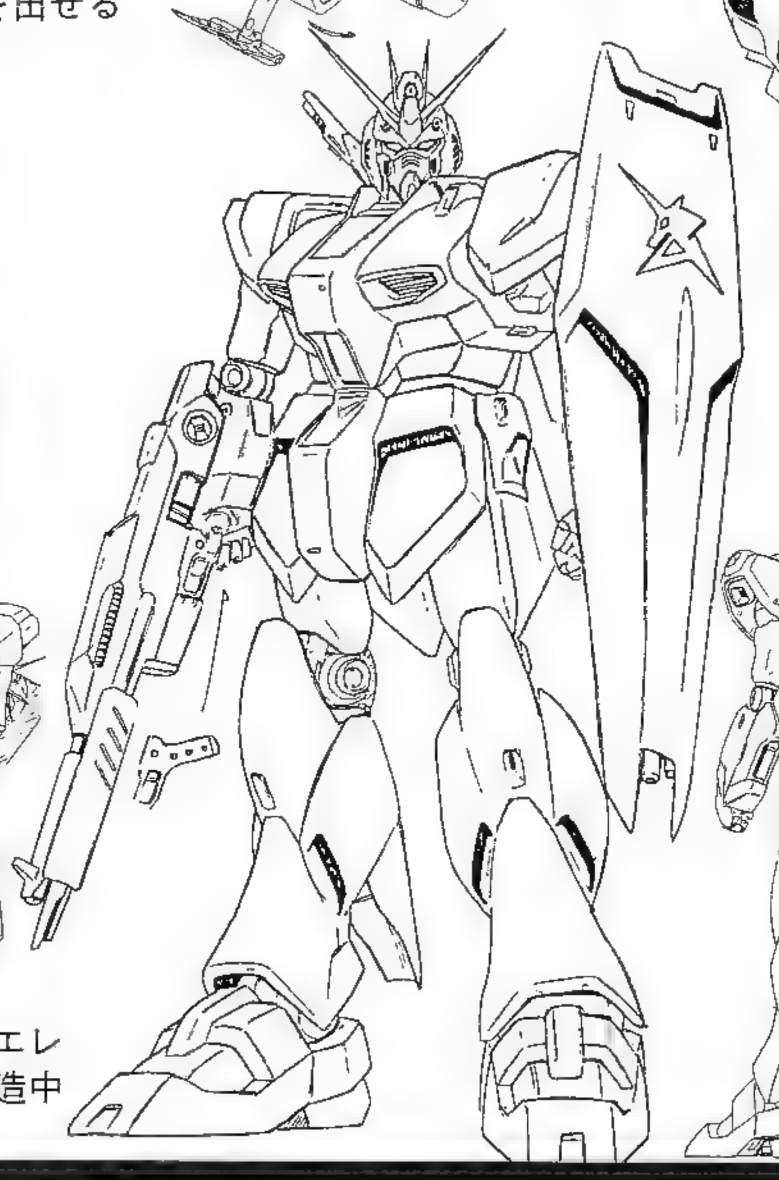


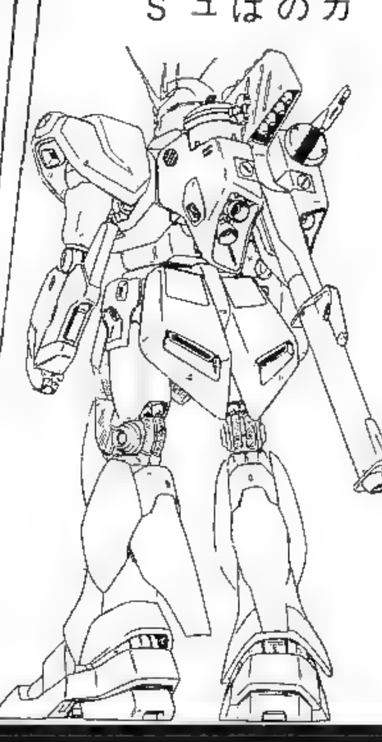
◀シートは変わらずにリニアシステム採用



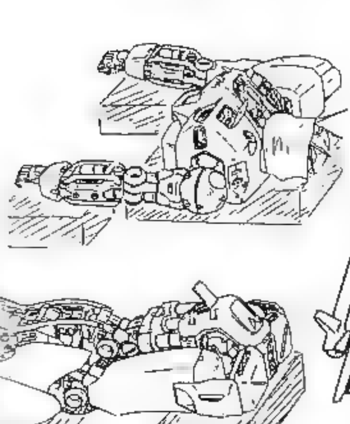


◀バインダーの裏には、ビームキャノンX1、小型ミサイルX2が装備されている

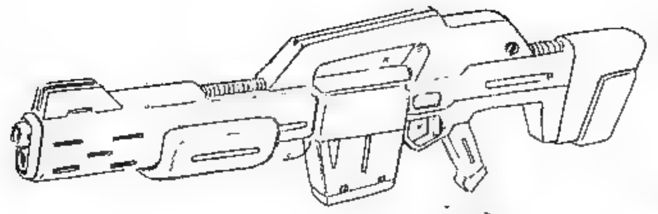




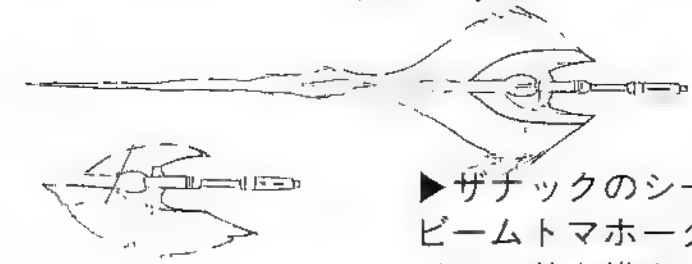
◀RX―93、νガンダム。アムロの乗機としては、はじめてサイコミュが装備されたMSである



▲月面のアナハイムエレクトロニクスにて製造中のνガンダム



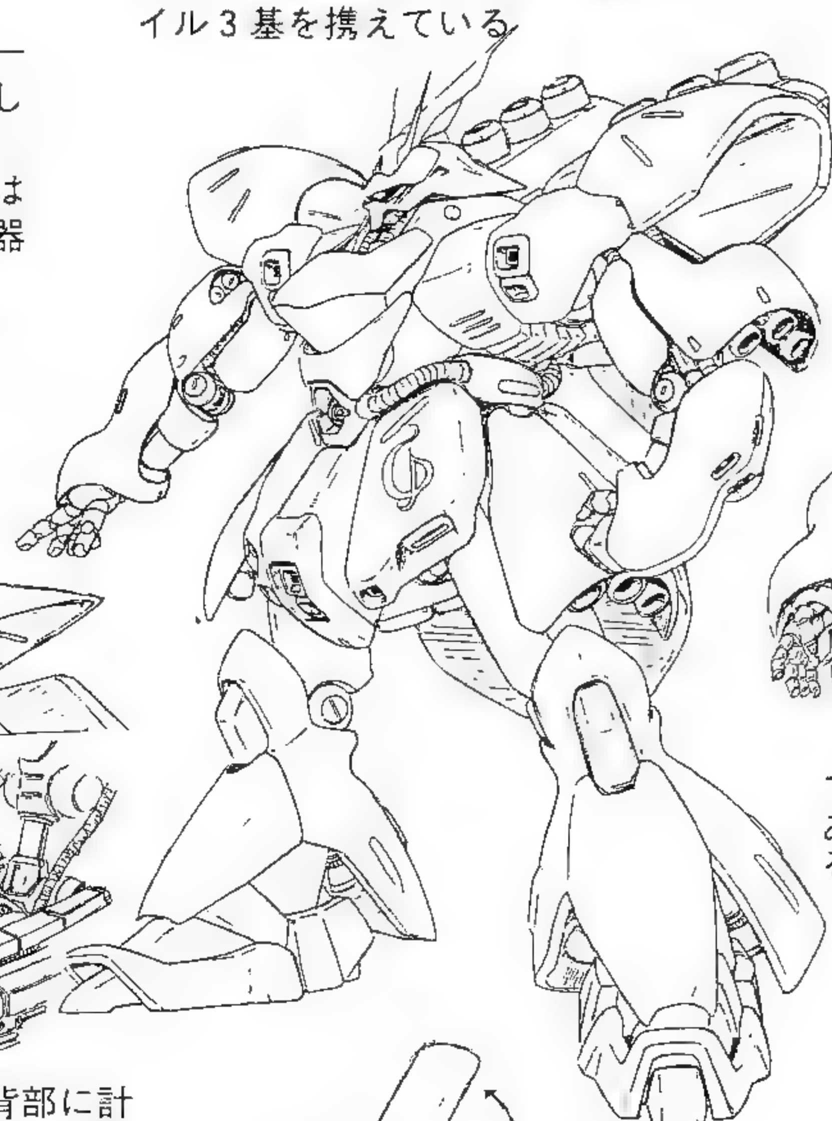
◀サザビー用、多目的ビームショットライフル。通常のビームのほかに拡散ビームが射てる

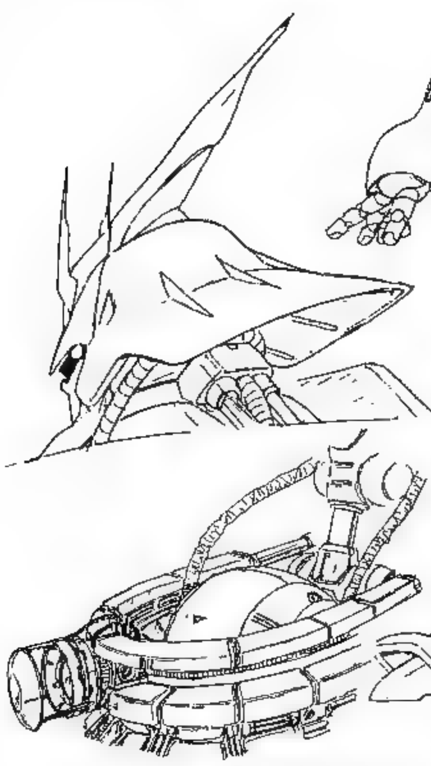


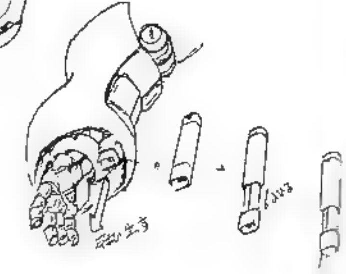
▶ザナックのシールドは、裏面にビームトマホークおよび小型ミサイル３基を携えている



▲ビームトマホーク。サーベルとしても使用できる、白兵戦用としては非常に有効な兵器といえよう

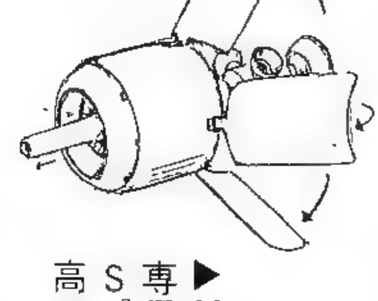


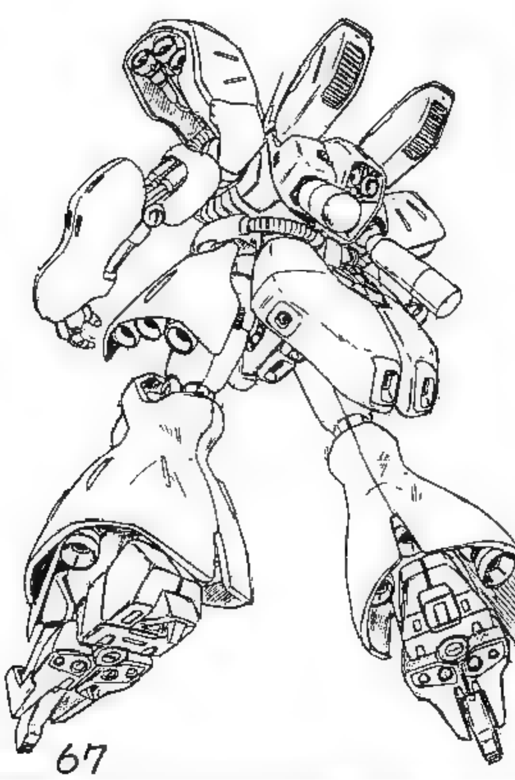




▲ザナックのビームサーベル、エジェクトアクション。エルガイムのセイバー方式である

▶ファンネルは背部に計６基、ヤクト・ドーガと同じ物を装備

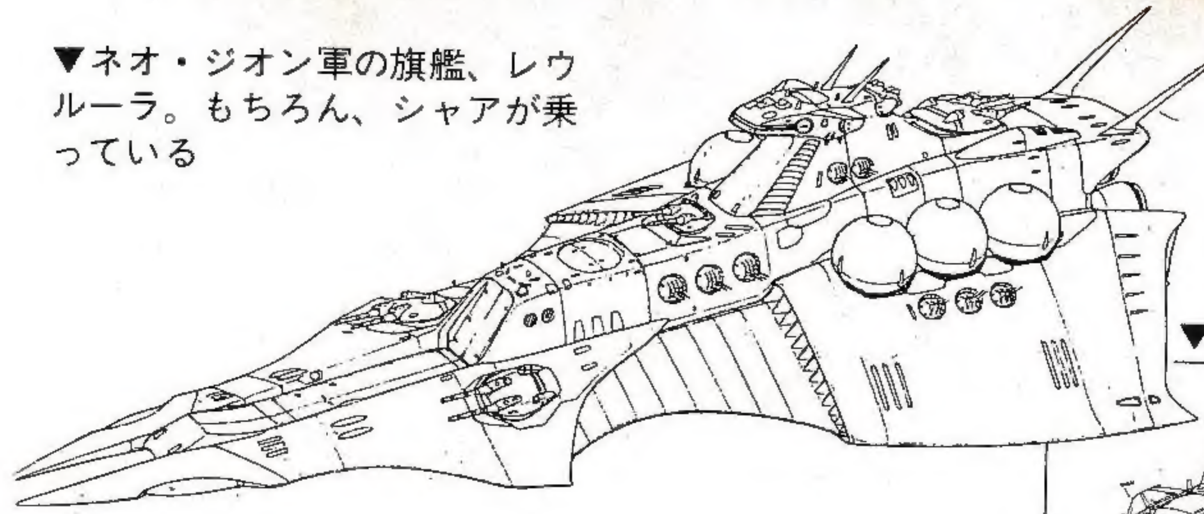




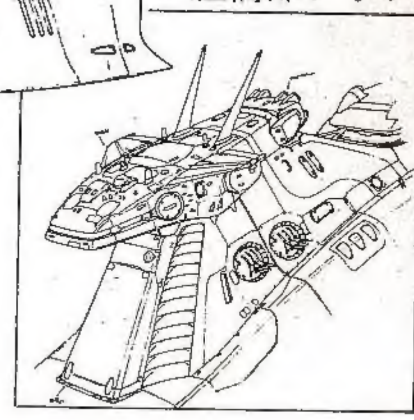
▶MSN-04、サザビー。シャアの専用機として開発された、真紅のMS。この時代のMSのなかでは、最高の能力を誇っている



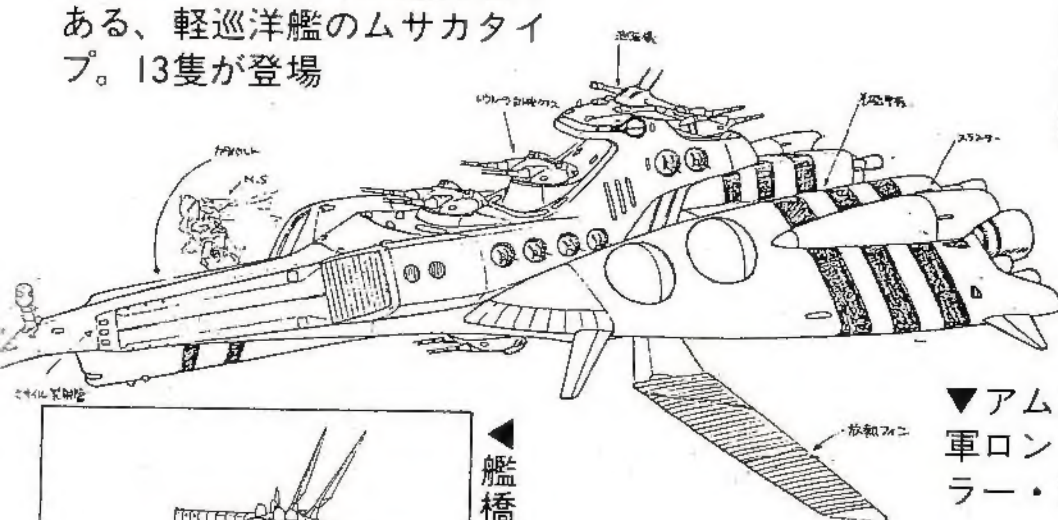
▼ネオ・ジオン軍の旗艦、レウルーラ。もちろん、シャアが乗っている



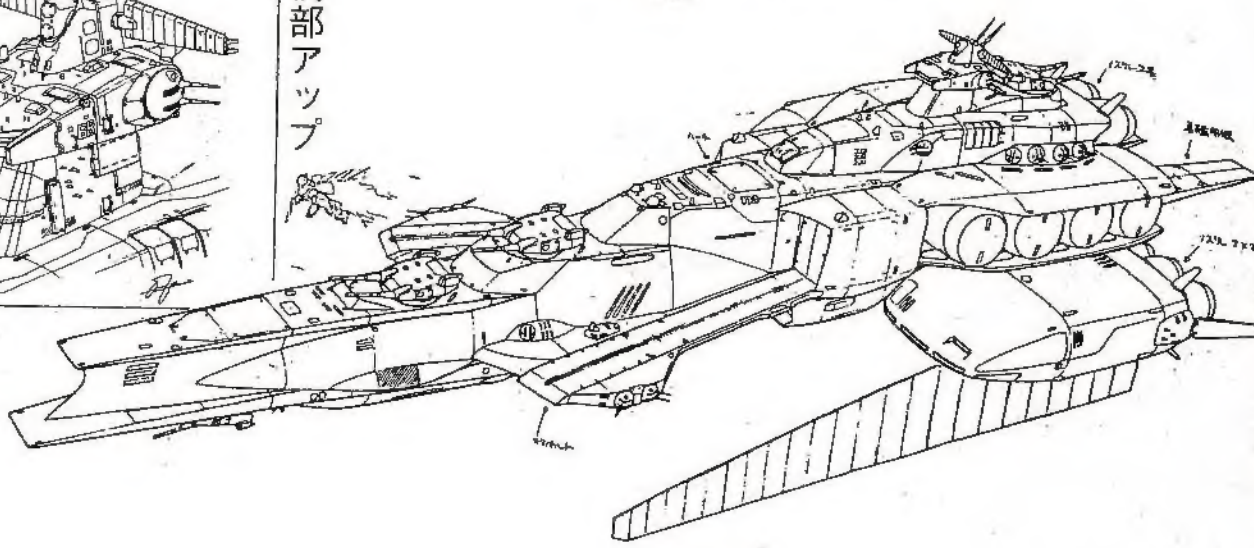
▼艦橋部アップ



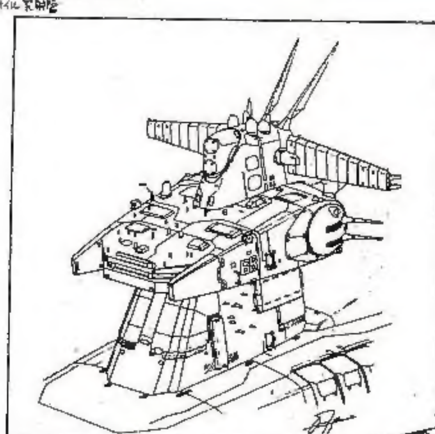
▼ネオ・ジオン軍の主力艦である、軽巡洋艦のムサカタイプ。13隻が登場

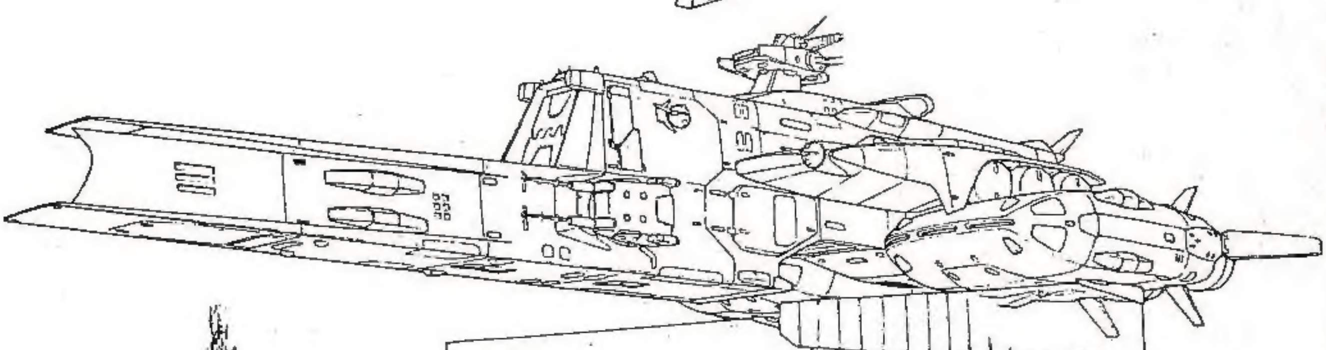


▼アムロたちの乗る、連邦軍ロンド・ベル隊の指揮艦ラー・カイラム

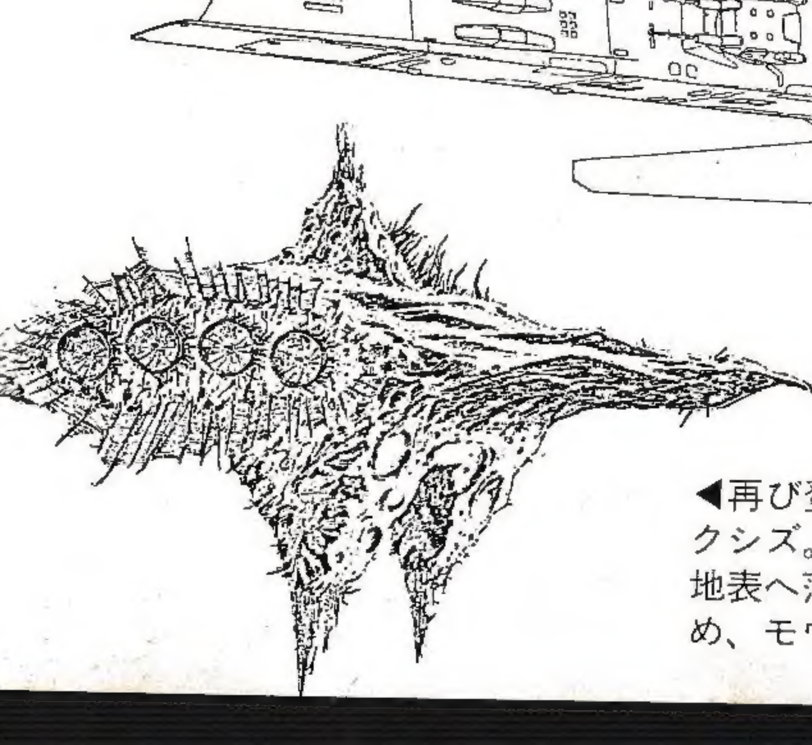


◀艦橋部アップ





▲連邦軍の主力軽巡洋艦。ロンド・ベル隊には3隻が配備されている。連邦軍はこの部隊のほかには、ほとんど出撃していない



◀再び登場する、小惑星基地アクシズ。シャアは最後にこれを地表へ落とそうとする。そのため、モウサははずされている

ガンダムSTAFF リスト

機動戦士ガンダム (S54年4月7日～S55年1月26日)全43話

■STAFF
企画／日本サンライズ　原案／矢立　肇　原作・総監督／富野喜幸　キャラクターデザイン／安彦良和　メカニカルデザイン／大河原邦男　美術設定／中村光毅　アニメーションディレクター／安彦良和　音楽／渡辺岳夫、松山祐士　音響監督／松浦典良　撮影／旭プロダクション他　編集／鶴渕友彰　現像／東京現像所　プロデューサー／関岡　渉、大熊伸行、渋江靖夫　製作／名古屋テレビ、創通エージェンシー、日本サンライズ

■CAST
アムロ・レイ／古谷　徹　ブライト・ノア／鈴置洋孝　シャア・アズナブル／池田秀一　セイラ・マス／井上　瑤　ミライ・ヤシマ／白石冬美　フラウ・ボゥ／鵜飼るみ子　ハヤト・コバヤシ／鈴木清信　カイ・シデン／古川登志夫　リュウ・ホセイ／飯塚昭三　マチルダ・アジャン／戸田恵子　ギレン・ザビ／田中　崇　ガルマ・ザビ／森　功至　キシリア・ザビ／小山茉美　ドズル・ザビ／長堀芳夫　ララァ・スン／潘恵子　ナレーター／永井一郎

機動戦士Ζガンダム (S60年3月2日～S61年2月22日)全50話

■STAFF
企画／日本サンライズ　原案／矢立　肇　原作・総監督／富野由悠季　キャラクターデザイン／安彦良和　メカニカルデザイン／大河原邦男、藤田一己　美術／東　潤一　メカニカル作画監督／内田順久　デザインワークス／永野　護　デザイン協力／伸童舎　設定ベース／永瀬　唯　音楽／三枝成章　音響監督／藤野貞義　撮影／旭プロダクション他　編集／布施由美子　現像／東京現像所　プロデューサー／森山　溙、大西邦明、内田健二　製作／名古屋テレビ、創通エージェンシー、日本サンライズ

■CAST
カミーユ・ビダン／飛田展男　ブライト・ノア／鈴置洋孝　シャア・アズナブル／池田秀一　ファ・ユイリィ／松岡美幸　ジェリド・メサ／井上和彦　エマ・シーン／岡本麻弥　レコア・ロンド／勝生真沙子　パプテマス・シロッコ／島田　敏　ロザミア・バダム／藤井佳代子　フォウ・ムラサメ／島津冴子　アムロ・レイ／古谷　徹　ベルトーチカ・イルマ／川村万梨阿　カツ・コバヤシ／難波圭一　ハマーン・カーン／榊原良子　ミネバ・ザビ／伊藤美紀　ナレーター／小杉十郎太

機動戦士ガンダムΖΖ (S61年3月1日～S62年2月28日)全47話

■STAFF
企画／日本サンライズ　原案／矢立　肇　原作・総監督／富野由悠季　キャラクターデザイン／北爪宏幸　メカニカルデザイン／伸童舎、明貴美加　美術／池田繁美　メカニカルベースデザイン／小林誠、出渕裕　メカニカル作画監督／内田順久　デザイン協力／安彦良和、大河原邦男、藤田一己　音楽／三枝成章　音響監督／藤野貞義　撮影／旭プロダクション他　編集／布施由美子　現像／東京現像所　プロデューサー／神谷寿一、稲垣光繁、内田健二　製作／名古屋テレビ、創通エージェンシー、日本サンライズ

■CAST
ジュドー・アーシタ／矢尾一樹　リィナ・アーシタ／岡本麻弥　ブライト・ノア／鈴置洋孝　エル・ビアンノ／原えりこ　ビーチャ・オレーグ／広森信吾　イーノ・アッバーブ／菊池正美　モンド・アカゲ／塩谷浩三　ルー・ルカ／松井菜桜子　マシュマー・セロ／堀内賢雄　グレミー・トト／柏倉つとむ　キャラ・スーン／門間葉月　エルピー・プル&プルツー／本多知恵子　エマリー・オンス／藤井佳代子　ハマーン・カーン／榊原良子　セイラ・マス／井上瑤

昭和62年12月10日発行（毎月1回10日発行）第10巻第12号

THE COMPLETE BOOK OF GUNDAM

ガンダムまるごと入門

THE COMPLETE BOOK OF GUNDAM

Animage '87年12月号ふろく